Dimension
管理者ガイド

ウォッチガード・テクノロジー・ジャパン株式会社
2014 年 8 月 Rev-01

目次

はじめに

この度は、ウォッチガード製品を選択していただき、誠にありがとうございます。

Dimension は、仮想マシン上に簡単に構築できる、セキュリティ可視化ツールです。

本書は、Dimension をすぐに始めることを目的としたスタートアップガイドであるとともに、Administration メニューの全項目を網羅した管理者リファレンスでもあります。

まずは導入がいかに容易か、ウォッチガードが提供する可視化がいかに簡単に実現できるか、さらには MSSP としてサービス展開が容易であり、いかにシンプルに管理できるかを実感していただければ幸いです。

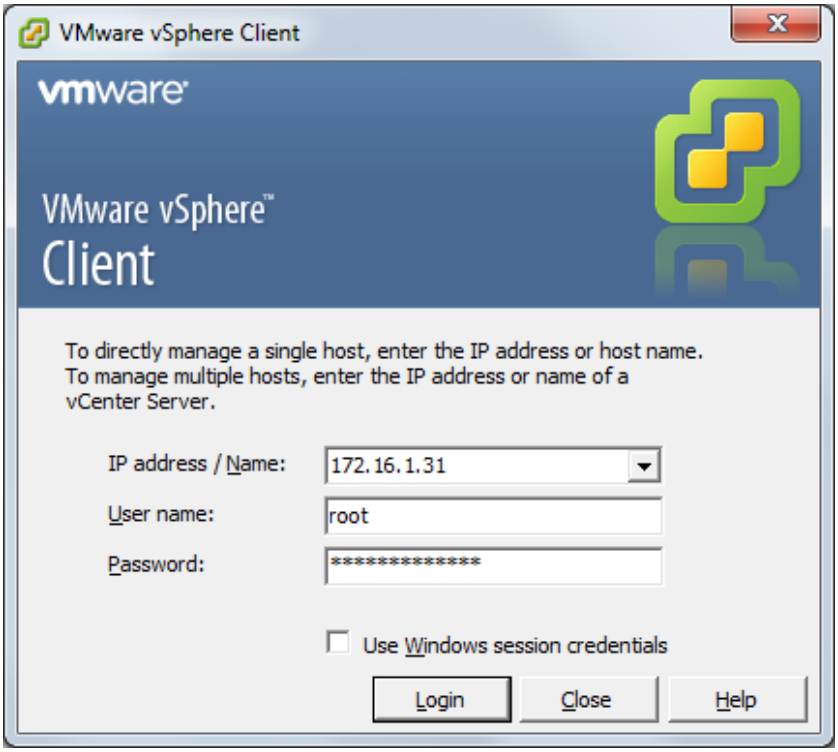
DIMENSION の導入

Dimension は VMWare と Hyper-V の両方に対応しています。

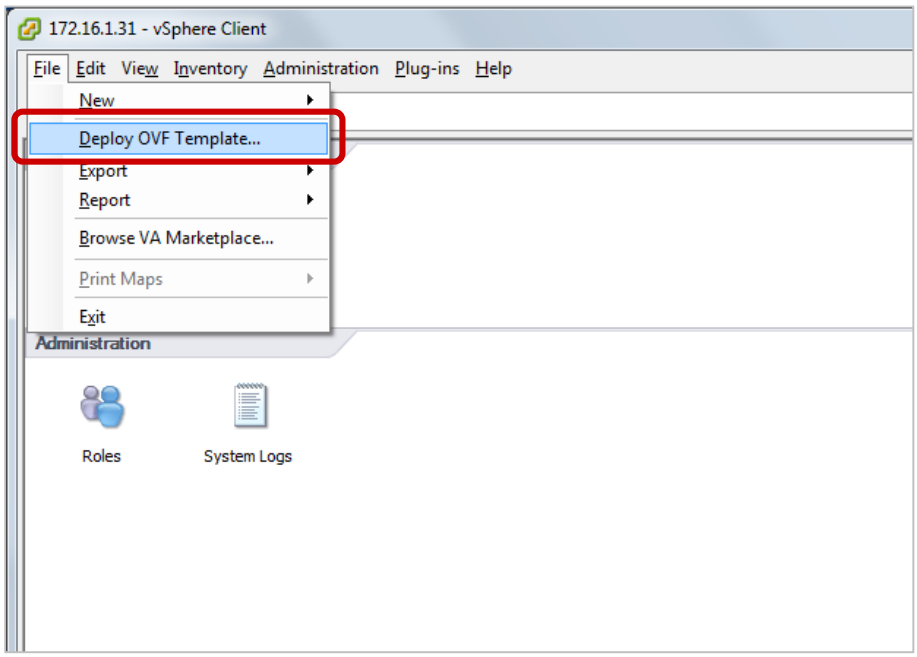
このガイドでは VMWare での導入方法を解説します。

Dimension のデプロイ

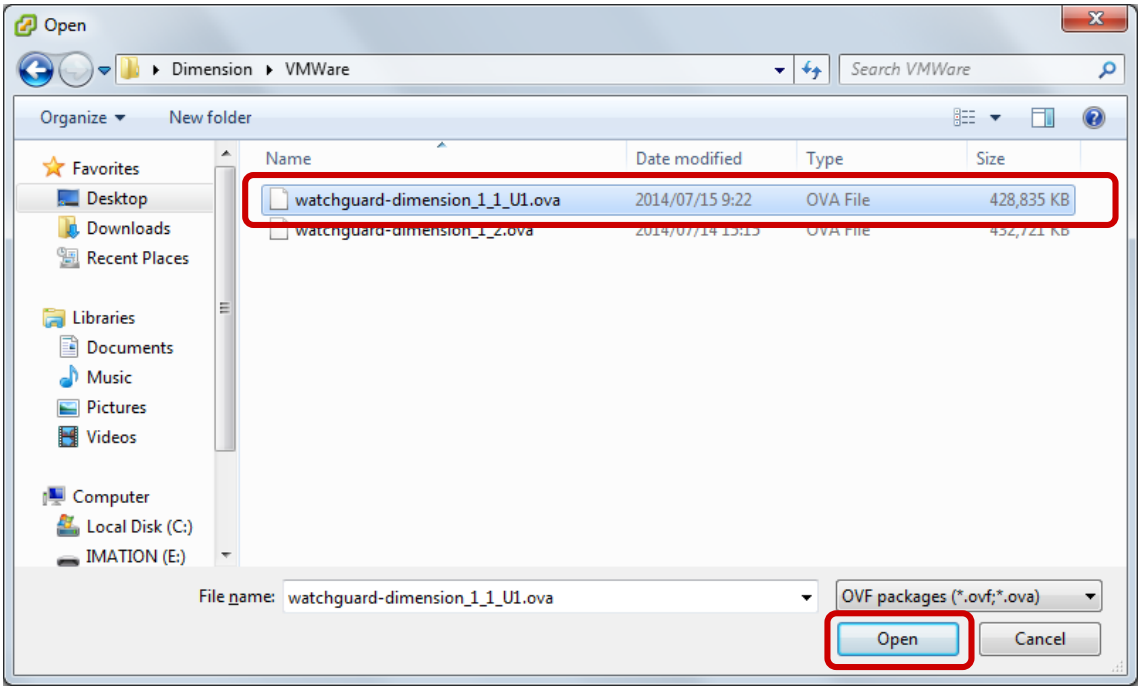
VMWare vSphere Client から VMWare サーバーに接続します。



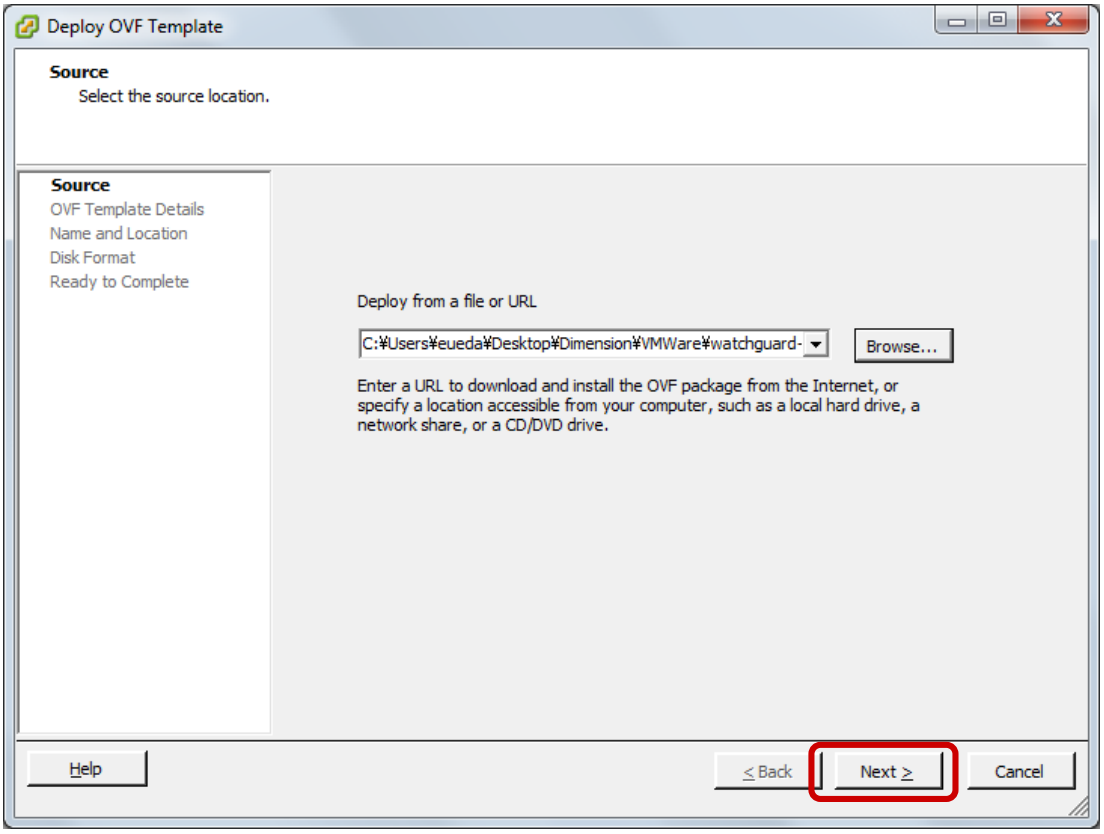
接続できたら、メニューの File ― Deploy OVF Template... をクリックします。



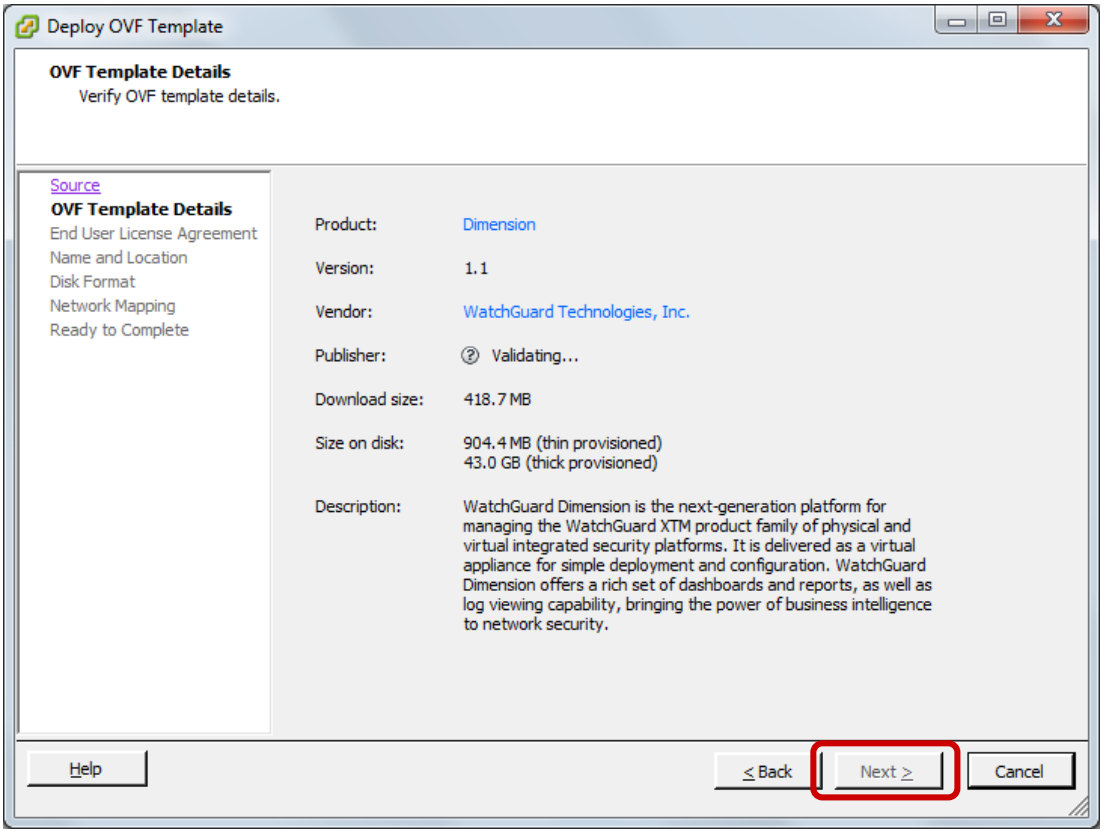
ダウンロードした OVA ファイルを指定し、Open をクリックします。



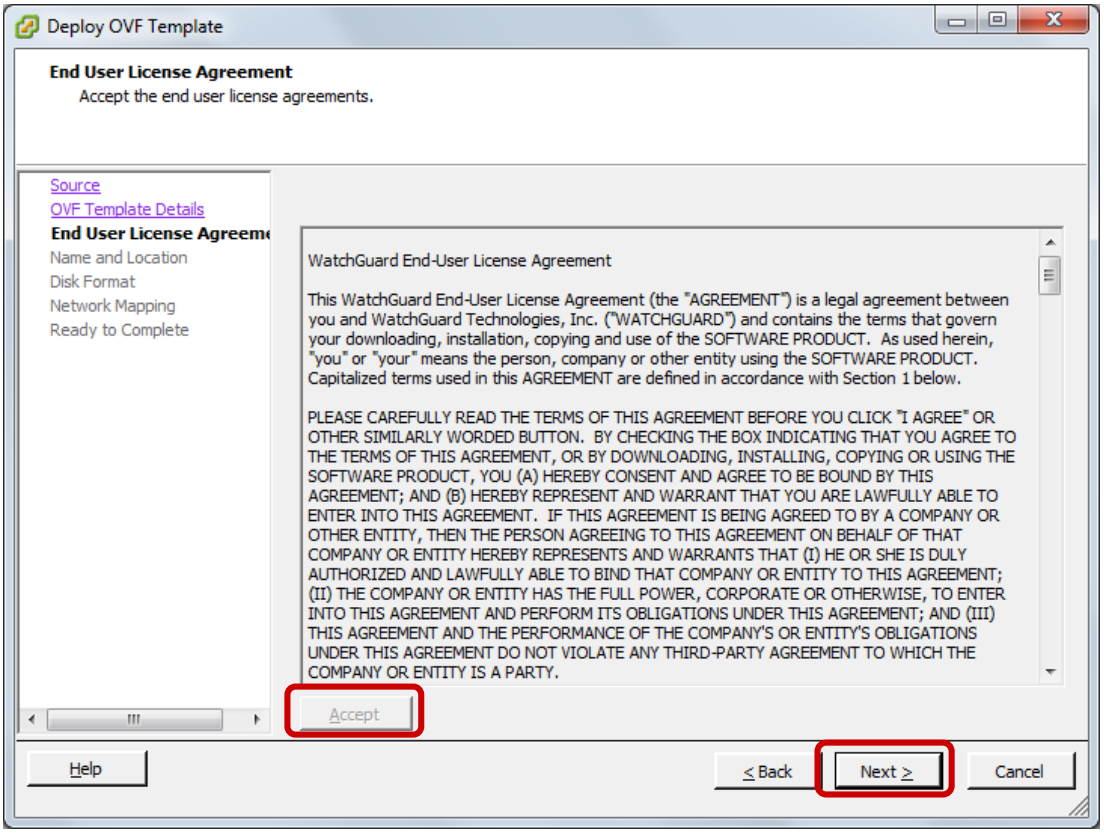
OVA ファイルのフルパスがテキストフィールドに入力されていることを確認し、Next をクリックします。



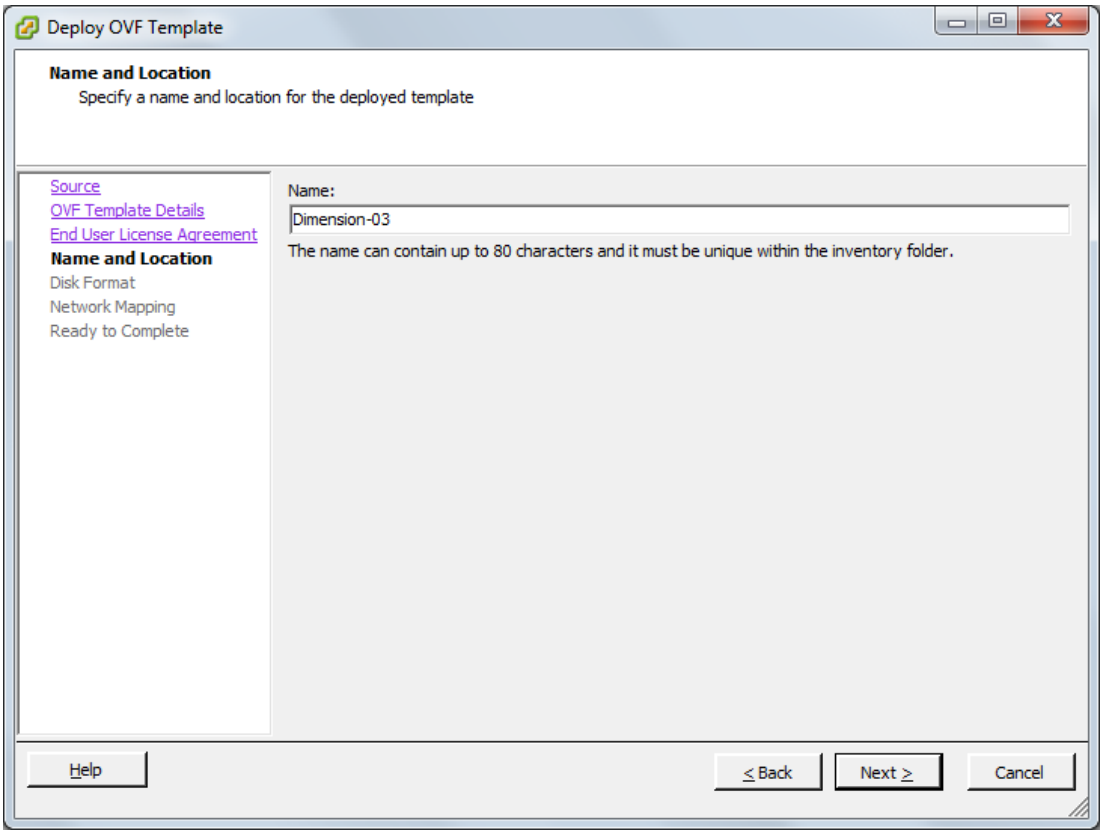
テンプレートの詳細情報が表示されるので、確認して Next をクリックします。



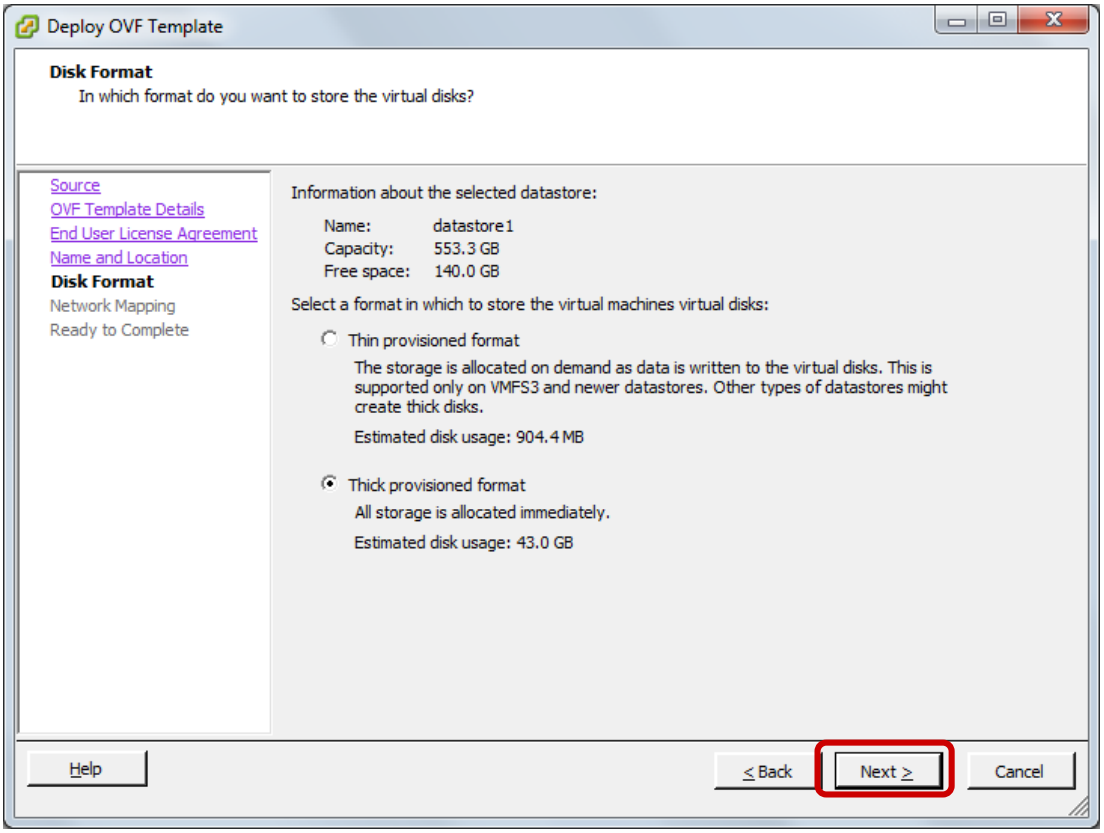
End User License Agreement は Accept ボタンをクリックして Next ボタンをクリックします。



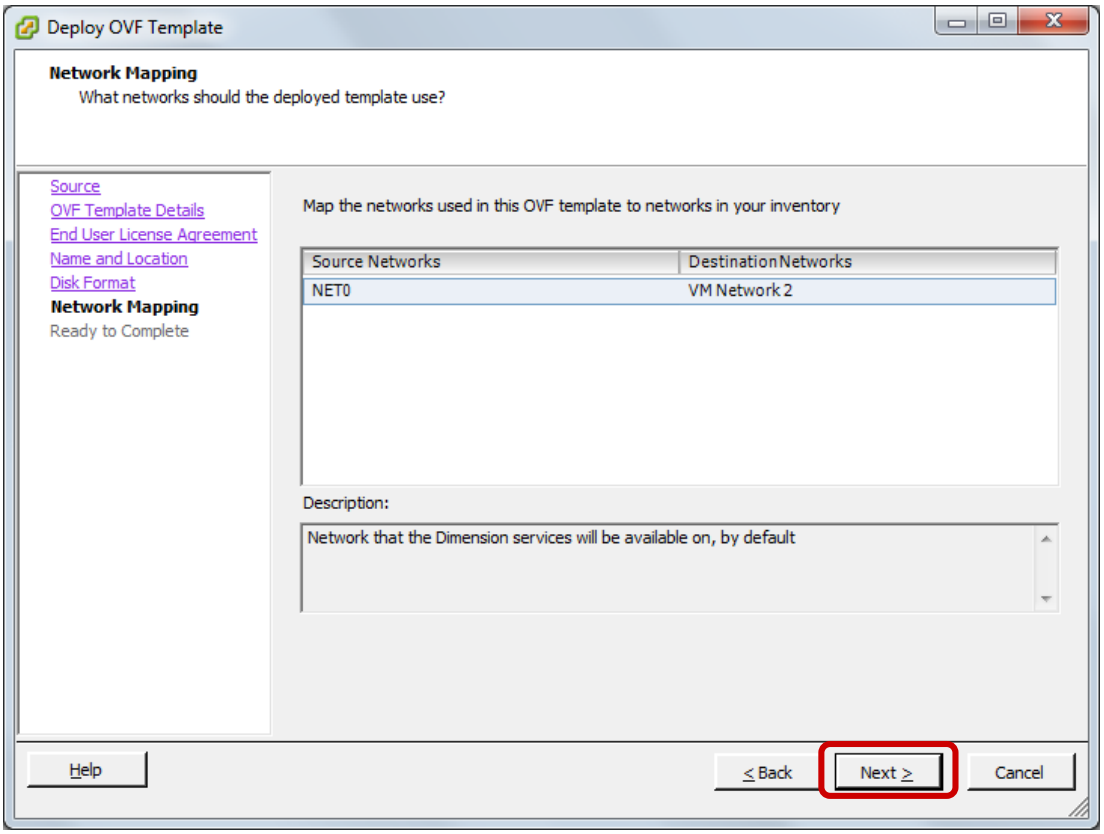
次にデプロイされる仮想マシンに名前を付けます。実際のサーバー名ではなく、vSphere Client 上のインベントリで表示される名前を入力します。



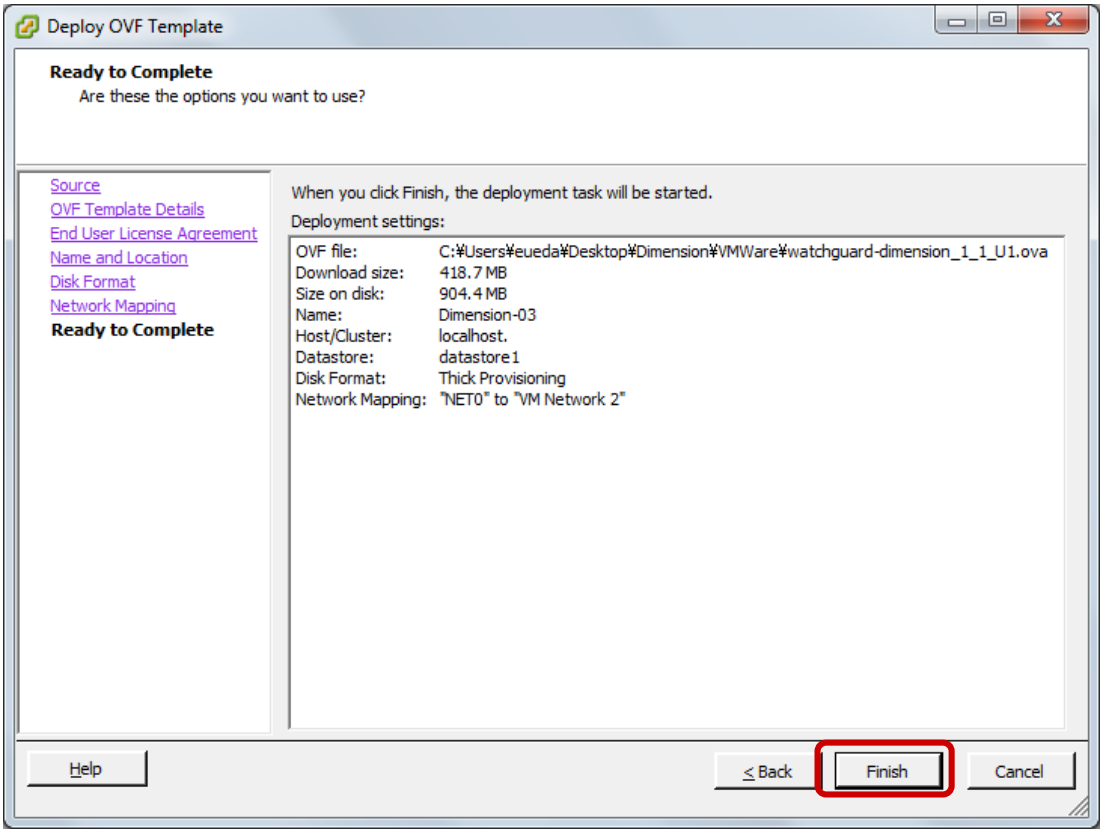
次にディスクの設定です。どちらかを選択して次へ進みます。Thick プロビジョニングが推奨です。



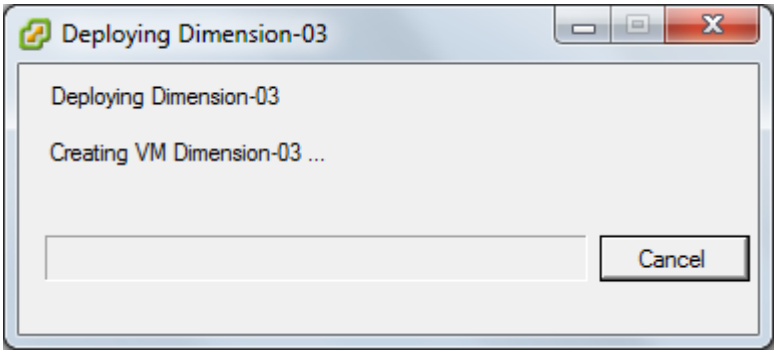
次にネットワーク・インターフェースの設定です。複数のインターフェースがある場合は、どのインターフェースにバインドするか選択する必要があります。



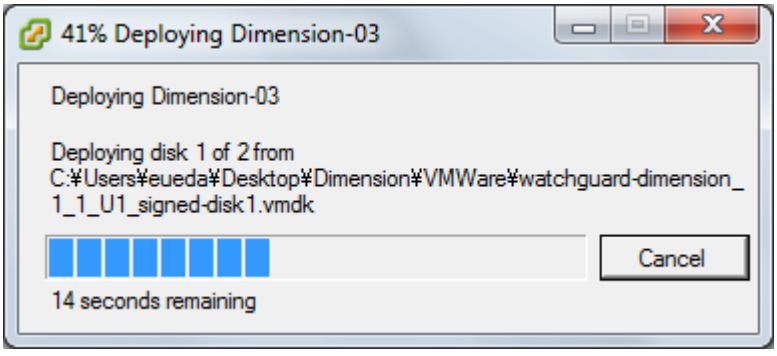
次に進むと、設定のサマリーが表示されますので、確認して次に進みます。



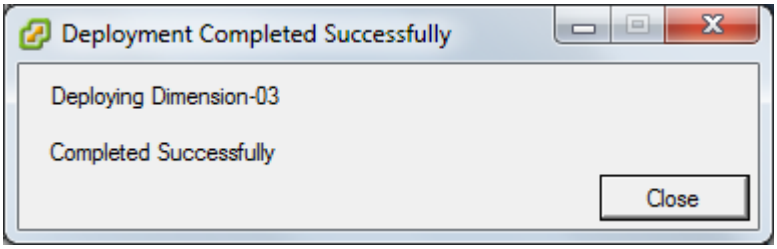
デプロイが始まります。



進行中は、プログレスバーで進捗が表示されます。



Completed successfully と表示されれば完了です。



デプロイに失敗する場合は OVFTOOL を使って OVA ファイルを OVF ファイルに展開し、

デプロイ時に OVF ファイルを指定してみてください。

コマンドラインは次のとおりです。(OVF ファイルは OVA ファイルの拡張子を変えるだけです)

ovftool.exe　OVA ファイル　OVF ファイル

以下は実行例です。

```
PROMPT> ovftool.exe C:\Dimension\watchguard-dimension_1_1_U1.ova C:\Dimension\watchguard-
dimension_1_1_U1.ovf
Opening OVA source: C:\Dimension\VMWare\watchguard-dimension_1_1_U1.ova
The manifest validates
Source is signed but could not verify certificate (possibly self-signed)
Opening OVF target: C:\Dimension\VMWare\watchguard-dimension_1_1_U1.ovf
Writing OVF package: C:\Dimension\VMWare\watchguard-dimension_1_1_U1.ovf
Transfer Completed
Completed successfully
```

OVFTOOL の入手先:

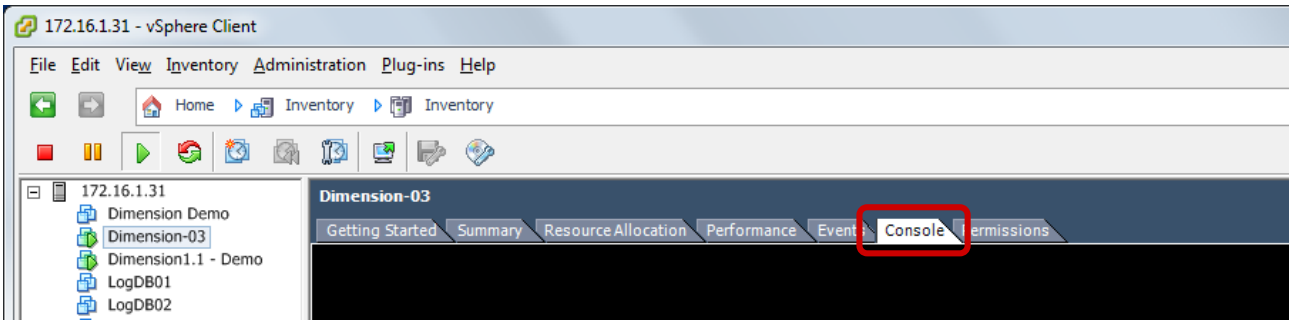
https://my.vmware.com/jp/web/vmware/details?productId=352&downloadGroup=OVFTOOL350

デプロイ後

コンソール　ログイン

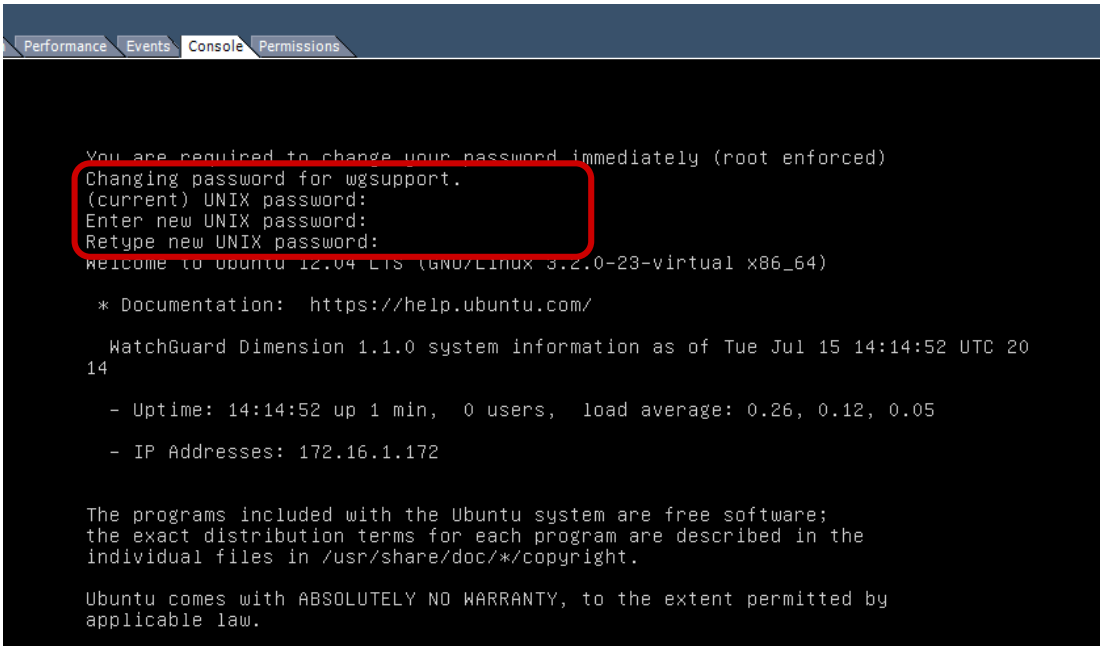
デプロイした仮想マシンを選択し、Power On します。

仮想マシンのコンソールタブを選択すると、起動する様子が確認できます。



コンソールにログインするには、ログインに wgsupport、初期パスワードは readwrite を入力します。

ログインするとすぐにパスワード変更が促されますので、旧パスワードと新パスワードを入力します。



この後、Dimension にウェブブラウザでアクセスして、初期設定を行ないます。

アクセスする方法は 2 種類あります。

1. VMWare のコンソールから Dimension のコマンドラインで IP アドレスを静的なものに設定し、その IP アドレスでアクセスすることができます。
2. DHCP サーバーが存在していれば、Dimension は起動した段階で IP アドレスを自動取得します。自動取得した IP アドレスにブラウザでアクセスすれば、セットアップウィザードを実行できます。また、そのウィザード中に IP アドレスを静的なものに設定することもできます。

IP アドレスの設定

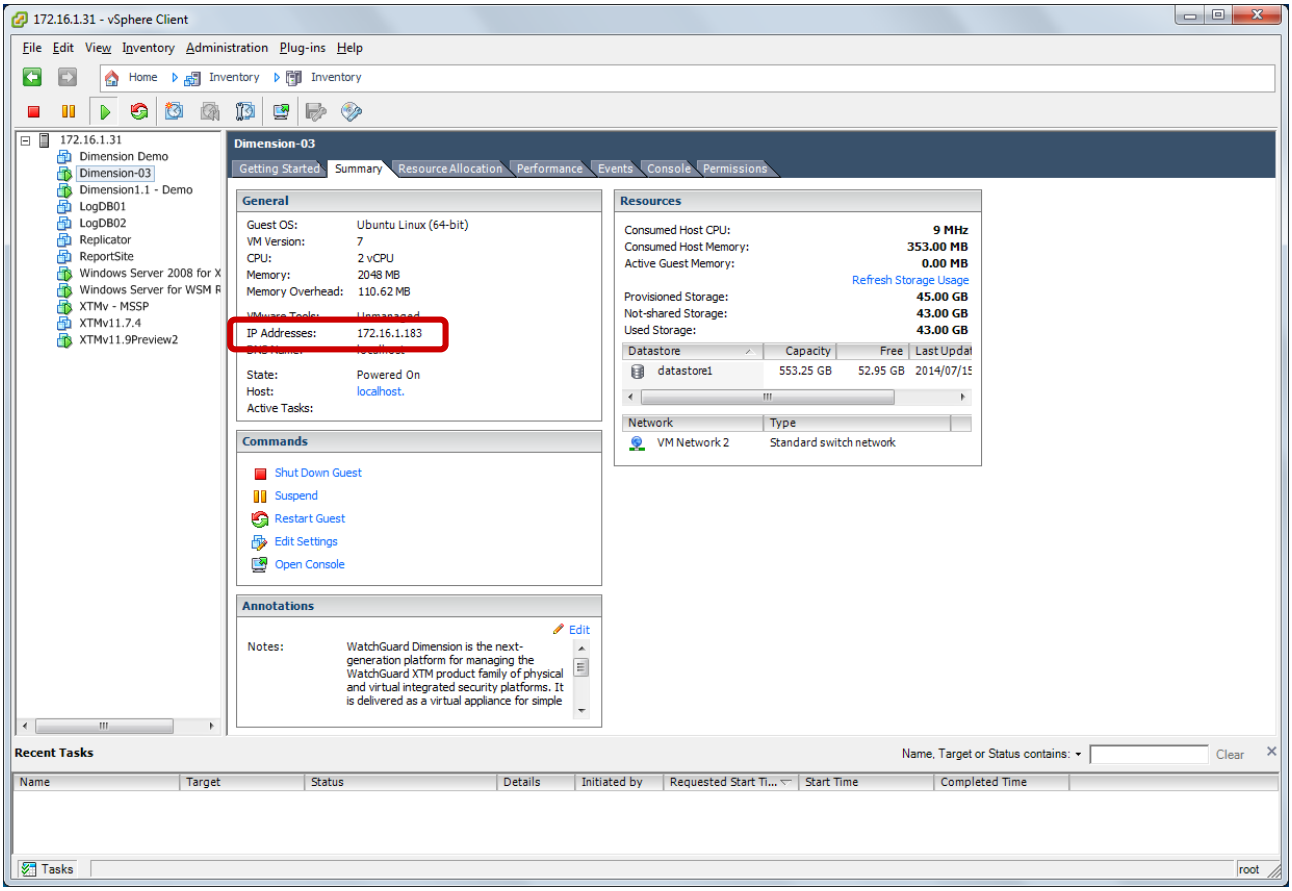
IP アドレスを設定するには、Dimension の付属コマンドを利用します。コマンドラインの文法は以下のとおりです。

> /opt/watchguard/dimension/bin/wg_ip_addr.sh –i IP アドレス –m ネットマスク(ビット指定) –g ゲートウェイ

実行例:

```
wgsupport@localhost:~$ /opt/watchguard/dimension/bin/wg_ip_addr.sh -i 172.16.1.1
83 -m 24 -g 172.16.1.1
Method: Static IP
Static IP: 172.16.1.183
Mask: 24
Gateway: 172.16.1.1
wgsupport@localhost:~$ _
```

vSphere Client の Summary タブを選択すると、IP アドレスはコマンドで設定したものになっていることを確認できます。

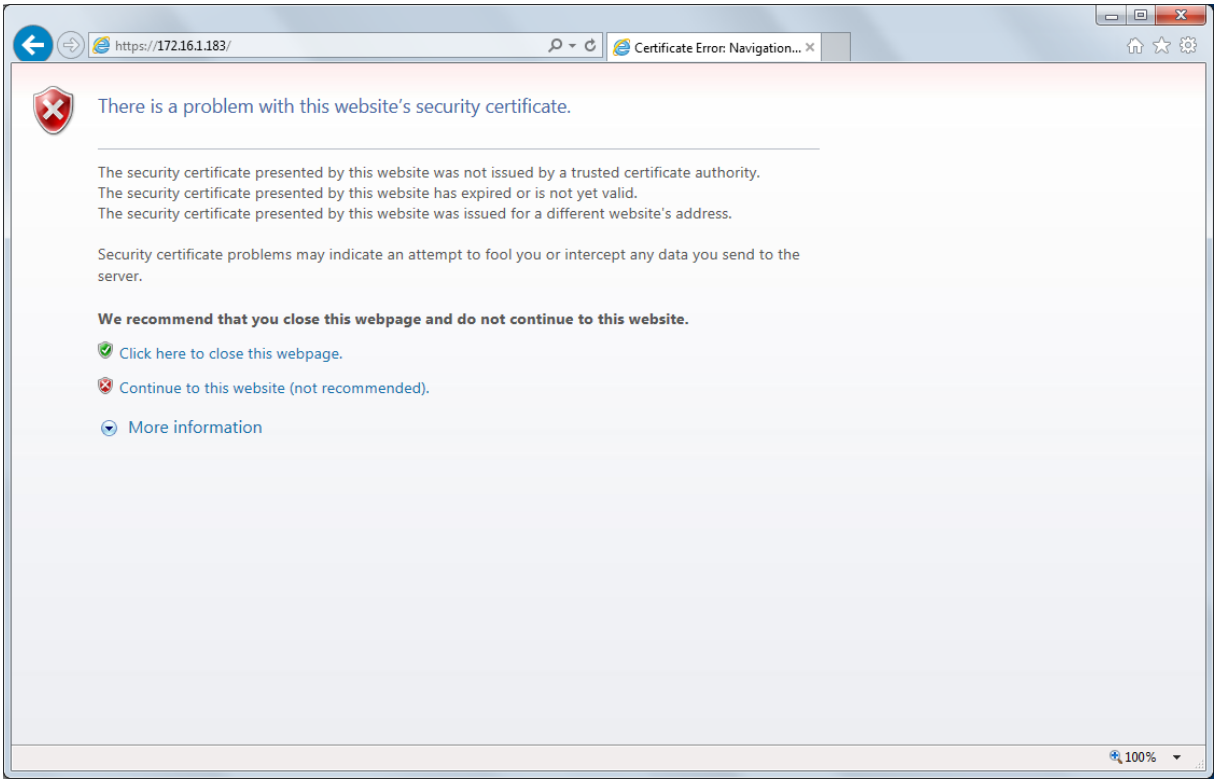


初期セットアップ　ウィザード

ウェブブラウザで、Dimension に接続します。IP アドレスは DHCP で取得したもの、もしくはコンソールからコマンドで設定したならその IP アドレスを使います。

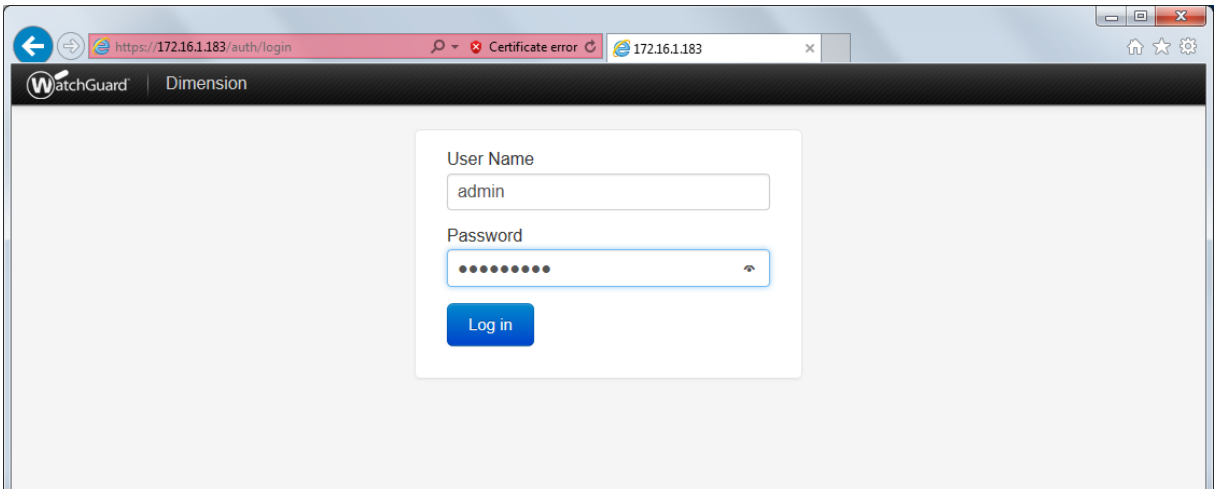
https://<IP アドレス>

証明書の警告が表示されますが、続けます。

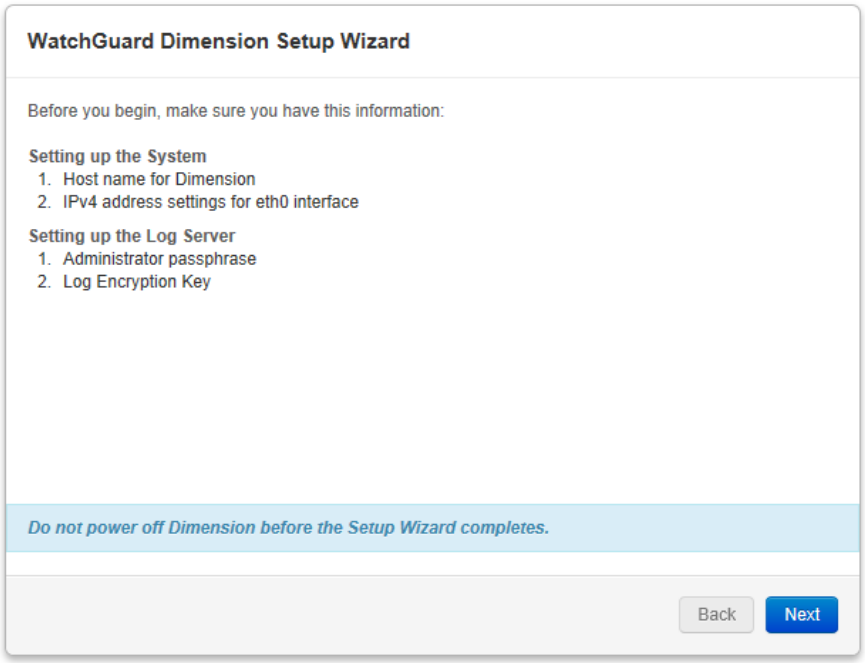


ログイン画面になります。

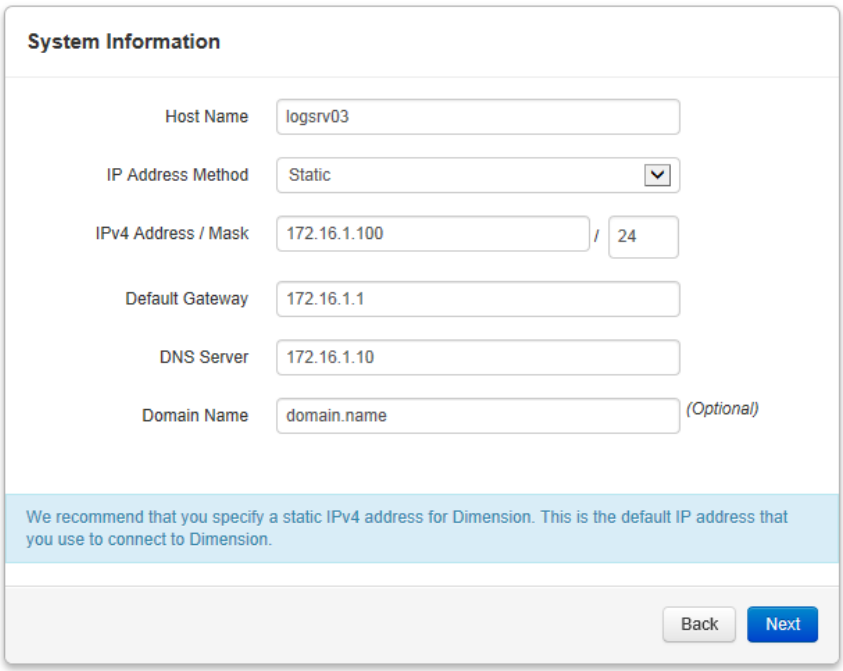
User Name は admin、Password(初期) は readwrite を入力し、ログインします。



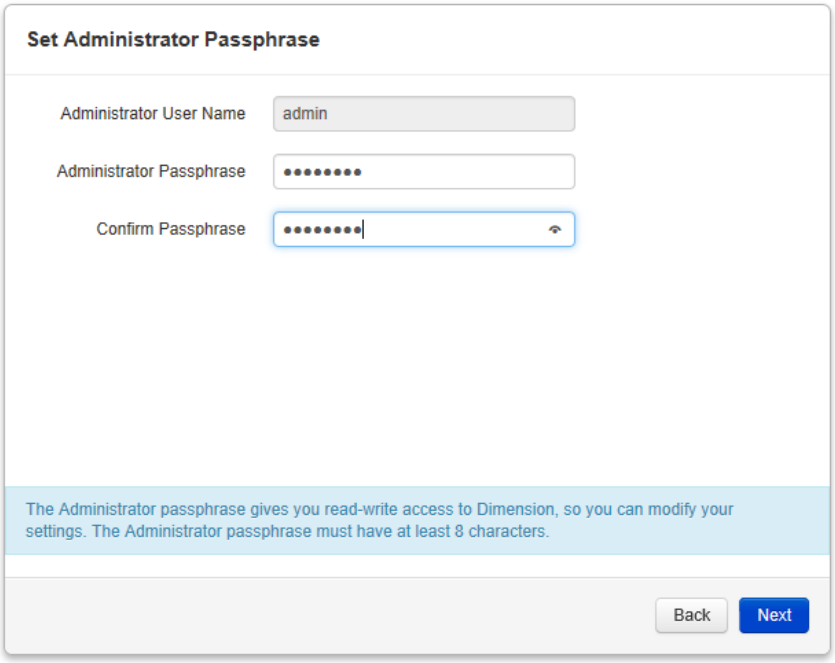
ログイン後、すぐに Setup Wizard が始まります。Next をクリックします。



ホスト名、IP アドレス、ネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNS サーバー、ドメイン名(必要に応じて)を入力し、Next をクリックします。

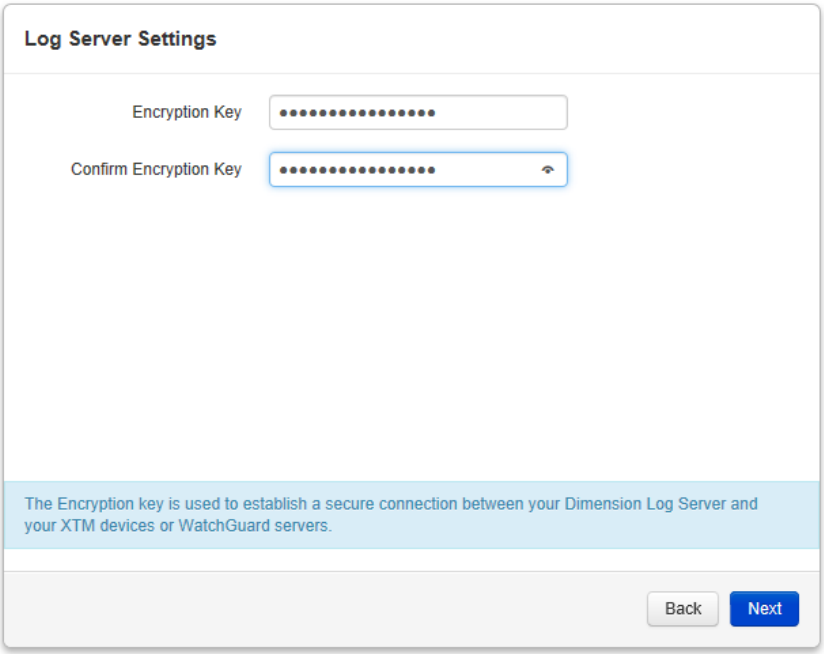


Admin ユーザー(管理者)のパスワードを変更します。

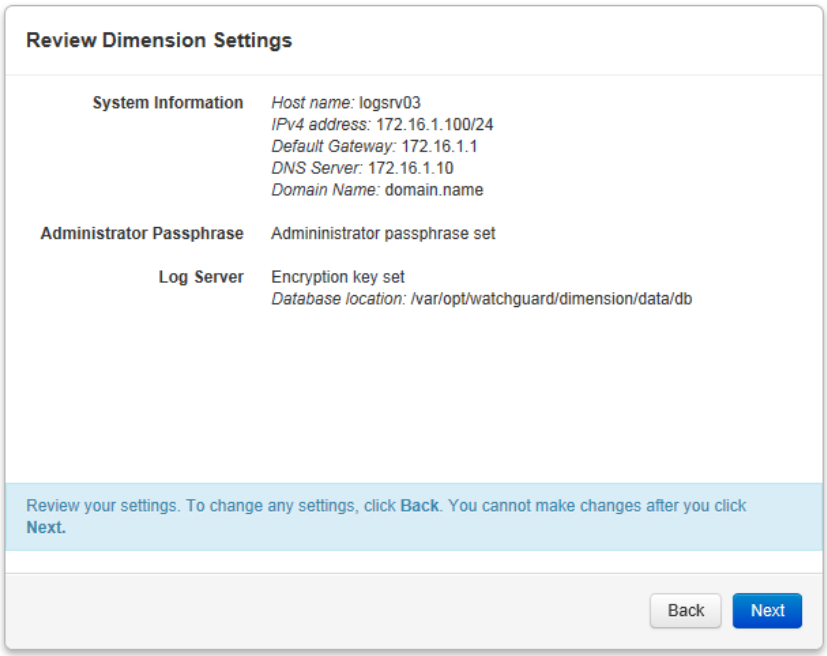


ログサーバーの暗号化キーを入力します。

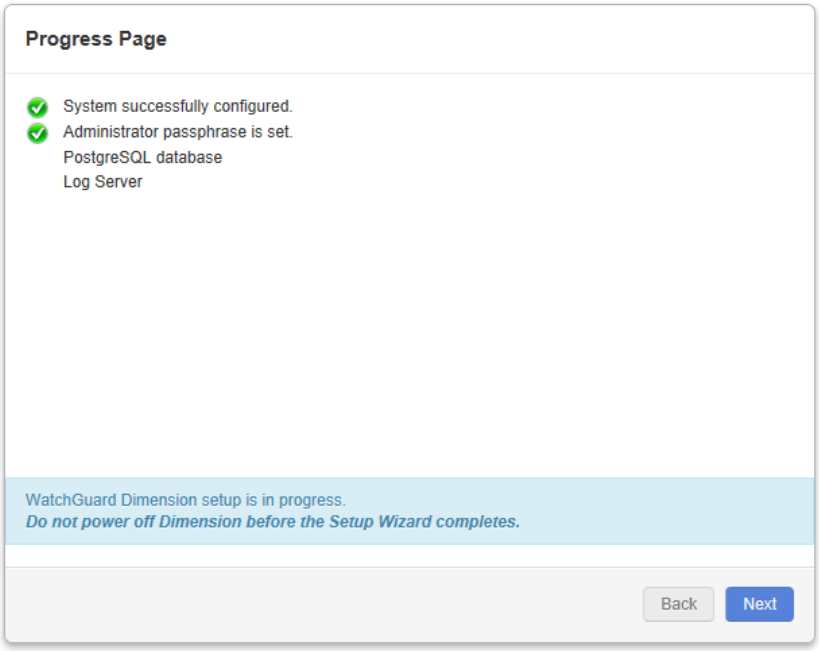
これはデバイスからログサーバーに送信する設定に必要になります。



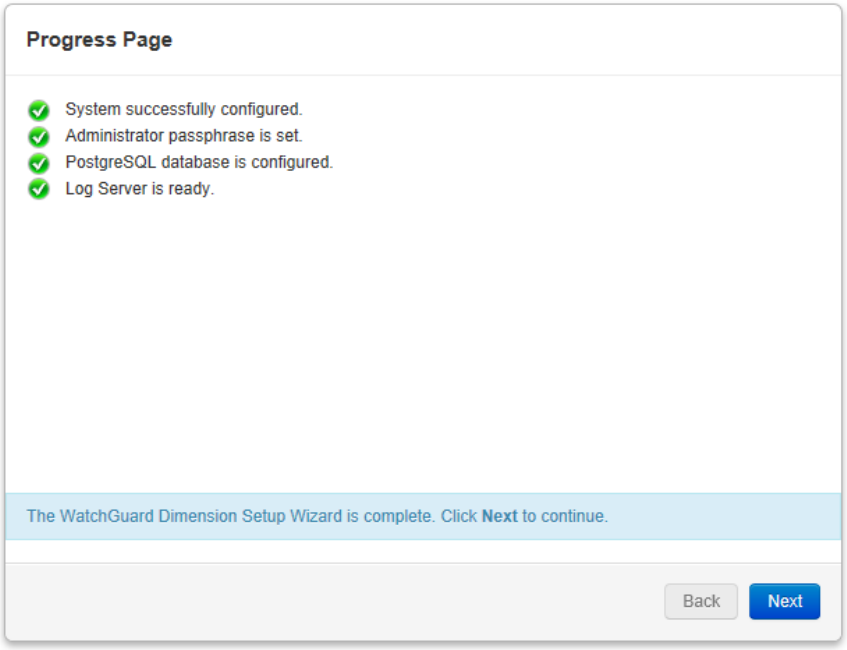
最後に設定のサマリーが表示されますので、確認します。



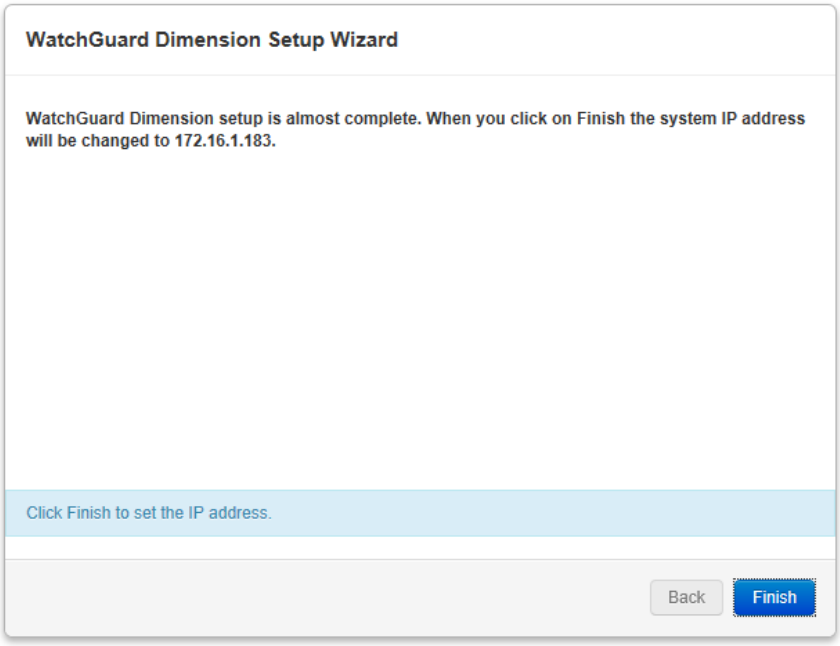
Next をクリックすると、システム設定やデータベース、ログサーバーの設定が行われます。



処理が最後まで進んだら Next をクリックします。



Finish ボタンをクリックします。

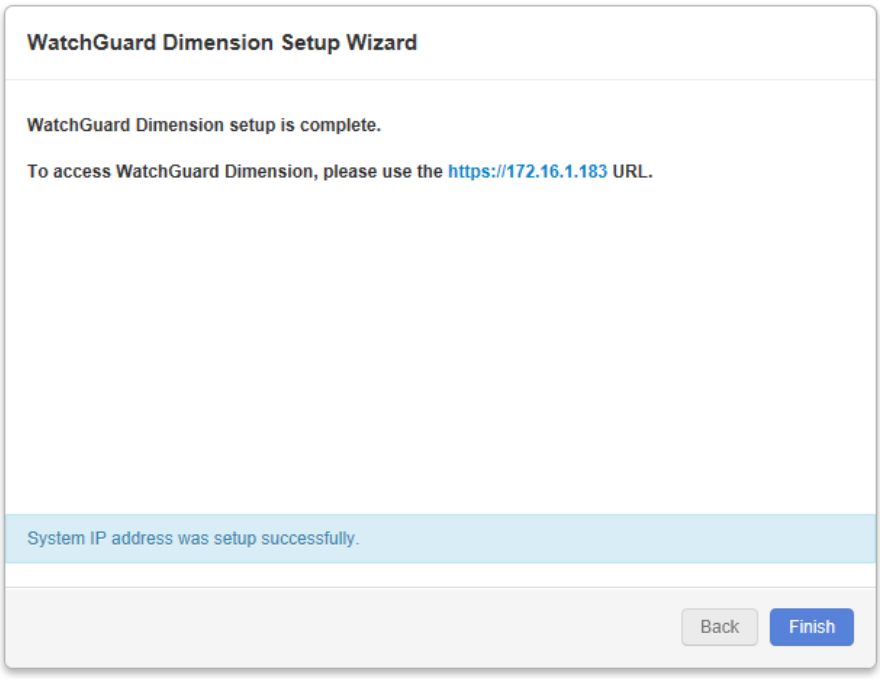


Setup Wizard の最後の画面になります。

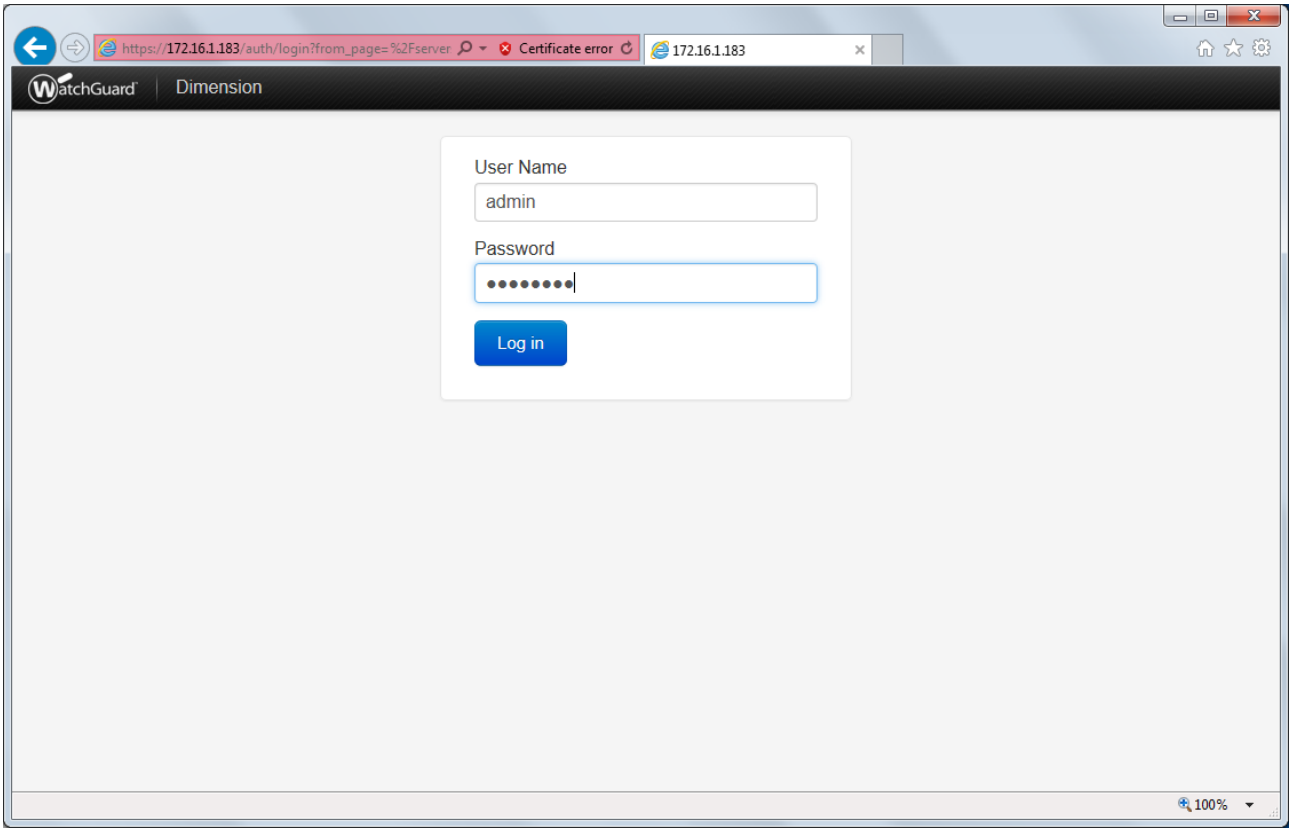
To access WatchGuard Dimension, please use the https://<設定後の IP アドレス> URL.

と表示されます。

Dimension の仮想マシンは再起動しなくても、Wizard で設定した内容が反映されます。

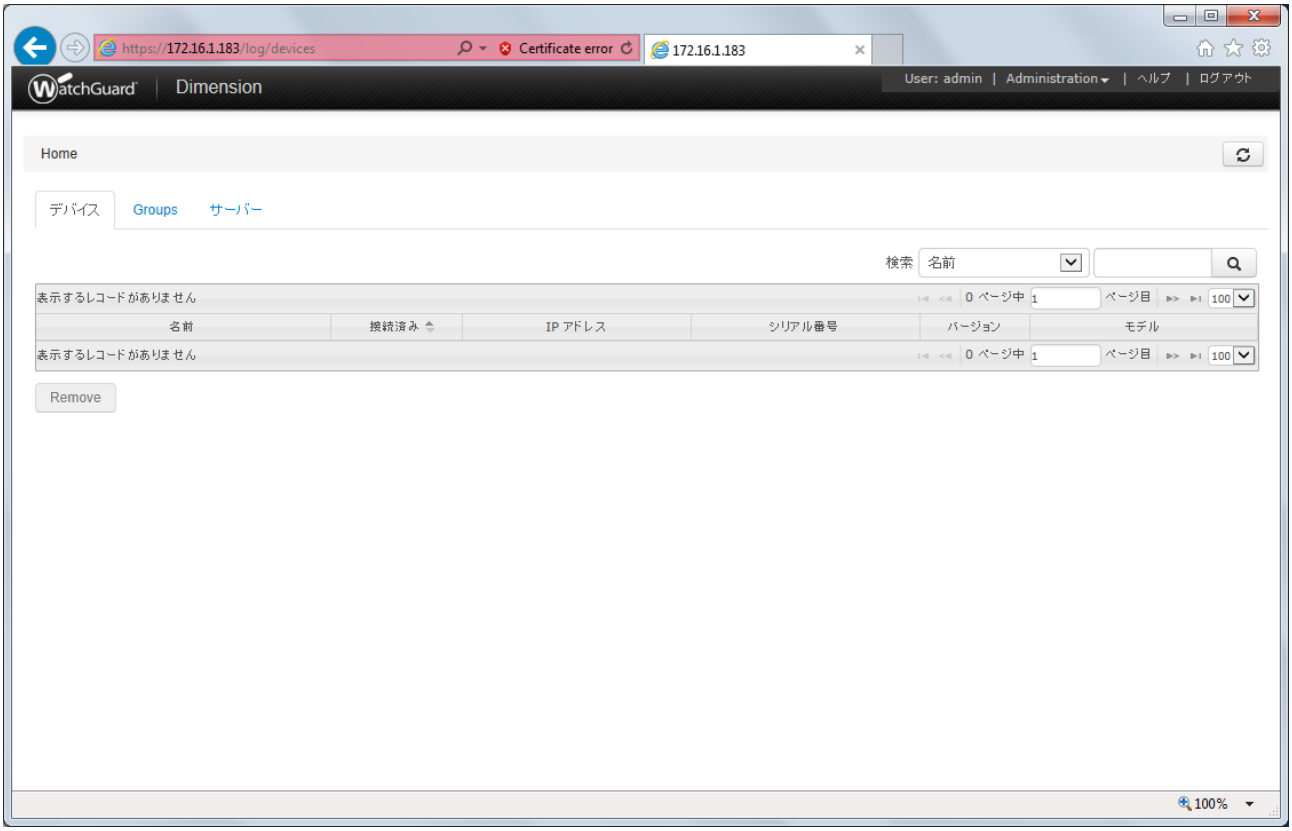


設定した URL にアクセスするとログイン画面が表示されますので、admin アカウントでログインします。



ログインすると Dimension の Home ページになり、デバイス一覧が表示されます。

Setup Wizard 後はまだ登録されているデバイスがないので、何も表示されていない状態です。



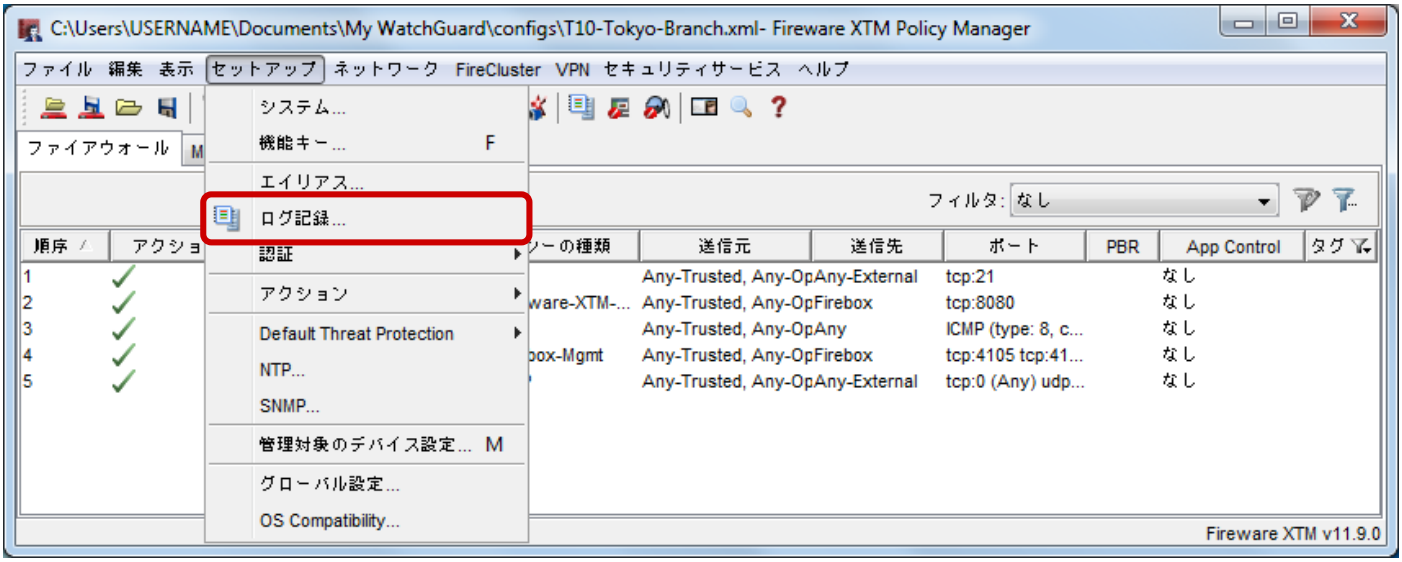
デバイスのログ送信設定

Dimension の設定が完了したら、さっそくデバイスからログを送信してみましょう。

デバイスの設定

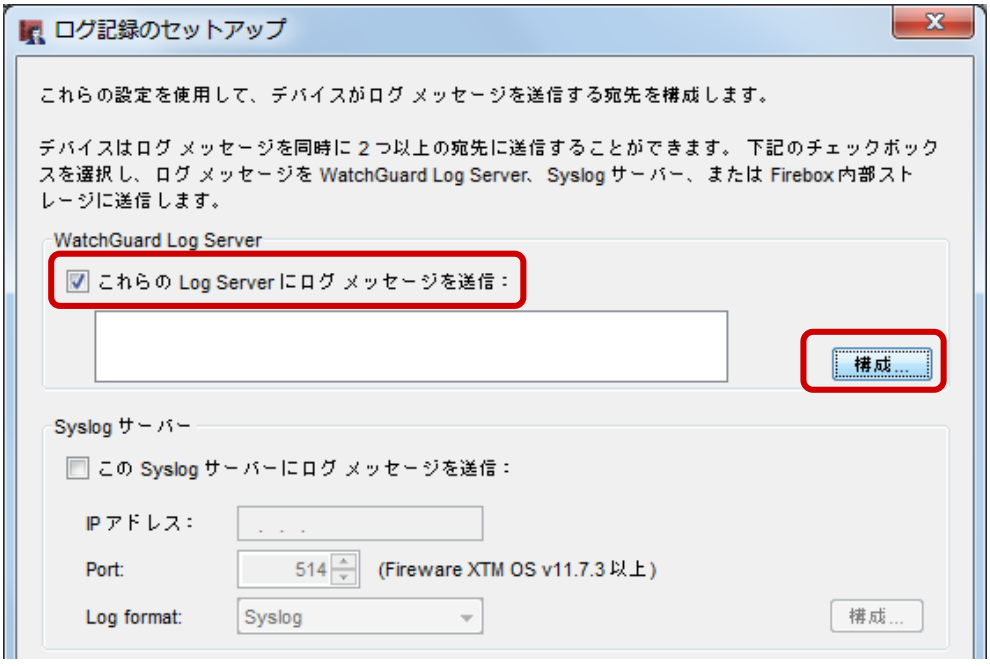
デバイス側で Dimension のログサーバーを指定して、ログを送信する設定が必要です。

メニューから、セットアップ ― ログ記録 をクリックします。

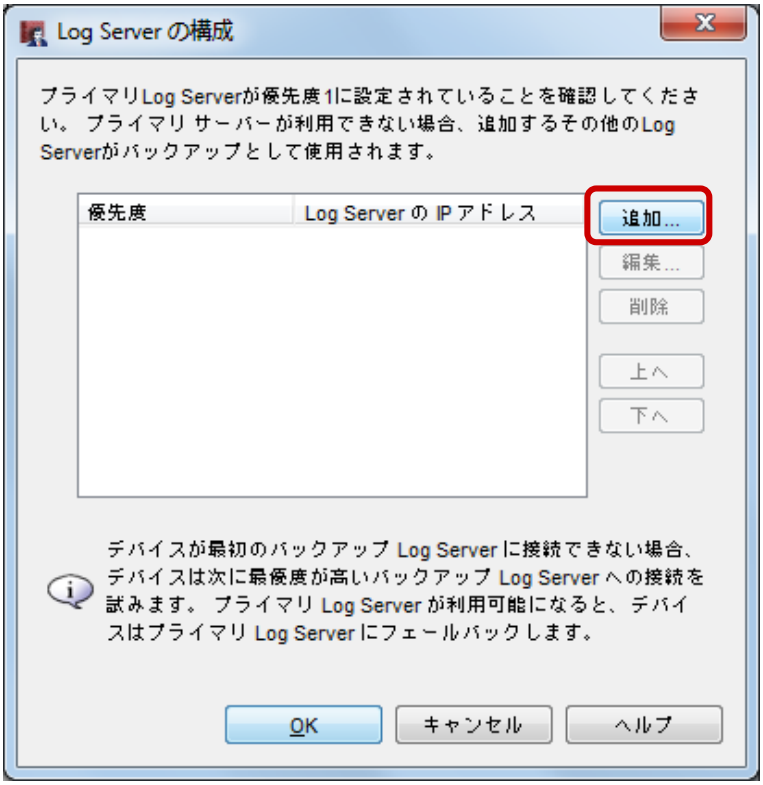


ログ記録のセットアップ画面が表示されます。

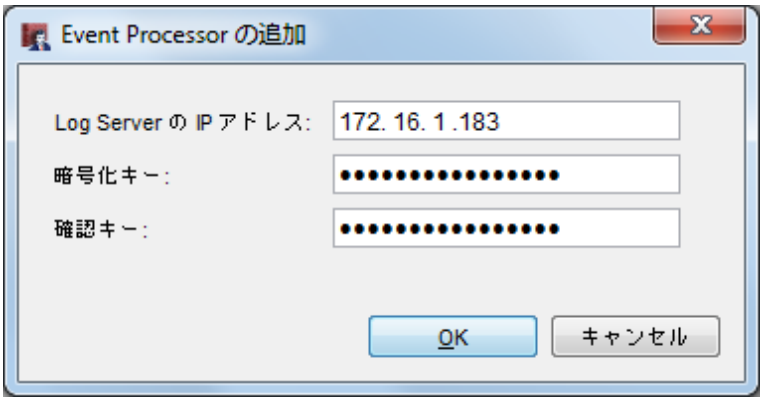
「これらの Log Server にログ メッセージを送信：」にチェックをし、構成ボタンをクリックします。



Log Server の構成画面で追加ボタンをクリックします。

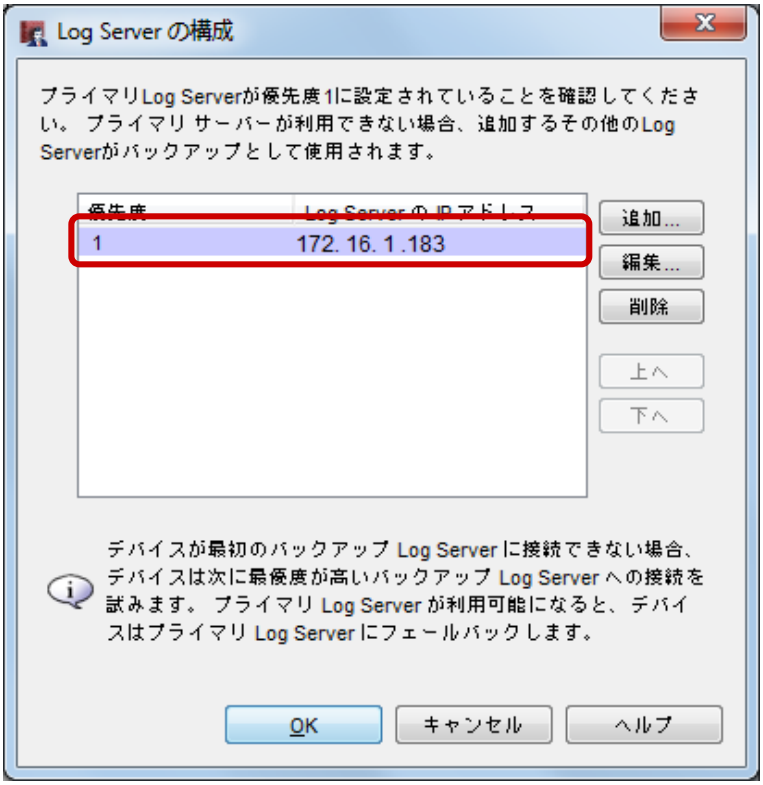


Log Server の IP アドレスと暗号化キーを入力します。

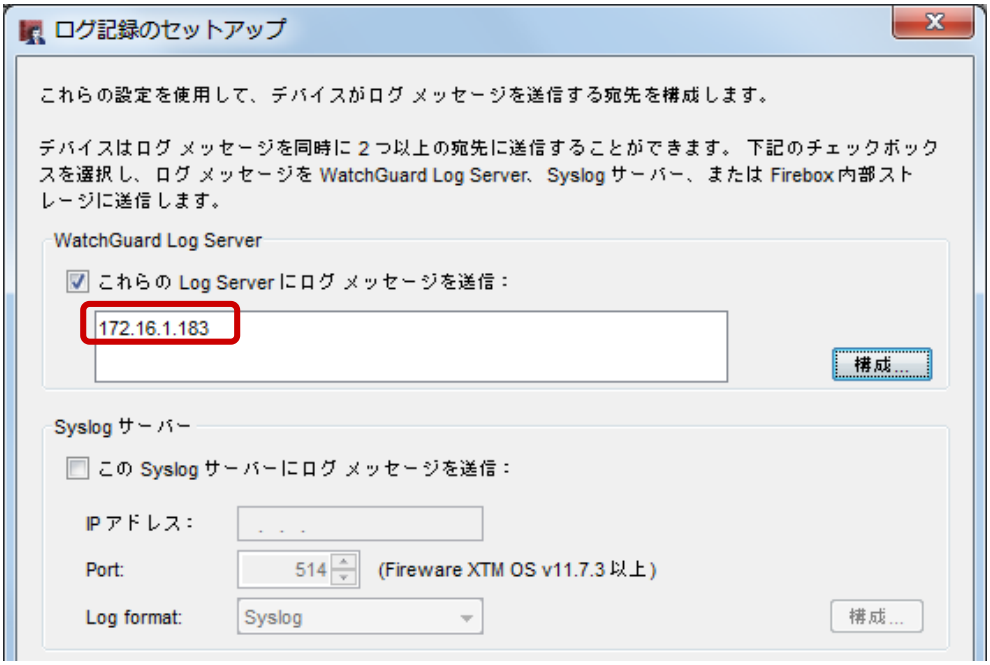


入力したら、OK をクリックして、前の画面に戻ります。

Log Server の構成の画面に戻ると、Log Server が追加されていることが確認できます。

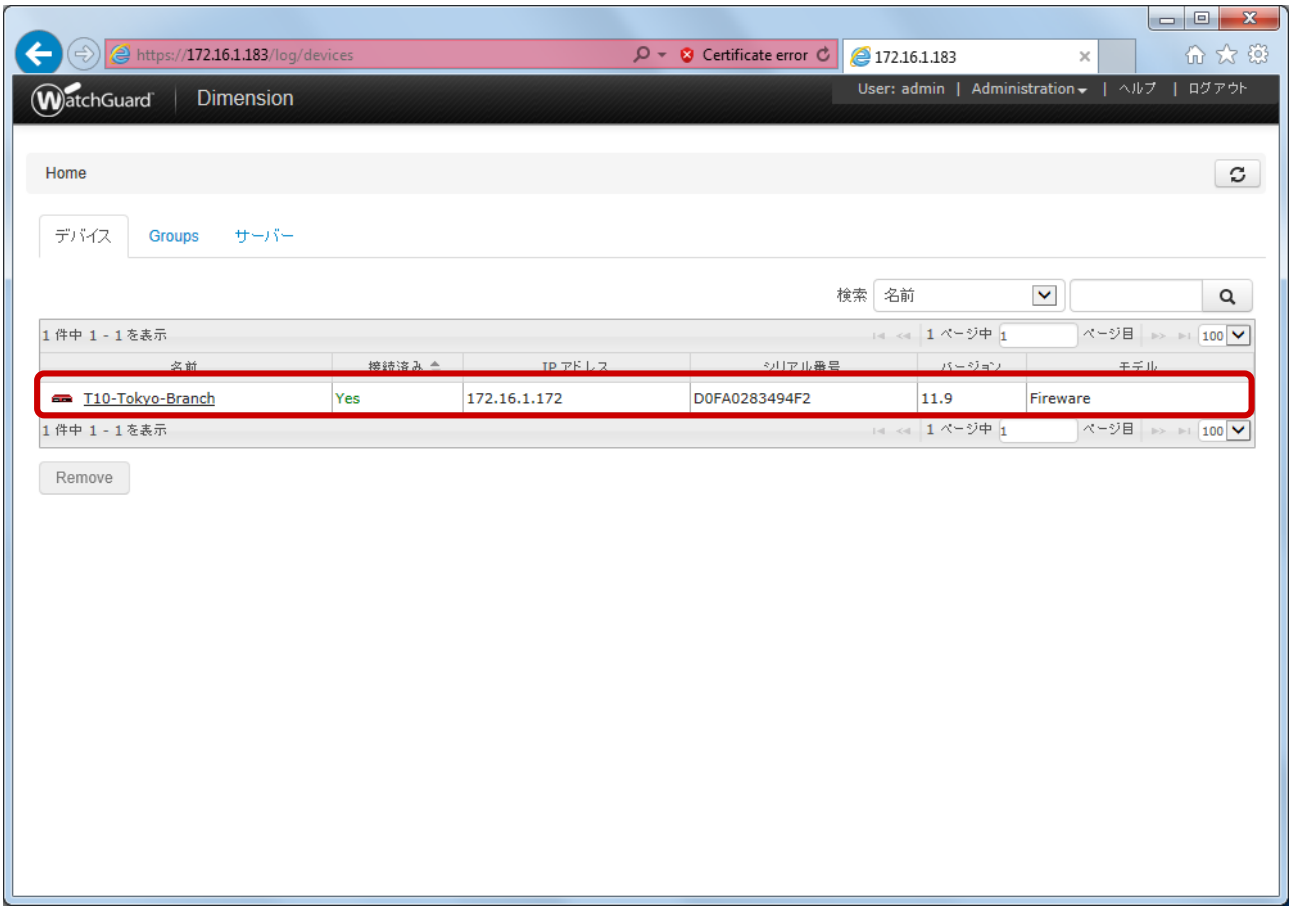


OK をクリックし、ログ記録のセットアップの画面に Log Server の IP アドレスが登録されていることが確認できます。



ログサーバーにログを送信する設定をしたら、設定を本体に保存してください。

しばらくして Dimension にログインすると、Home のデバイス一覧に設定したデバイスが見えてきます。



デバイスが表示されない場合。

IP アドレスの指定を間違えるとデバイスは Dimension と通信ができません。また、暗号化キーを間違えると接続が拒否され、デバイスが表示されません。

もう一度確認の上、再度設定してください。

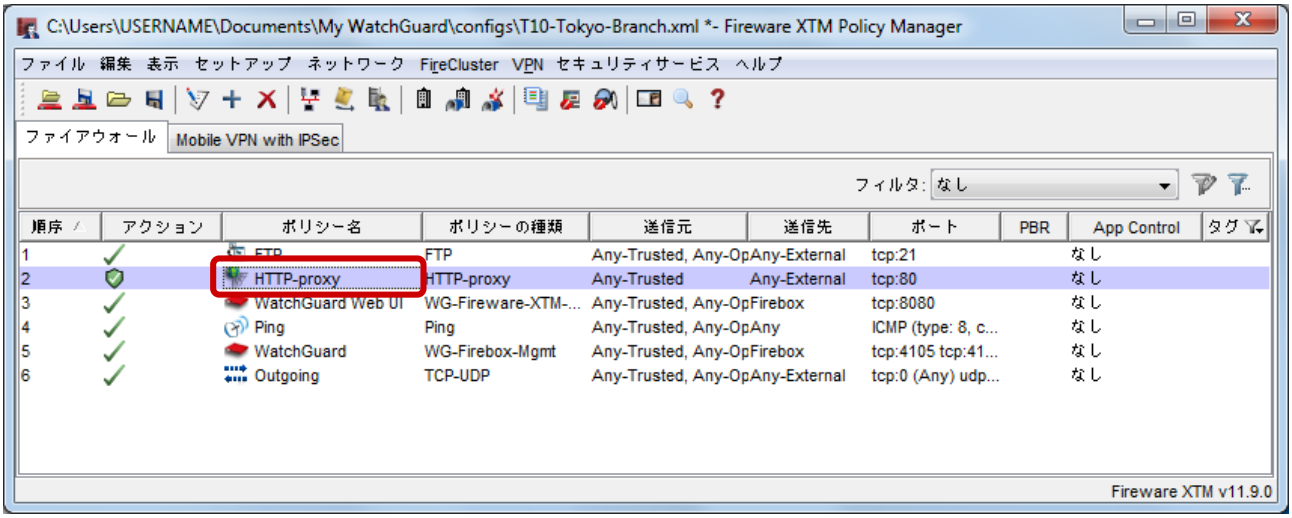
ポリシー単位でログを出力する設定

デバイスに設定されているポリシーは、標準のままだとログを送信しません。

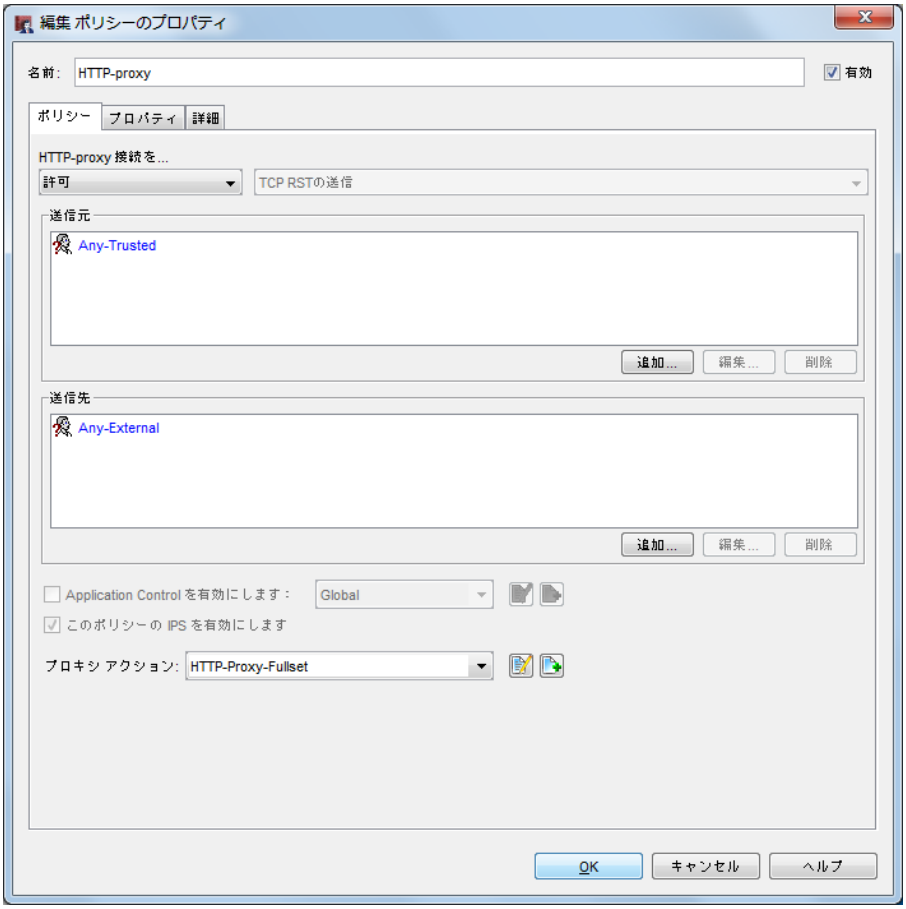
ログを取ってレポート化したいポリシーに、ログを送信する設定をする必要があります。

たとえば Web 経由でどんな脅威があり、どのように XTM が動作したかのログを取りたければ、デバイス側で以下のように設定します。

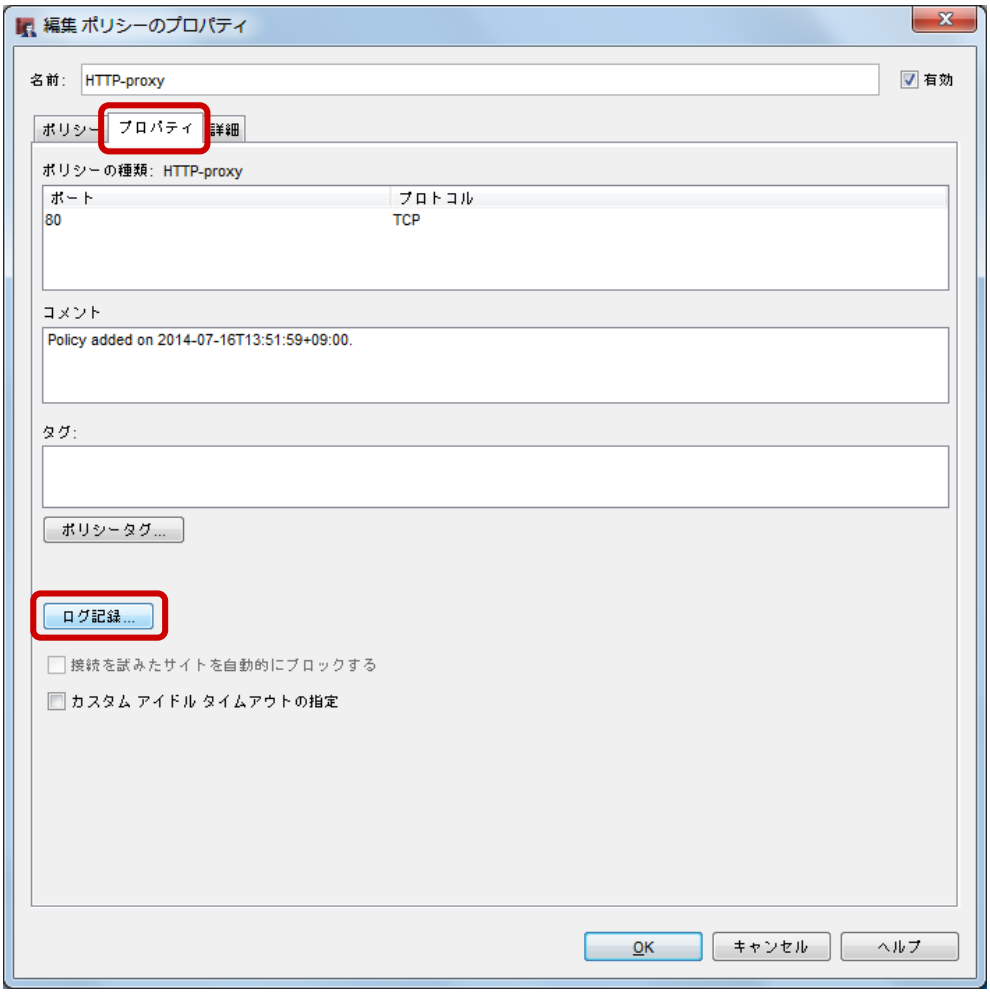
HTTP-proxy をダブルクリックし、ポリシーのプロパティ画面を開きます。



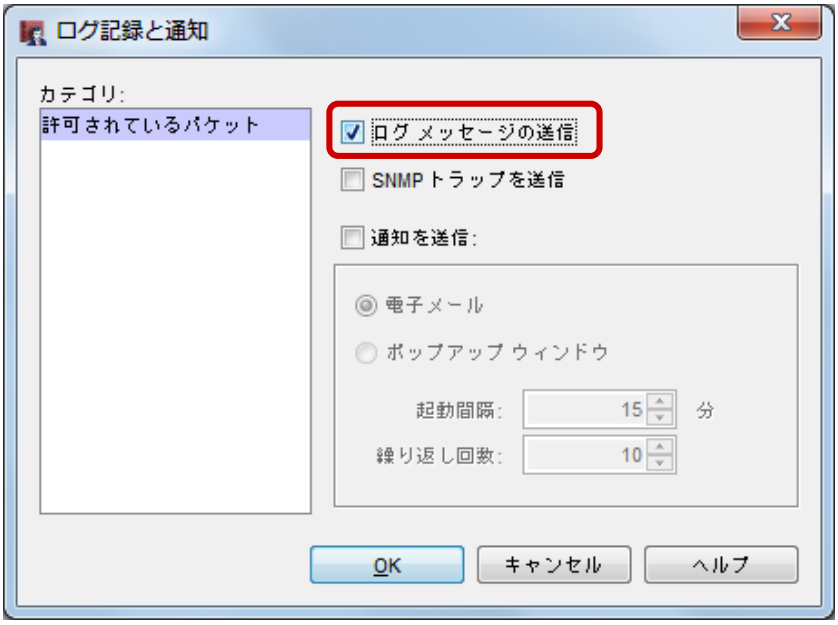
プロパティ画面。



プロパティ タブを選択し、ログ記録ボタンをクリックします。

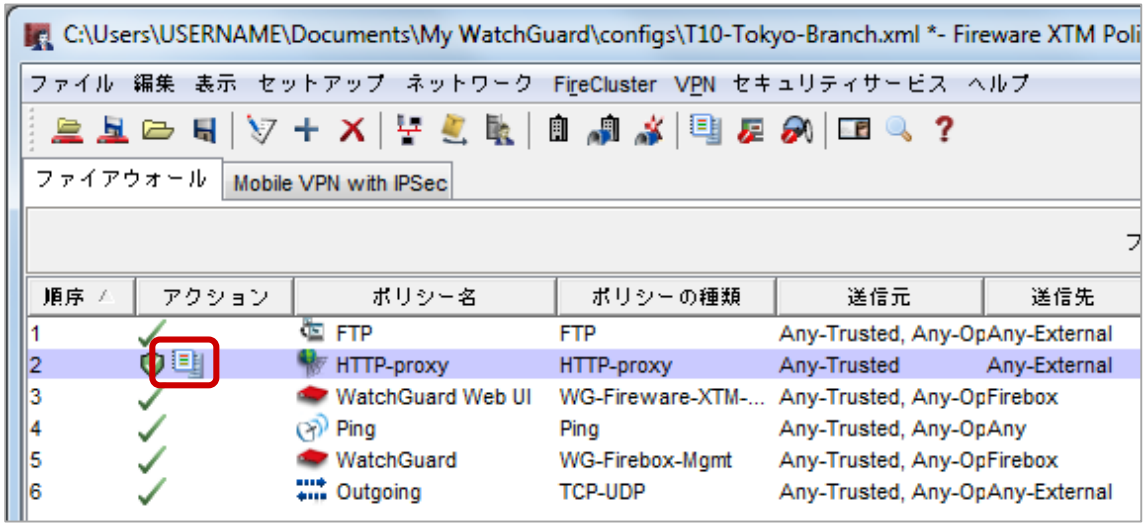


ログメッセージの送信にチェックを入れます。



OK で抜けてポリシーマネージャに戻ります。

一覧にはログ記録が有効になったことを示すアイコンが表示されます。



設定を本体に保存してください。

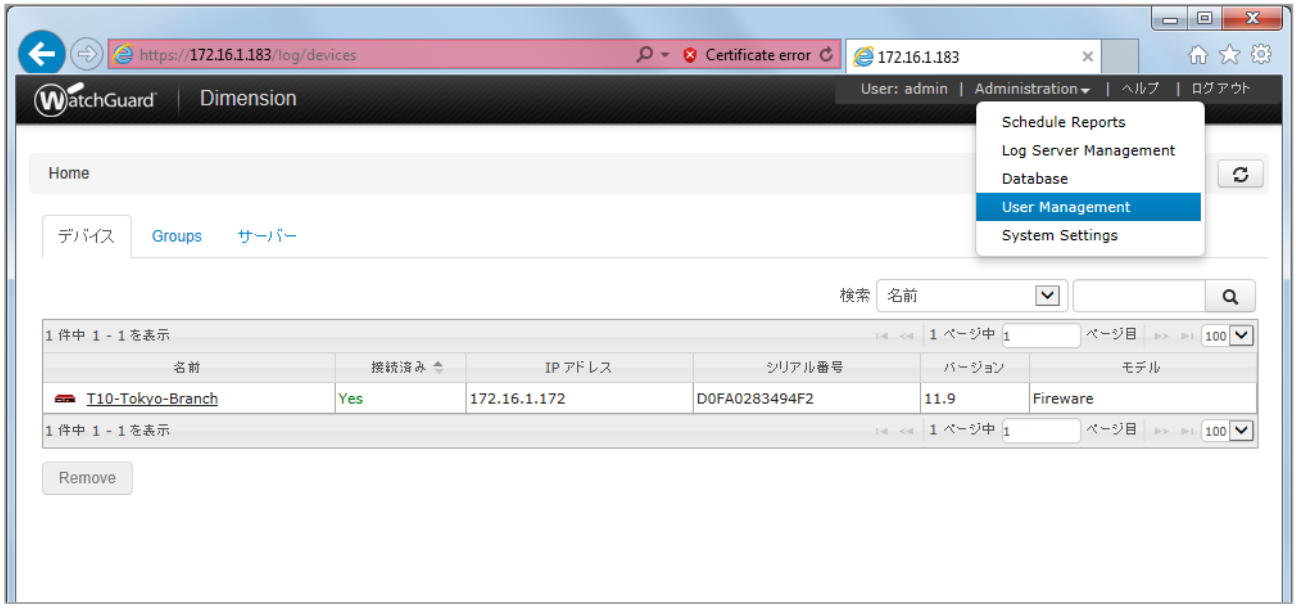
ユーザーの追加

これまでの設定では、常時、管理者権限を持つ admin ユーザーでログインしており、すべての設定変更が可能な状態になってしまっています。

関係者が誤って設定変更しないよう、ログやレポートを閲覧する専用のユーザーを追加します。

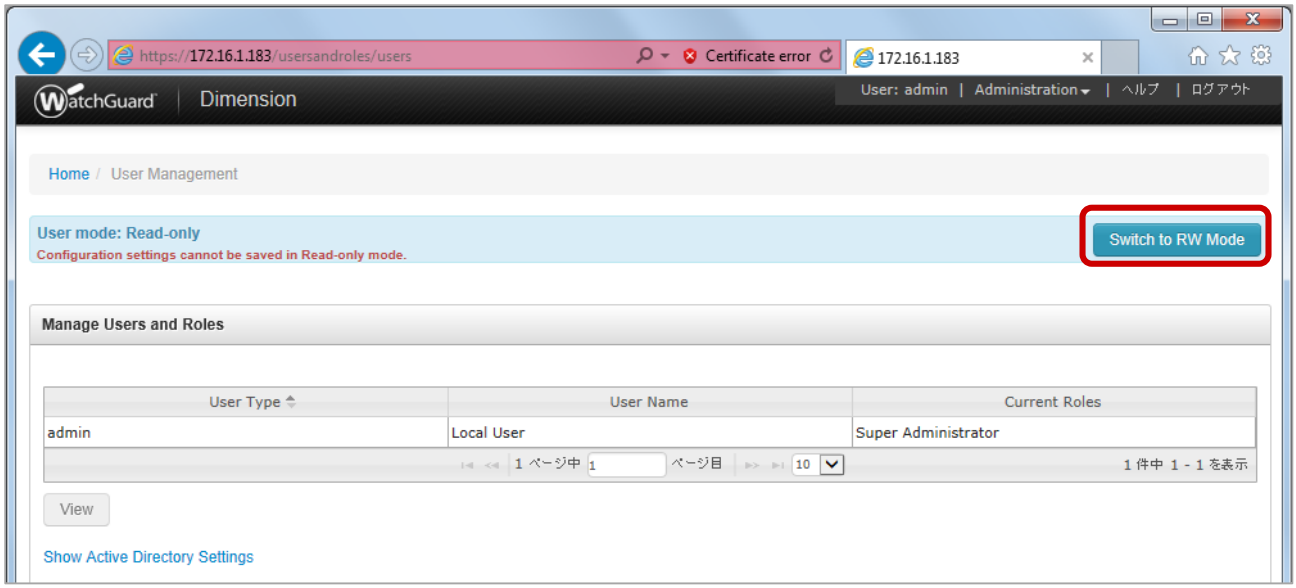
読み取り専用ユーザーの作成

Administration メニューから、User Management をクリックします。



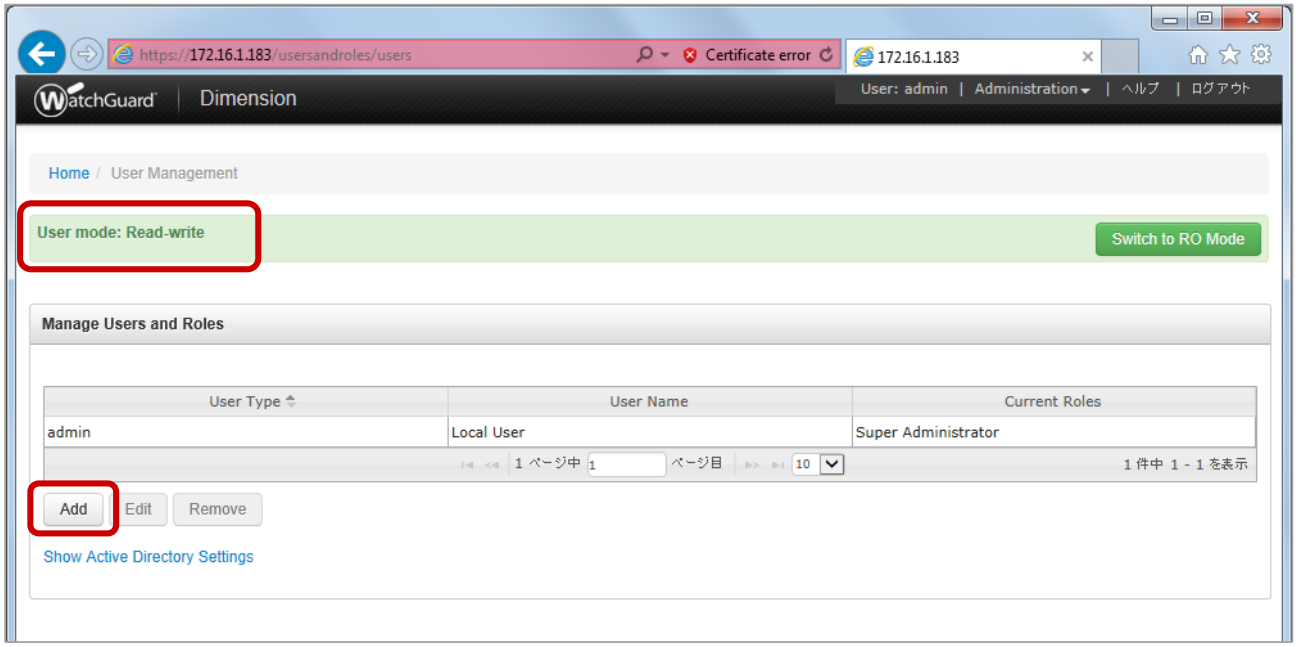
ユーザー一覧が表示されます。デフォルトでは読み取り専用モードになっています。

ここにユーザーを追加するには、Switch to RW Mode ボタンをクリックします。

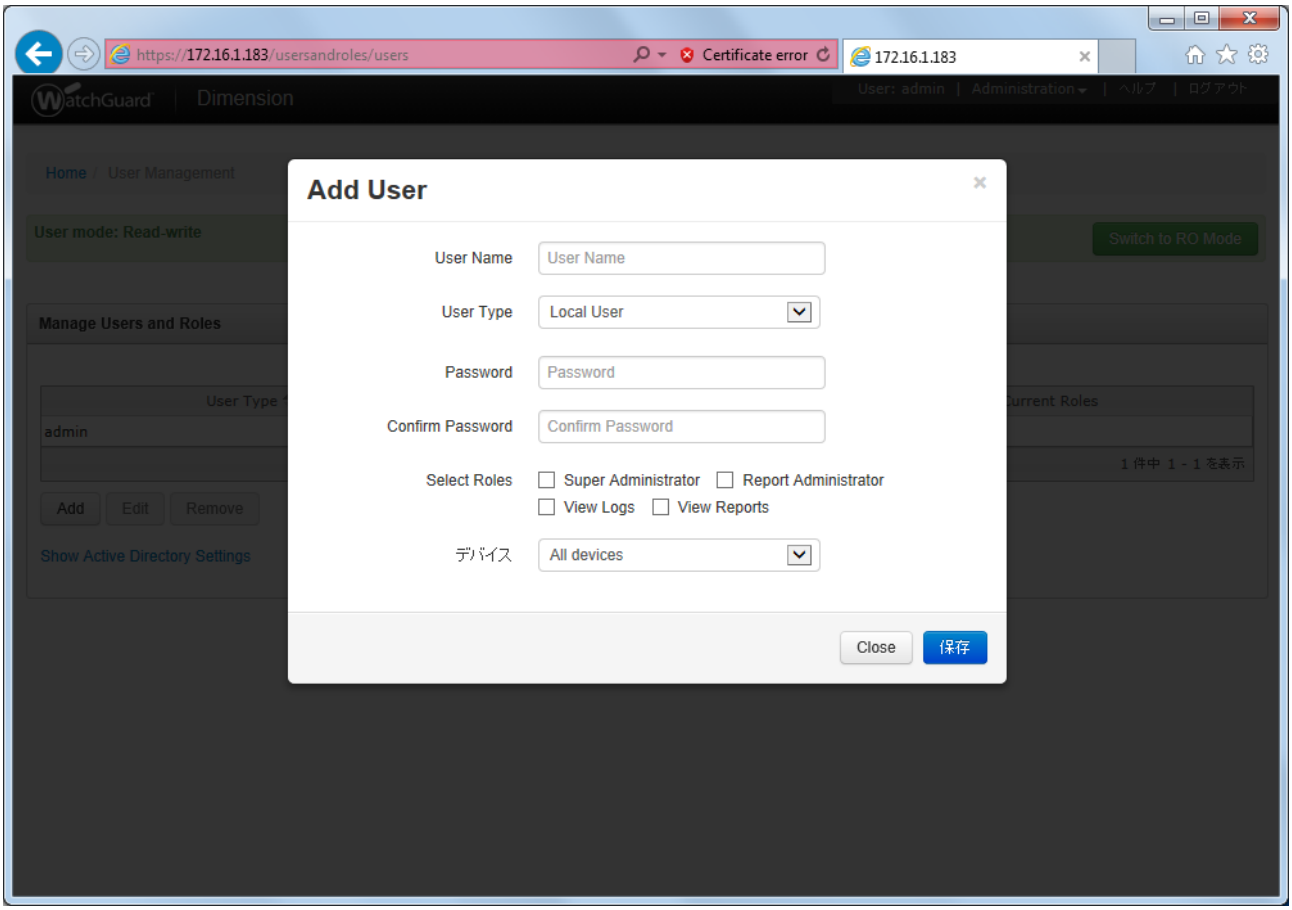


User mode：Read write という表示になり、ユーザーの追加・編集・削除ができる状態になります。

Add ボタンをクリックし、ユーザーを追加してみましょう。

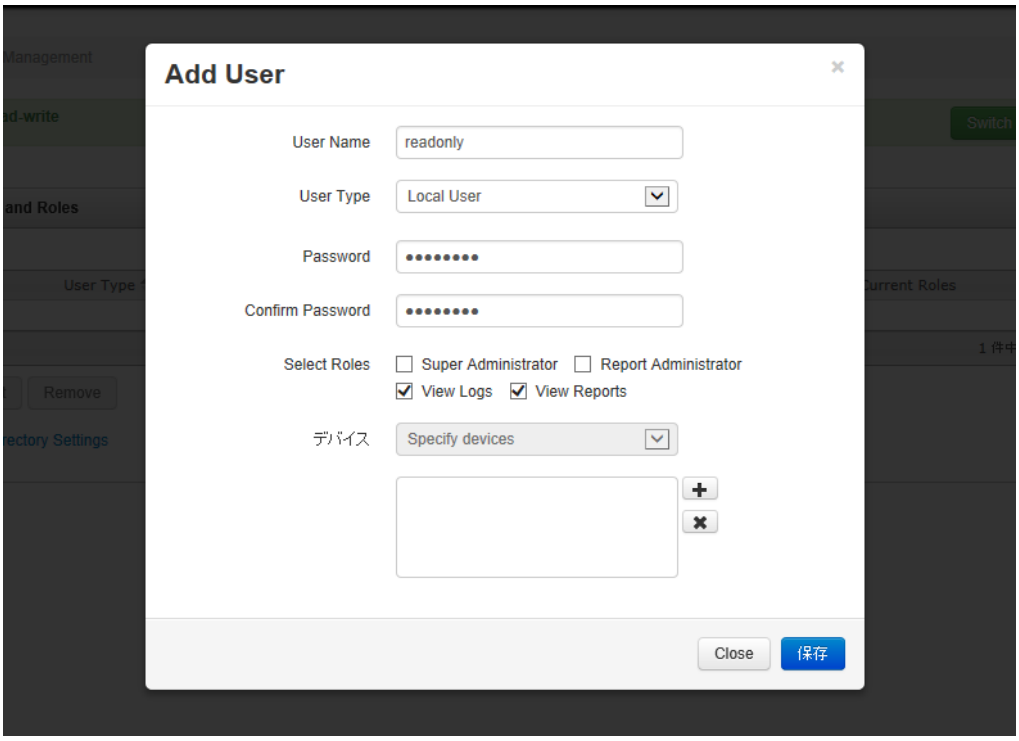


ユーザー追加画面になります。

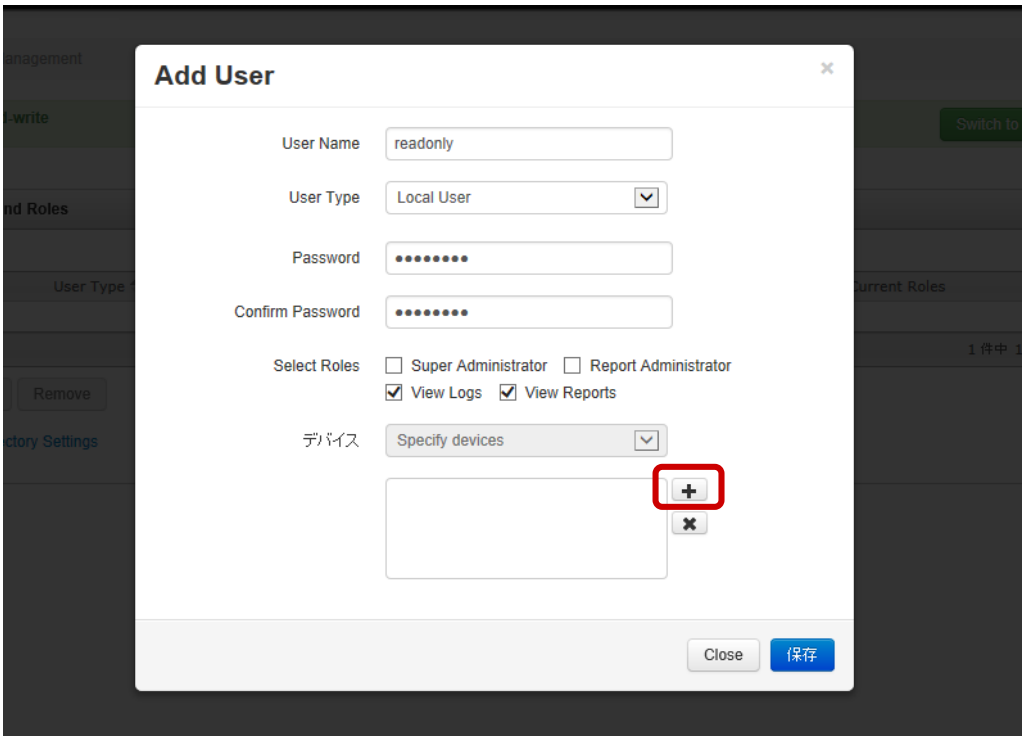


User Name, Password, Confirm Password, に新規ユーザーの名前とパスワードを入力します。

Select Roles は、付与する権限と役割を設定します。ログとレポートの閲覧だけなら View Logs と View Reports にチェックを入れます。ログは見せないでレポートだけ見せたい場合は、View Reports のみをチェックします。

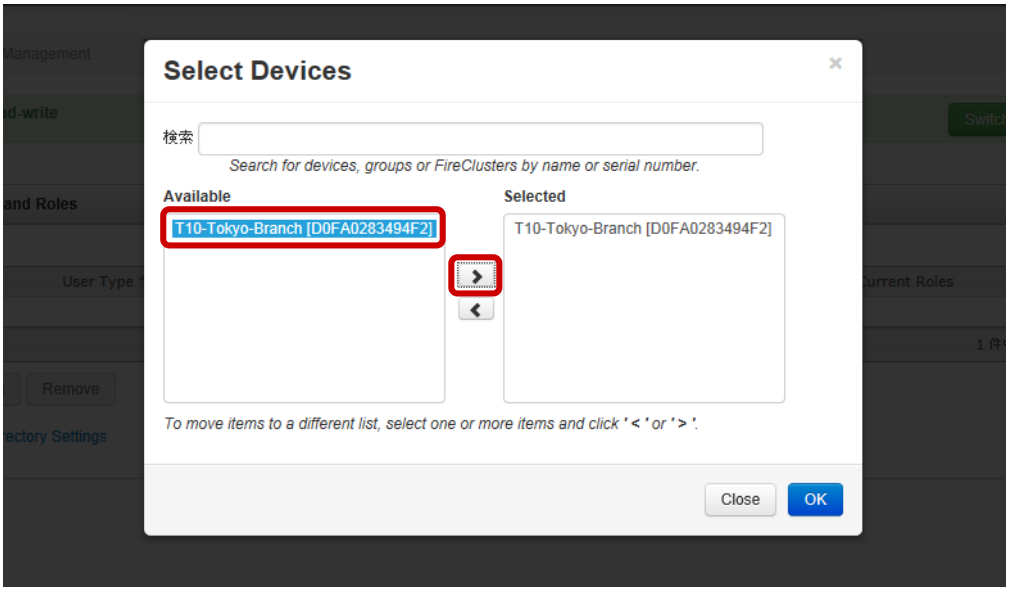


次に、どのデバイスのレポートの閲覧を許可するのか、設定します。デバイスのセクションにある ＋ ボタンをクリックします。

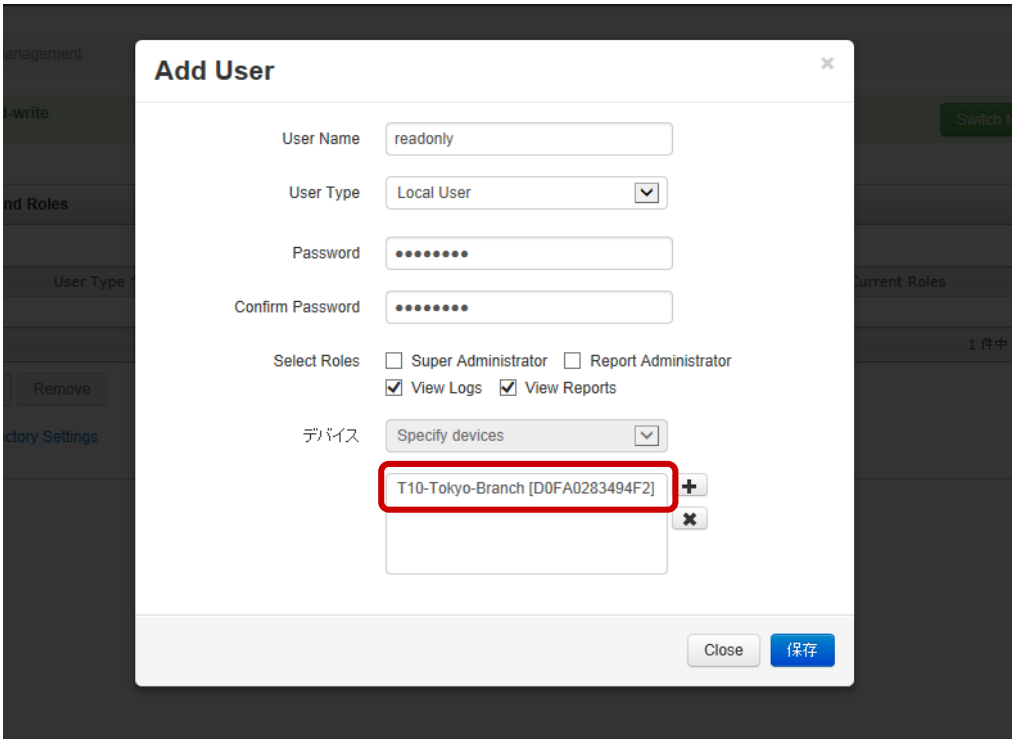


左側に閲覧可能なデバイスの一覧が表示されています。

その中から閲覧させてよいデバイスを選択し、[>] ボタンで右側の閲覧させるデバイスをコピーします。

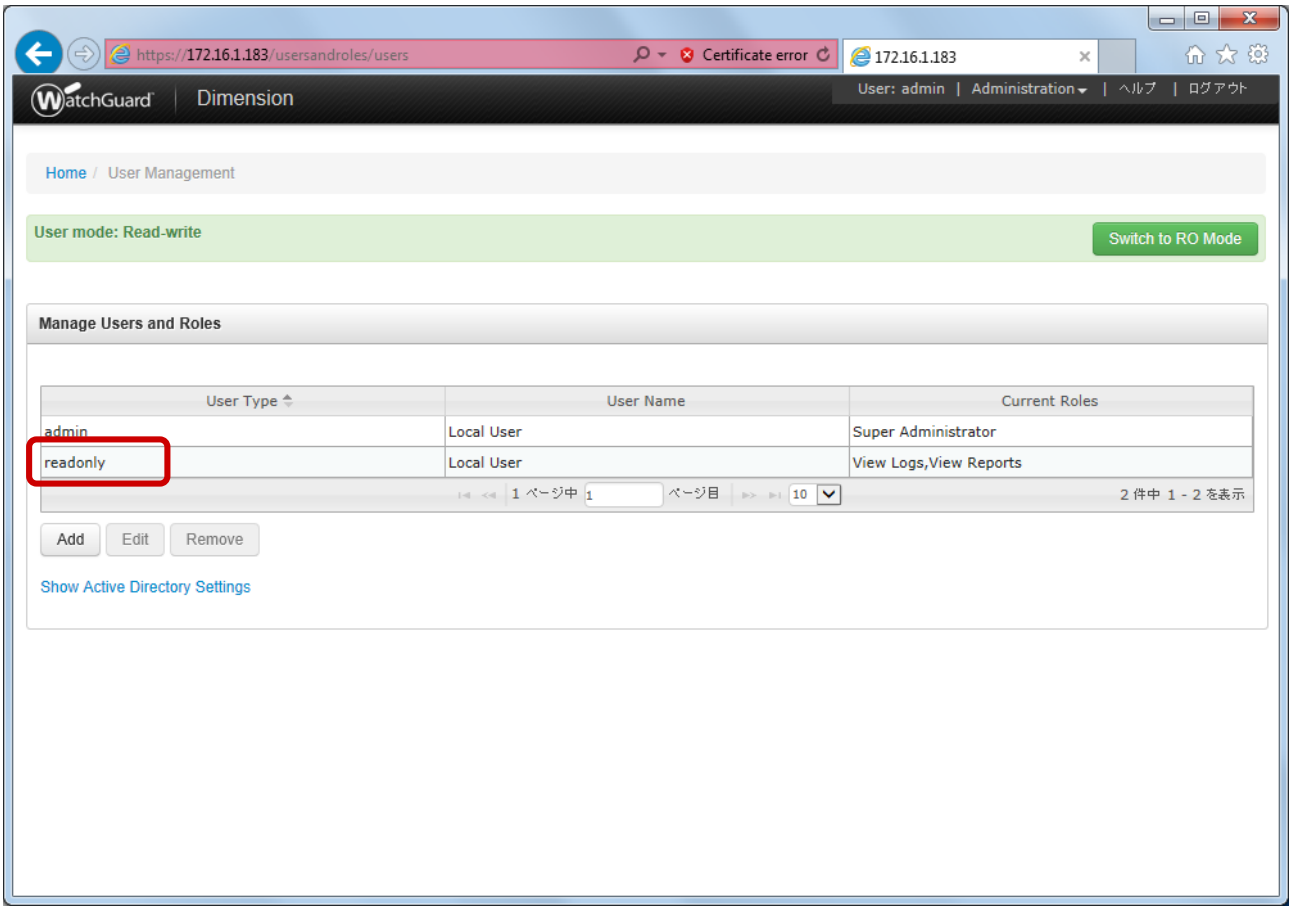


OK で Add User の画面に戻ると、追加するユーザーが閲覧できるデバイスが追加されているのを確認できます。

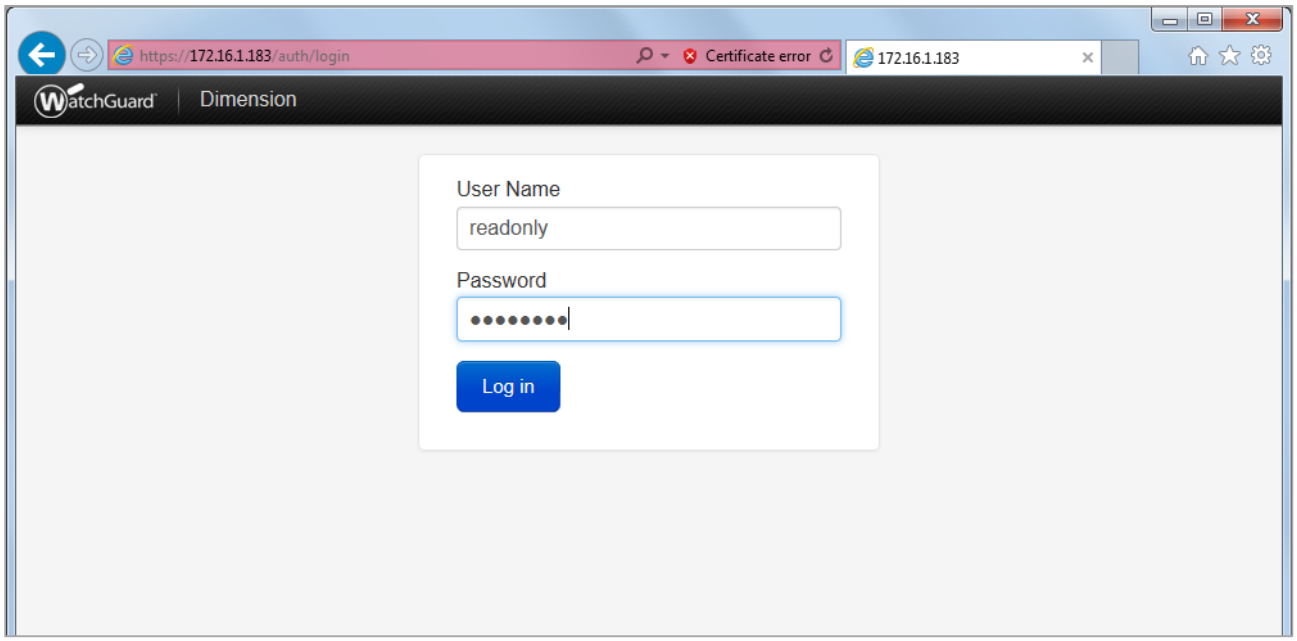


保存ボタンをクリックして、設定を反映させましょう。

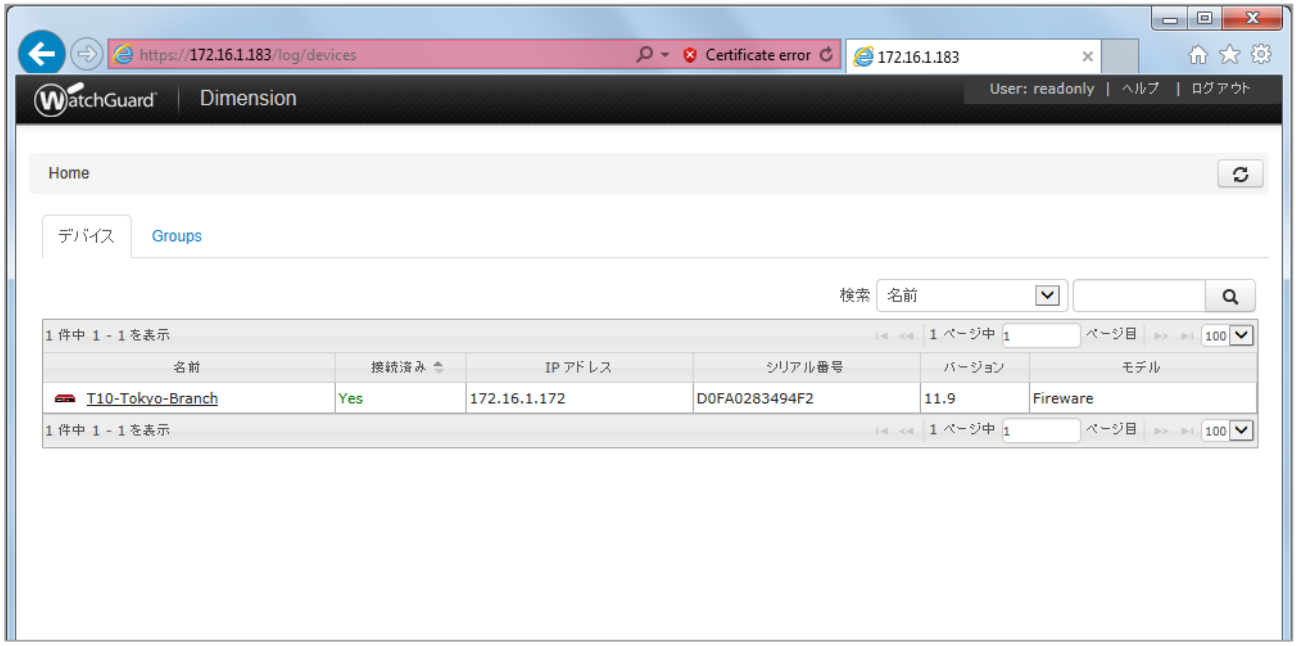
User management の画面に戻ると、readonly ユーザーが追加されているのを確認できます。



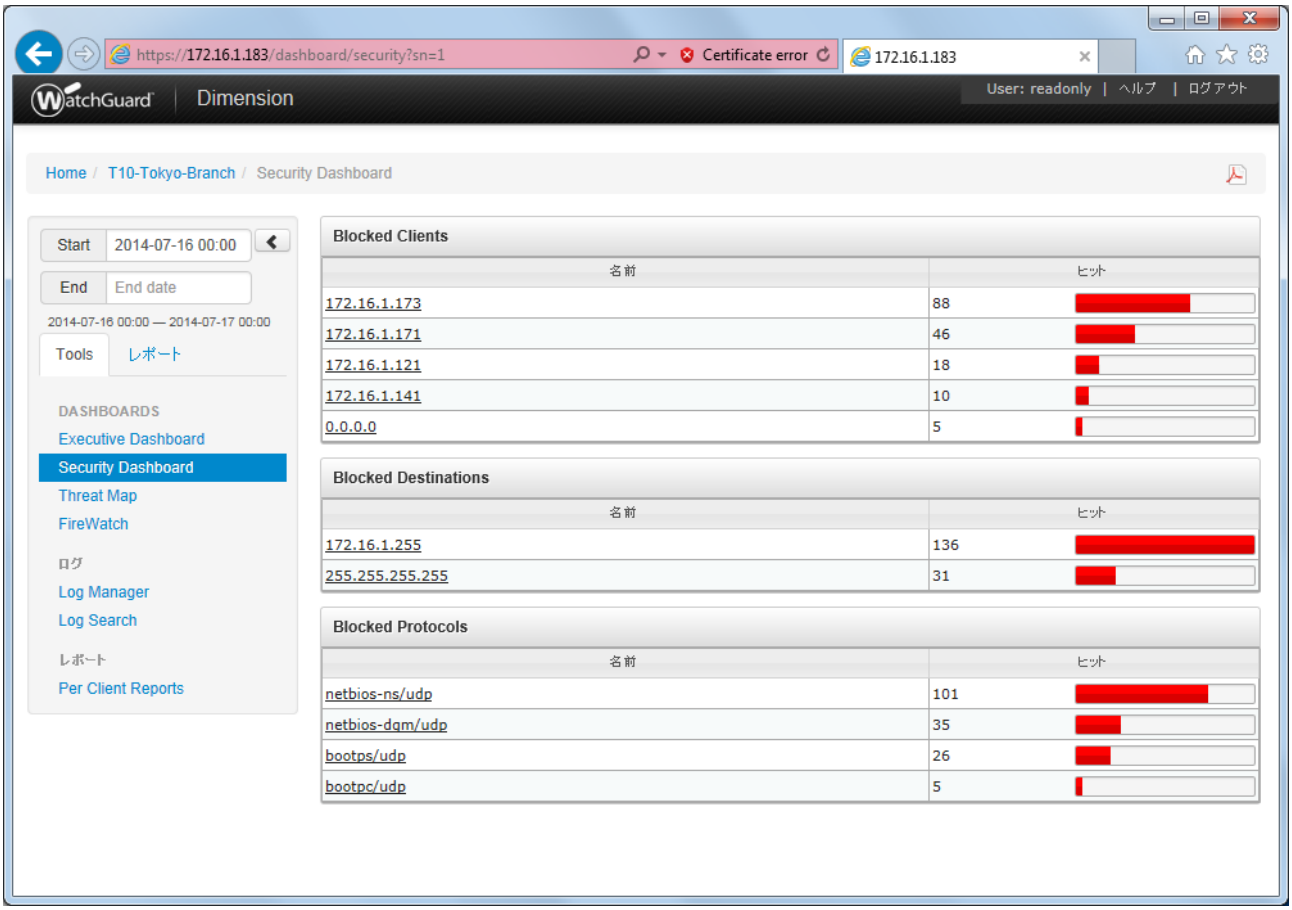
追加したユーザーでログインしてみます。



ログインし、閲覧可能にしたデバイスも表示されますが、Admin ユーザーと違い、右上部の Administration メニューが表示されません。



レポートを閲覧することができます。



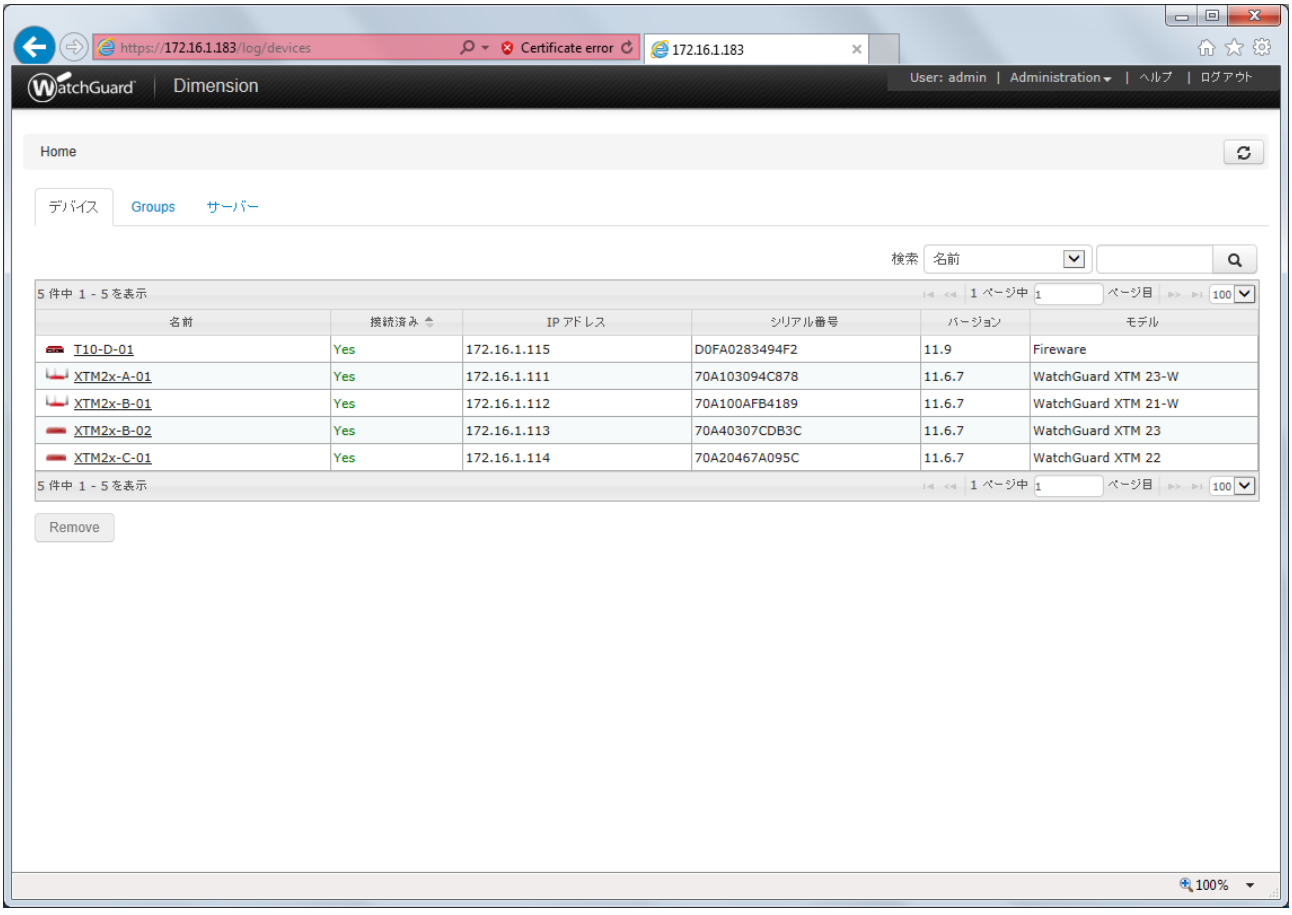
MSSP における運用

MSSP において、お客様にレポート公開する場合でも、これまでの要領で簡単に設定し、サービスを提供することが可能です。

仮に以下のようなお客様と機器があると想定します。それぞれの機器に会社のイニシャルを入れてわかりやすくしてあります。

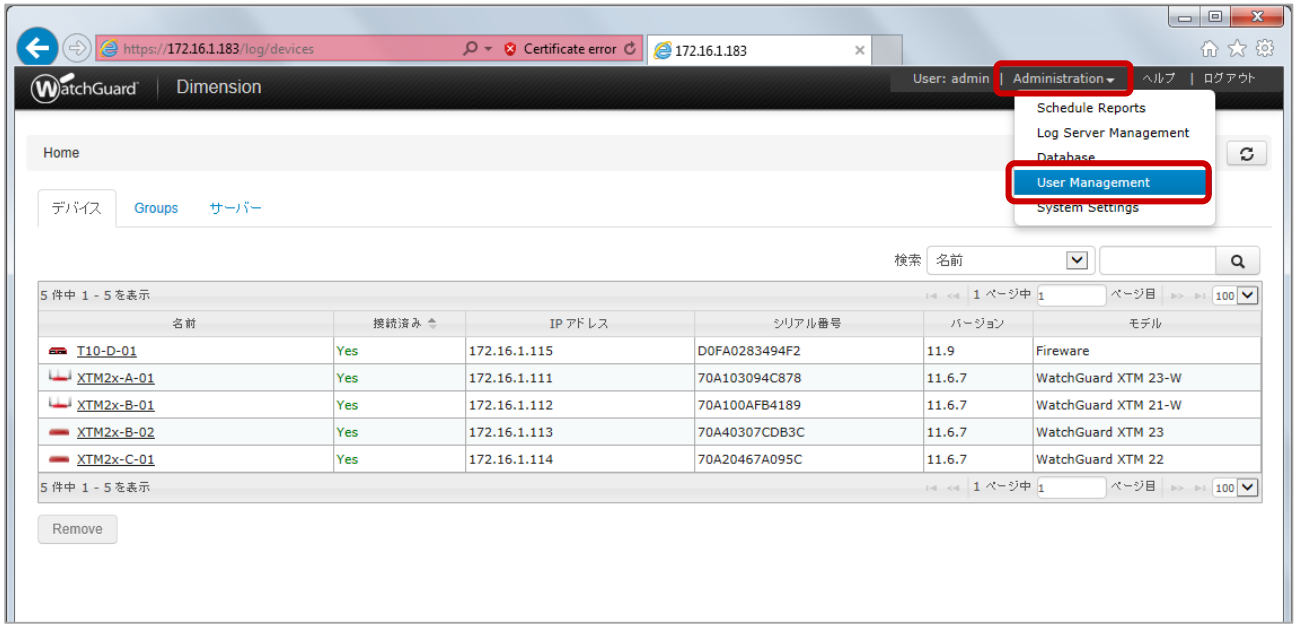
会社名	機器名	ユーザー名
A 社	XTM2x-A-01	AcompanyReportUser
B 社	XTM2x-B-01	BcompanyReportUser
	XTM2x-B-02	
C 社	XTM2x-C-01	CcompanyReportUser
D 社	T10-D-01	DcompanyReportUser

Admin ユーザーでログインすると、すべての機器が表示されています。

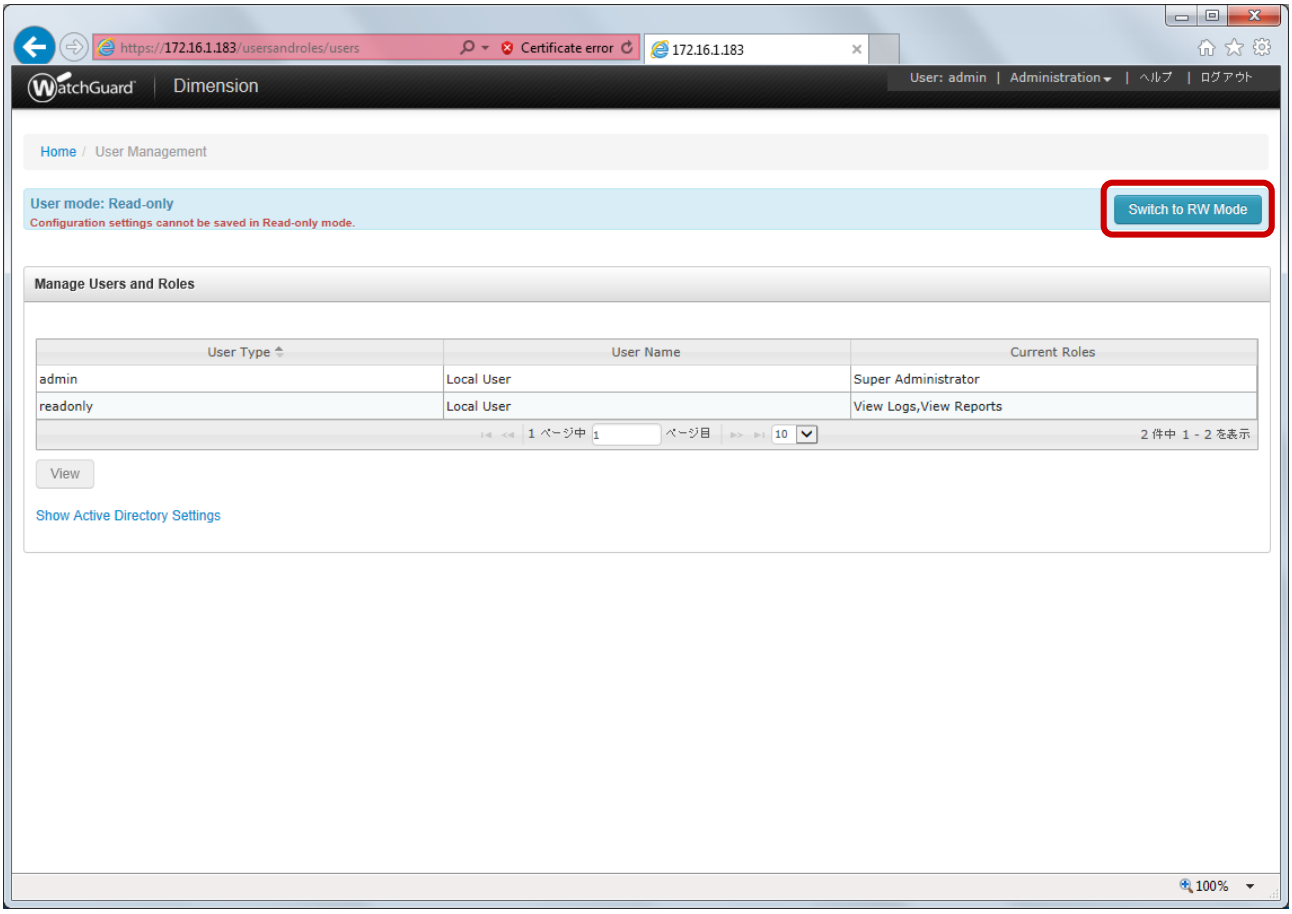


前章の手順でお客様ごとに Dimension ユーザーを作成し、該当の機器のみが閲覧できるようにします。

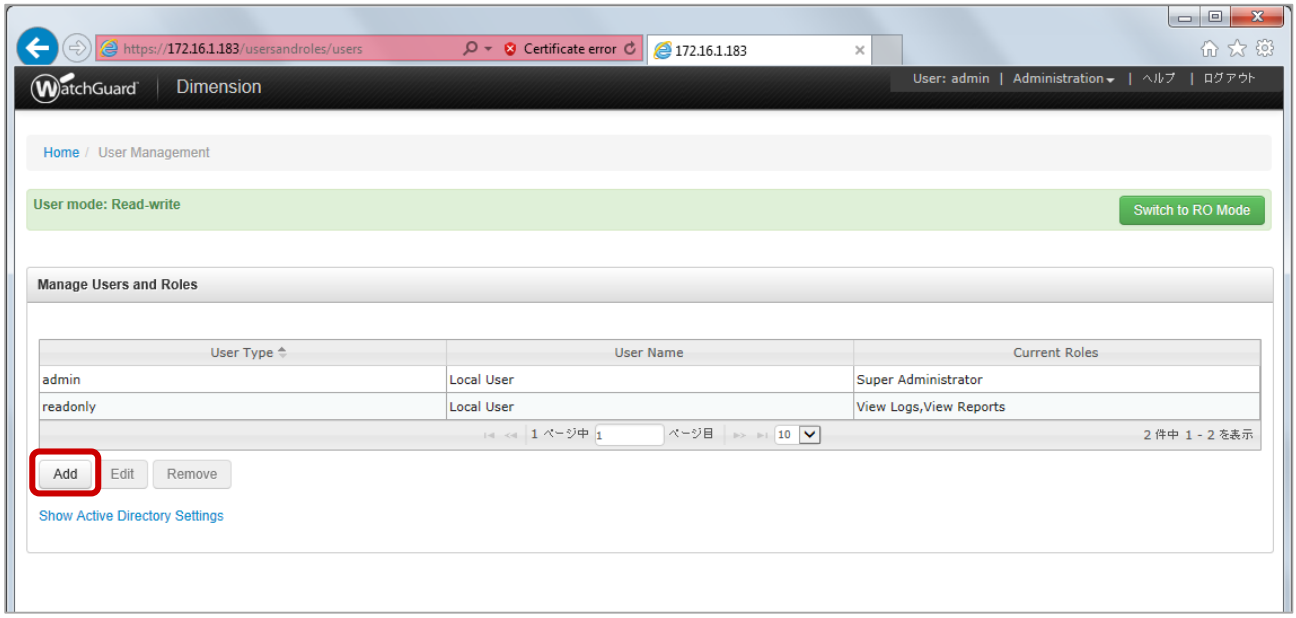
User Management の画面に移ります。



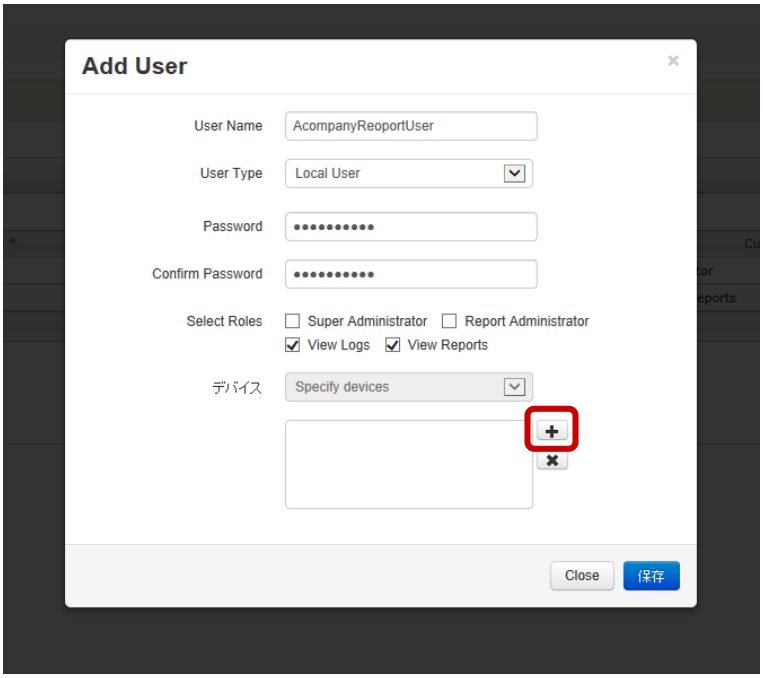
RW Mode にします。



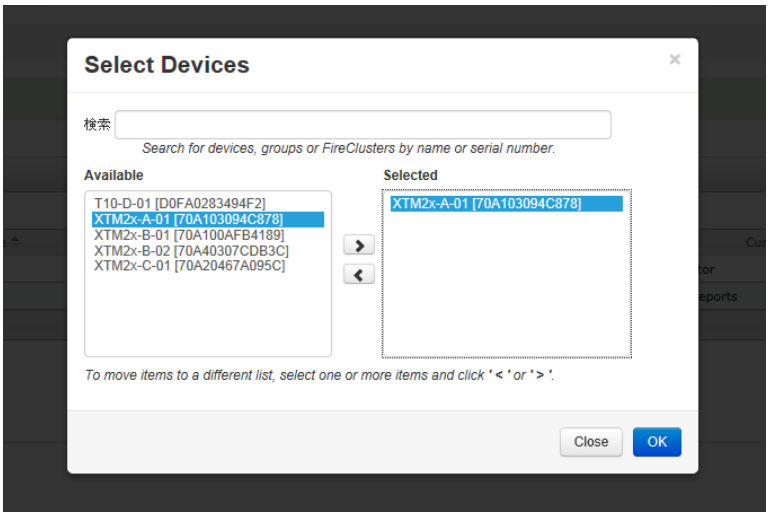
Add ボタンをクリックしてユーザーを追加します。



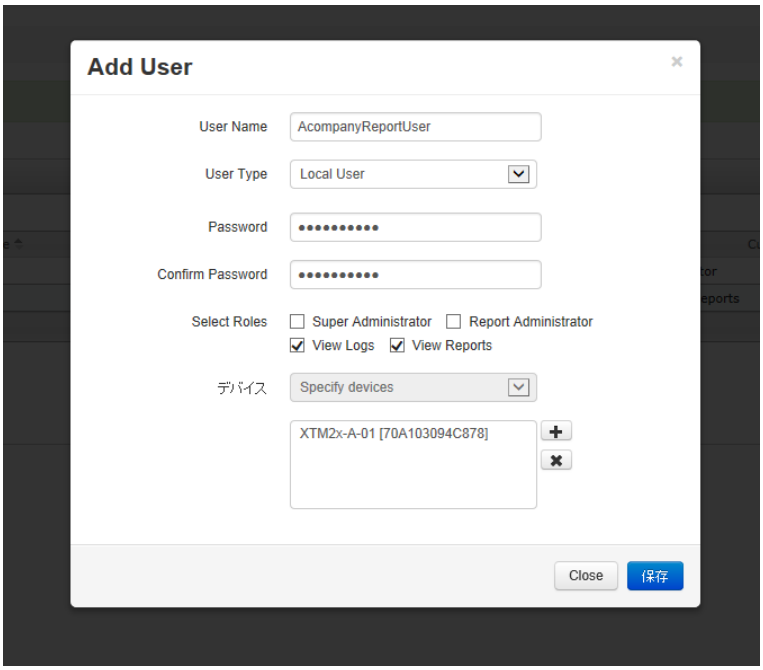
A 社のユーザー情報を入力し、バイスを選択します。



A 社のデバイスのみを閲覧可能なデバイスとして選択します。

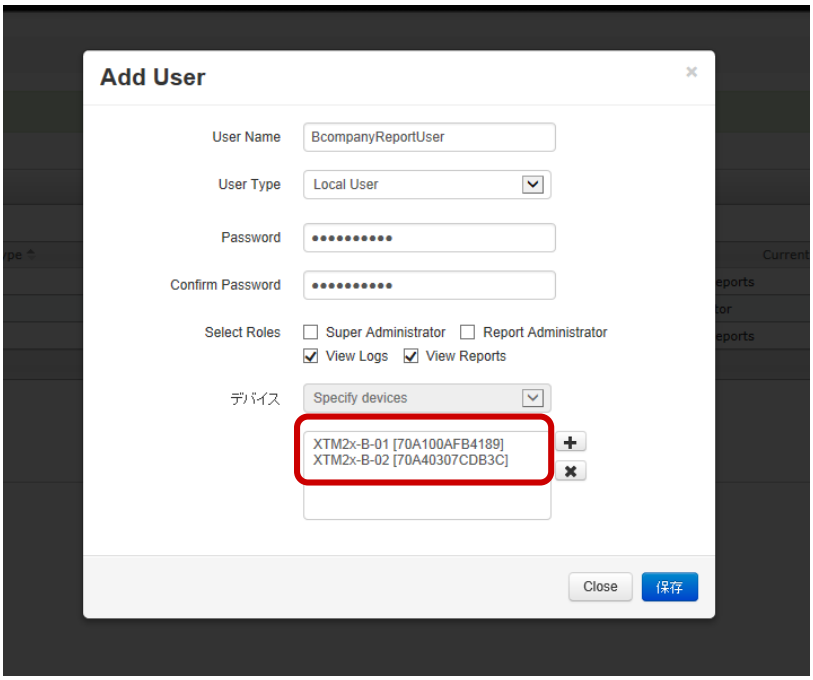


この状態で保存します。

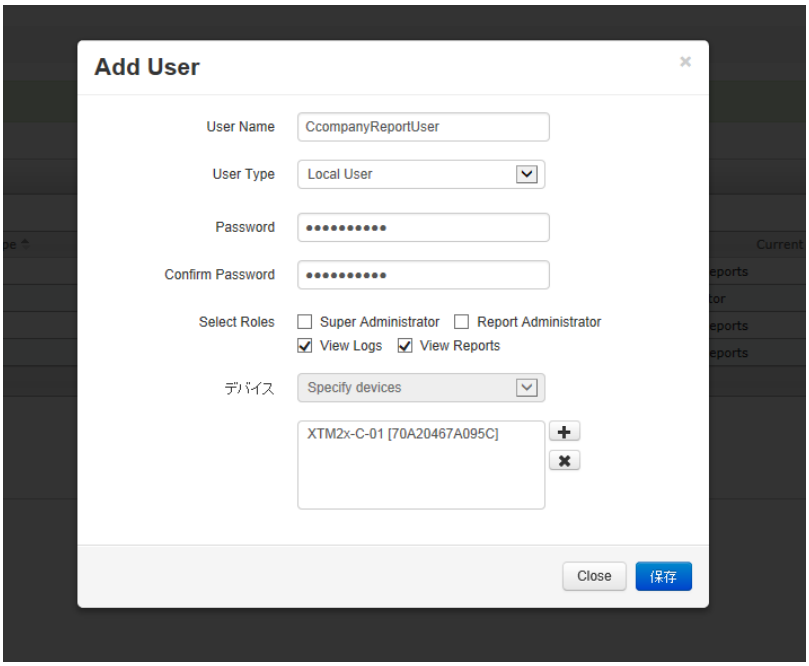


A 社ユーザーが追加されました。

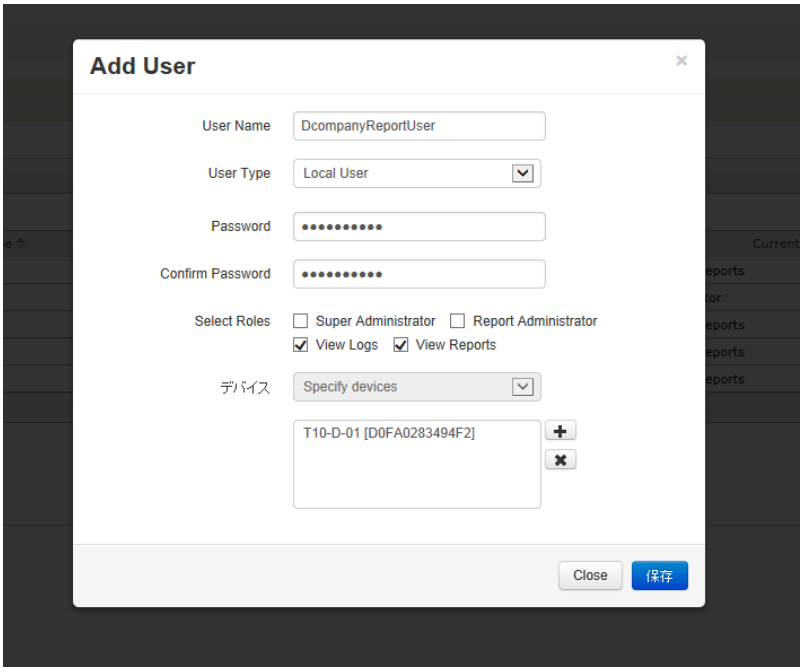
同様に B 社ユーザーを追加し、B 社のデバイスのみを閲覧可能な設定にます。



同じくC 社を設定。



同じくD社を設定。

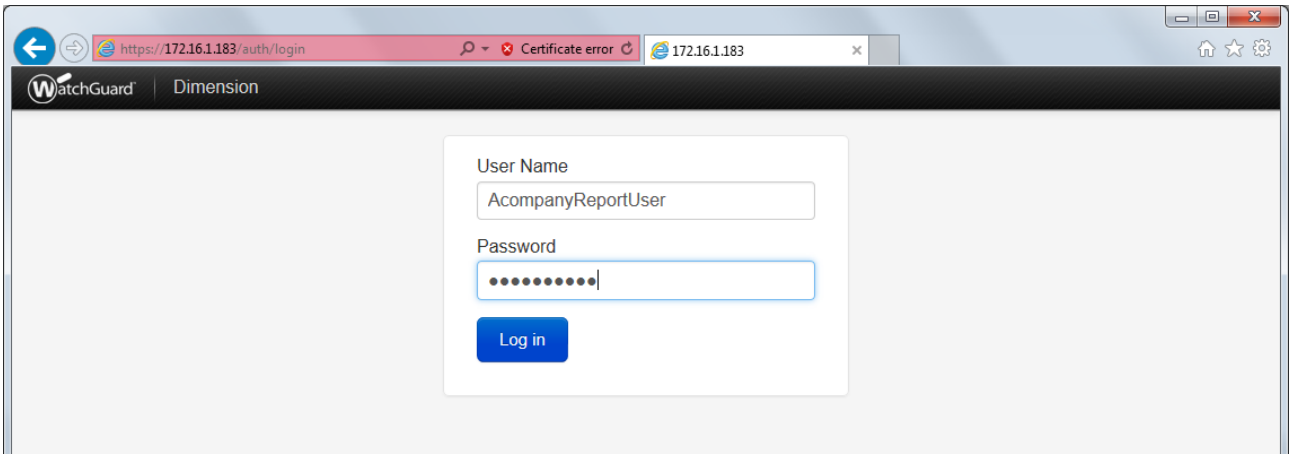


保存してユーザーの一覧に戻ると、AからD社のユーザーが設定されていることが確認できます。

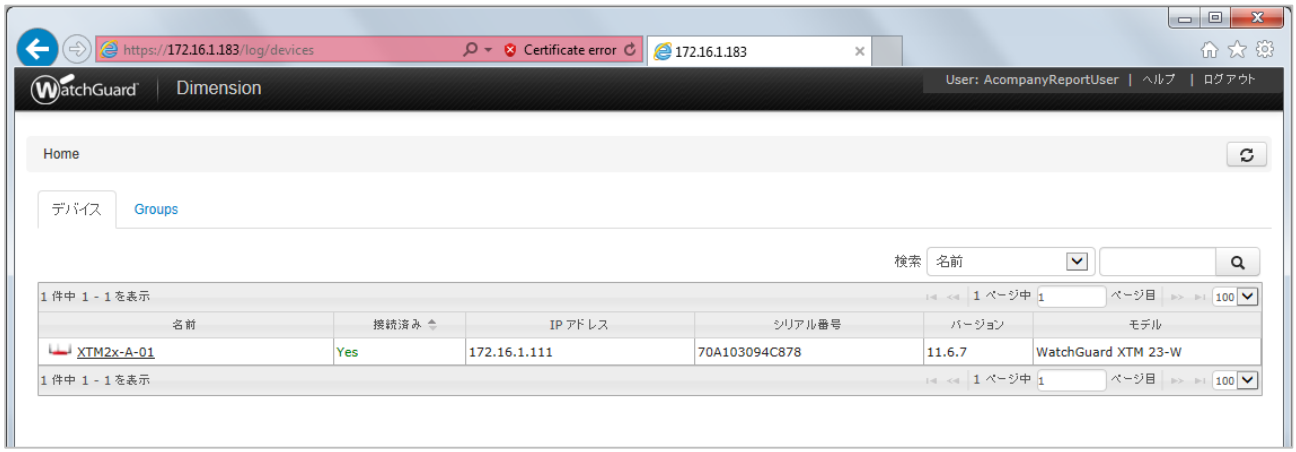
User Type	User Name
AcompanyReportUser	Local User
admin	Local User
BcompanyReportUser	Local User
CcompanyReportUser	Local User
DcompanyReportUser	Local User
readonly	Local User

1 ページ中 1 ページ目 10

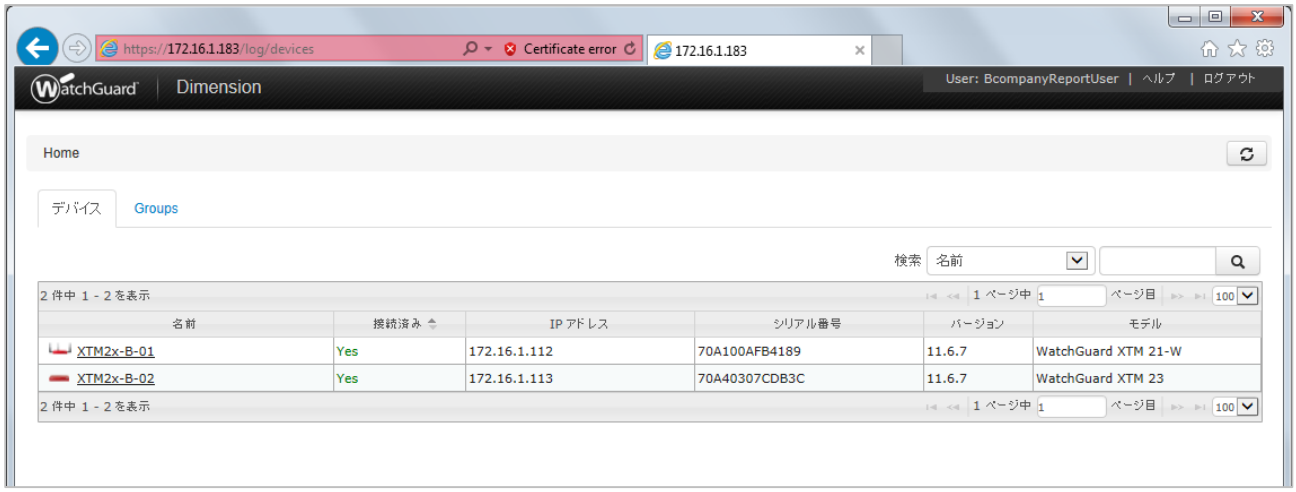
では A 社のユーザーでログインしてみましょう。



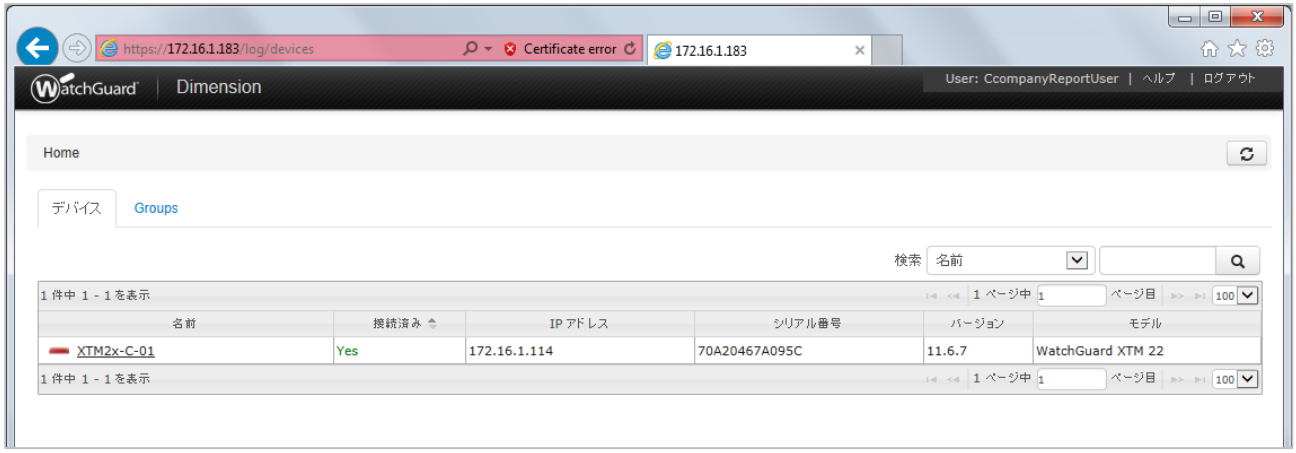
すると A 社ユーザーに紐付けられたデバイスだけが閲覧できます。



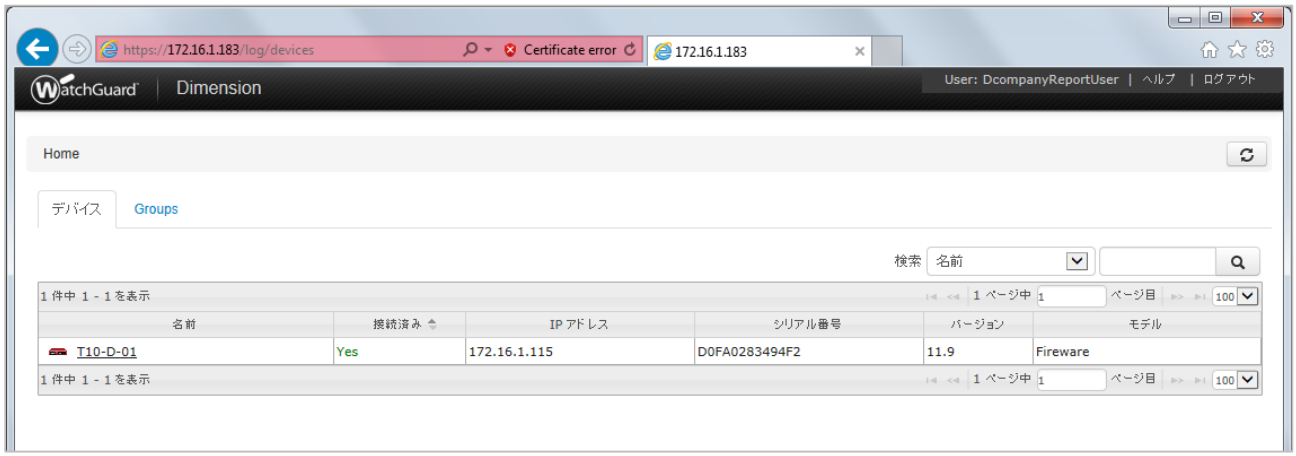
B 社ユーザーでログインすると、B 社に属する別な 2 台のデバイスが表示されます。



C 社でログイン。



D 社も他のお客様では見えてこなかった自社の Firebox T-10 が表示されています。



このようにお客さまごとのログインアカウントを作成し、そのアカウントにお客様のデバイスを紐付けることによってレポートサービスを提供できるようになります。

管理者メニュー リファレンス

前章までは Dimension の導入から実運用までの手順を最短コースで解説しましたが、この章では管理者メニューの設定項目を網羅的に解説します。

管理者メニューについて

管理者メニューとは

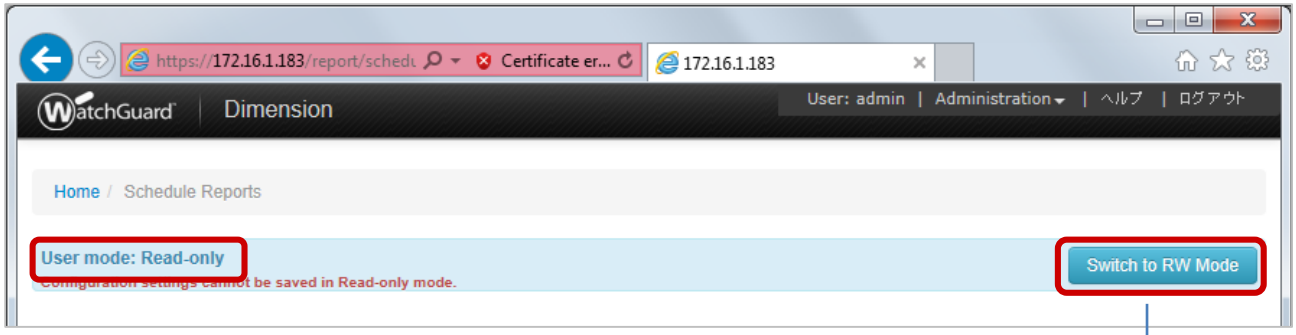
admin ユーザーで Dimension にログインした際に、画面右上部に「Administration」と表示されるメニューです。クリックすると、以下の各設定項目を選択することができます。

- Schedule Reports
- Log Server Management
- Database, User Management
- System Settings

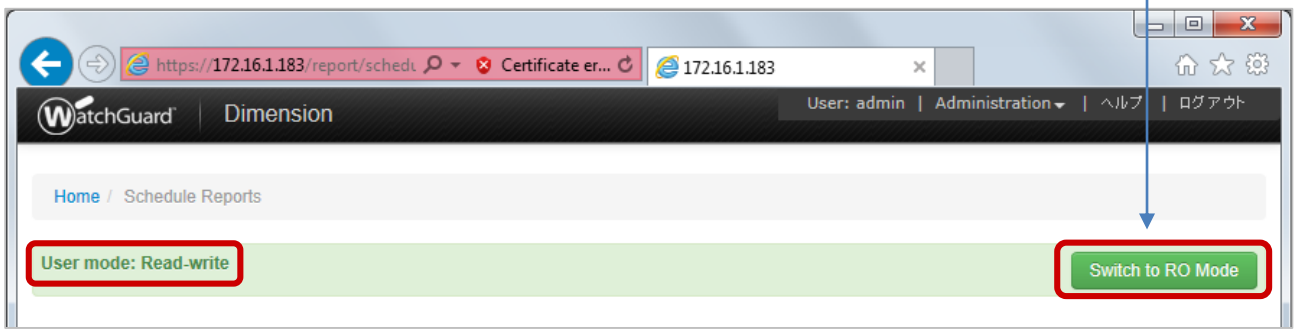
モードの切り替え

各設定項目の画面に移った際に User mode が Read only でと表示されている場合、読み取り専用モードであることを意味しており、このままでは設定変更はできません。

設定を変更する場合は Switch to RW Mode のボタンをクリックし、読み書き許可モードに切り替えます。



User mode: Read write と表示され、ボタンが緑色になったら設定変更が可能です。



Schedule Reports

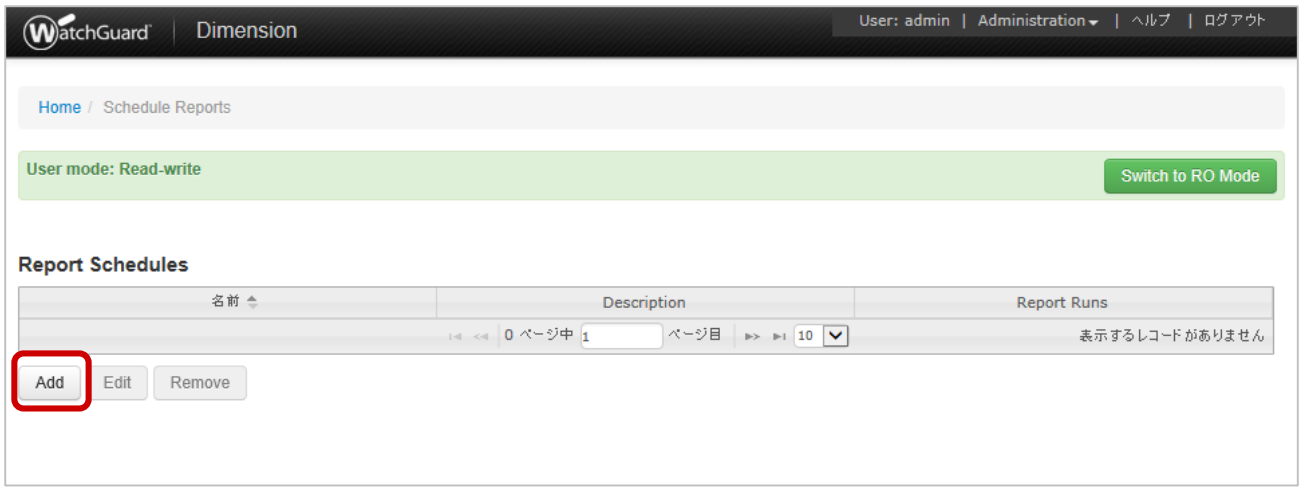
Schedule Reports では、Dimension が生成したレポートを PDF 形式にし、それを E メールで定期的に送信するスケジュールを設定することができます。

メールを送信するためには、あらかじめ Log Server Management ー Configuration ー Notification でメール送信を可能にするための設定を済ませておくことが必要です。

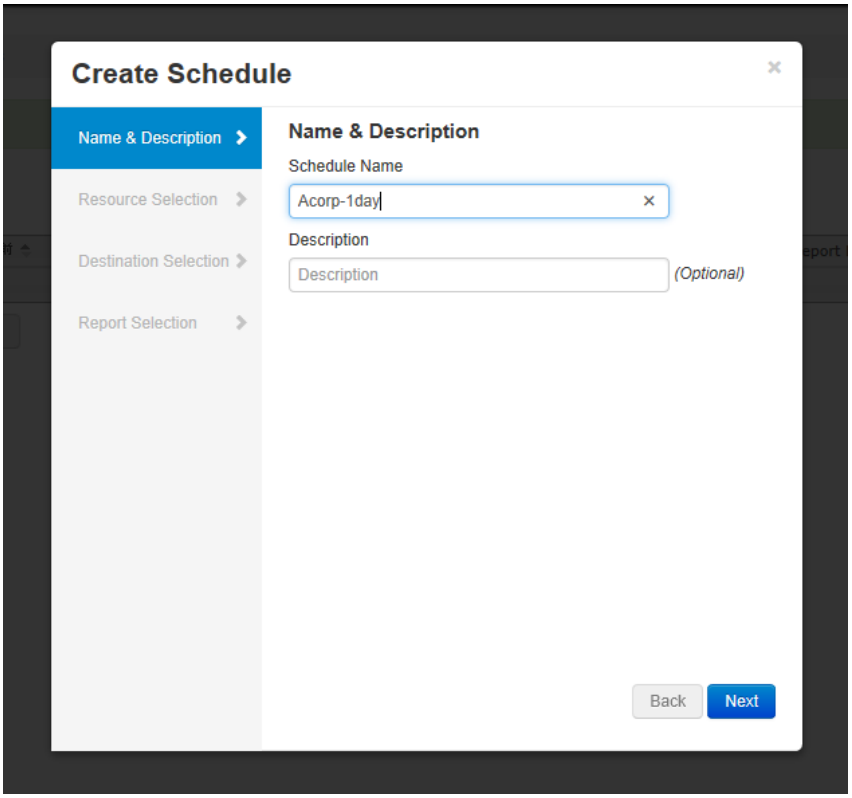
また、レポートは FTP に保存することもでき、その場合はあらかじめ Log Server Management ー Configuration ー Reporting で FTP サーバーの設定を済ませてください。

レポートスケジュールの追加

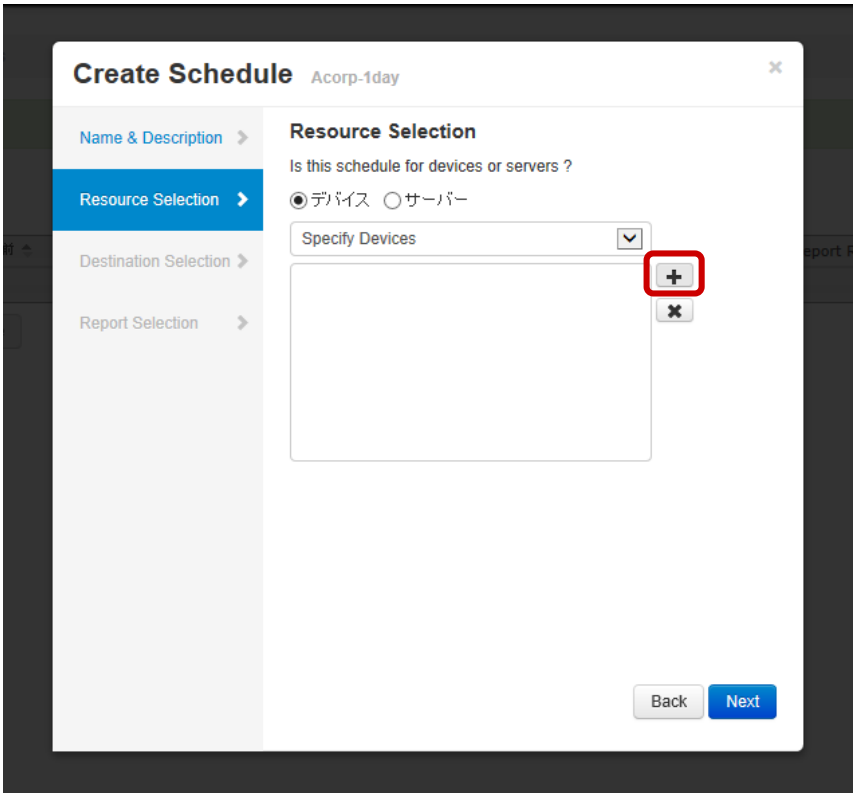
RW Mode にしたら、Add ボタンをクリックします。



Create Schedule 画面になります。最初にスケジュール名と説明を入力し、Next。

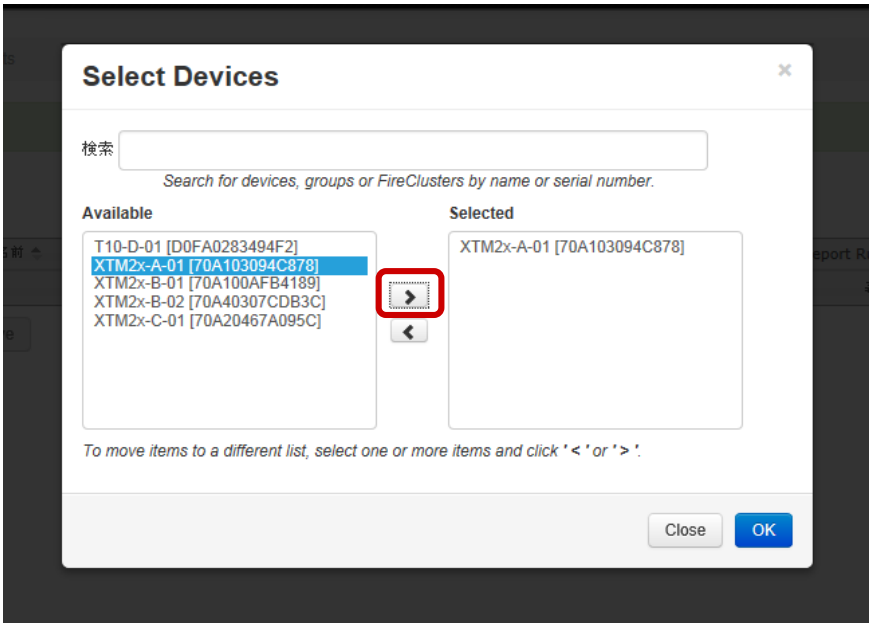


どのデバイスのレポートを対象にするか指定します。デバイスにチェックを入れ、ドロップダウンリストでは Specify Devices を選択し、[+] をクリックします。

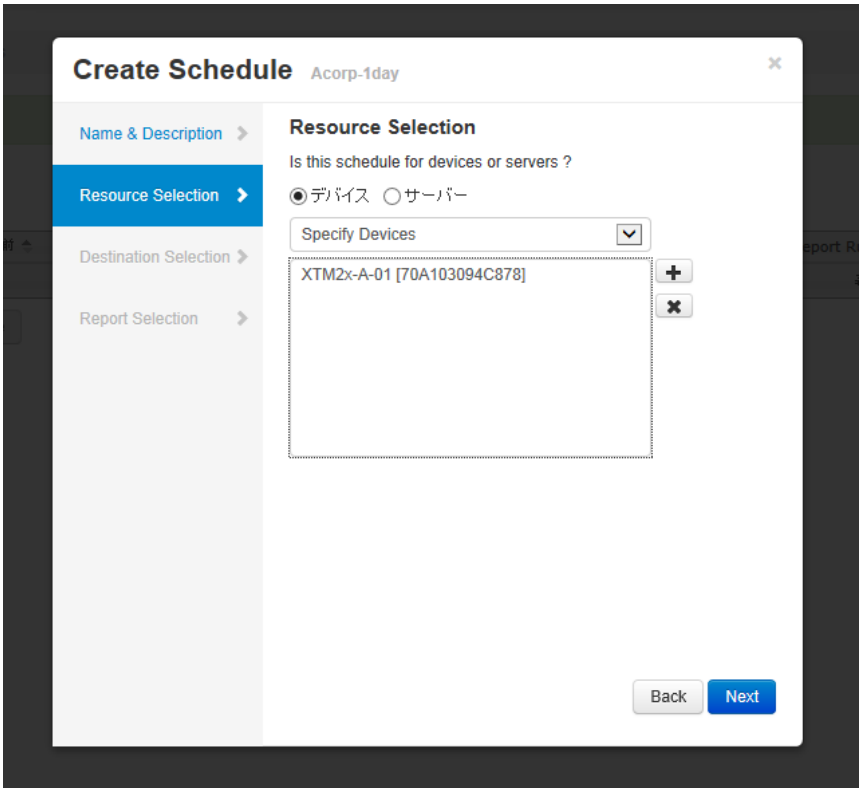


左側の Available エリアでするデバイスを選択し、 [>] をクリックして右側 Selected エリアにコピーします。

選択したら OK ボタンをクリックします。



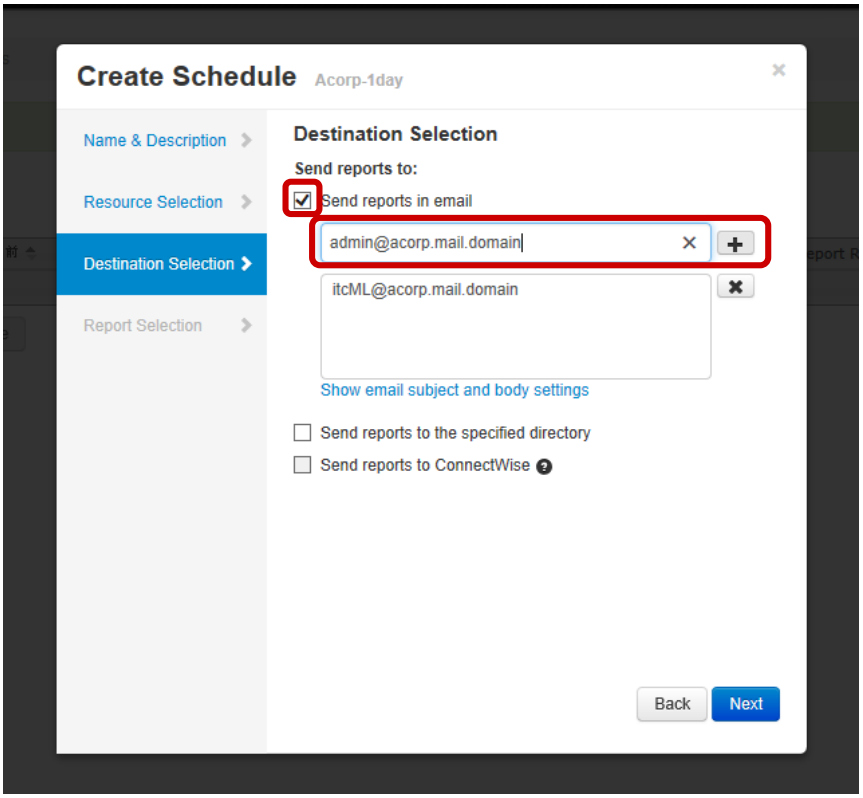
レポートするデバイスが指定された状態になります。Next。



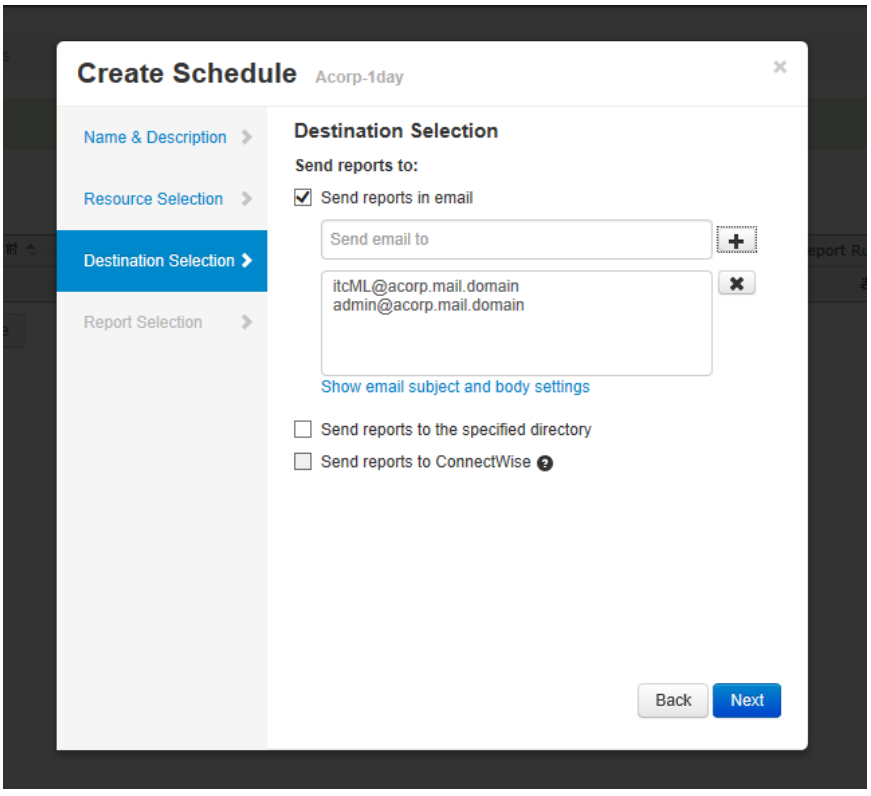
送信先のメールアドレスを指定します。

Send Reports in email. にチェックを入れると、宛先のメールアドレスを追加する欄が表示されます。

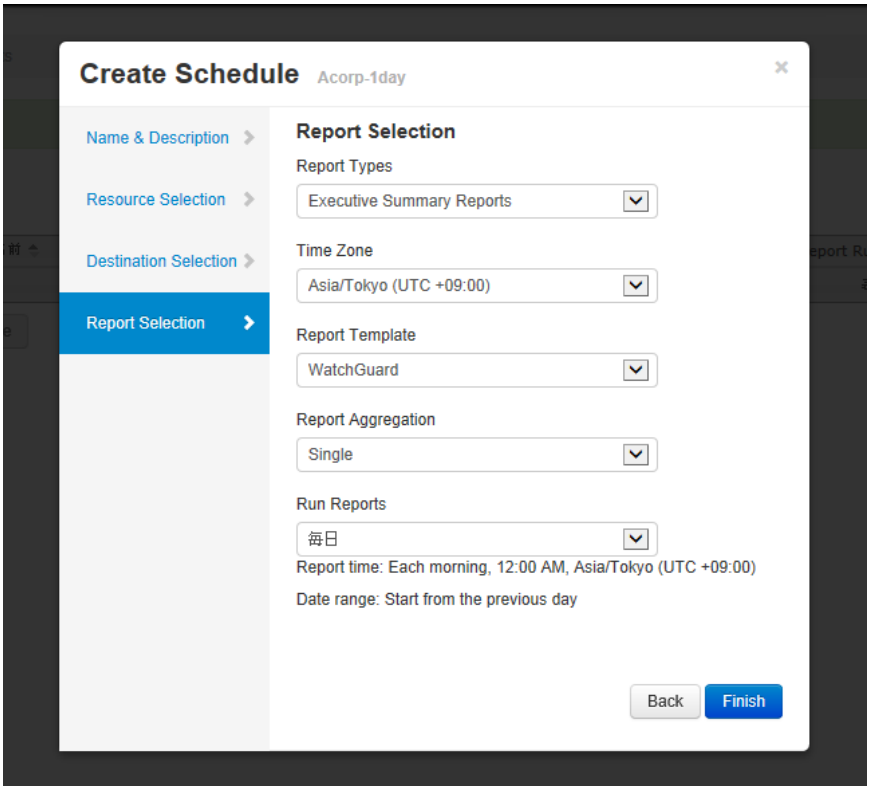
そこに必要なだけ送り先を入力し、[+] をクリックし、追加してゆきます。



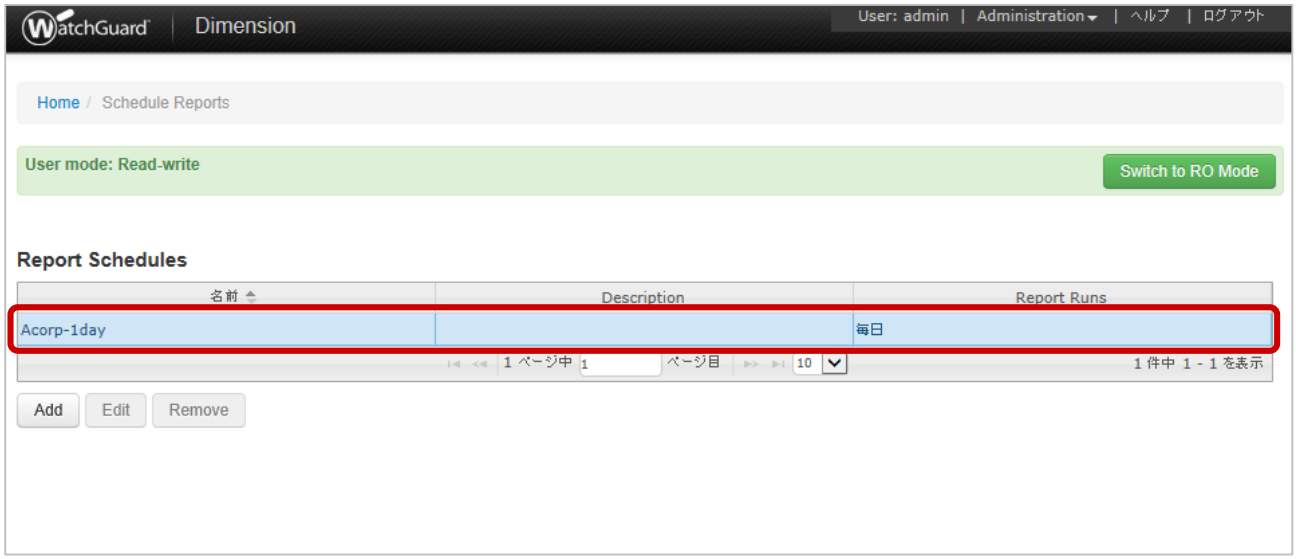
追加できました。Next。



レポートの種類、タイムゾーン、頻度などを指定し、Finish をクリックします。



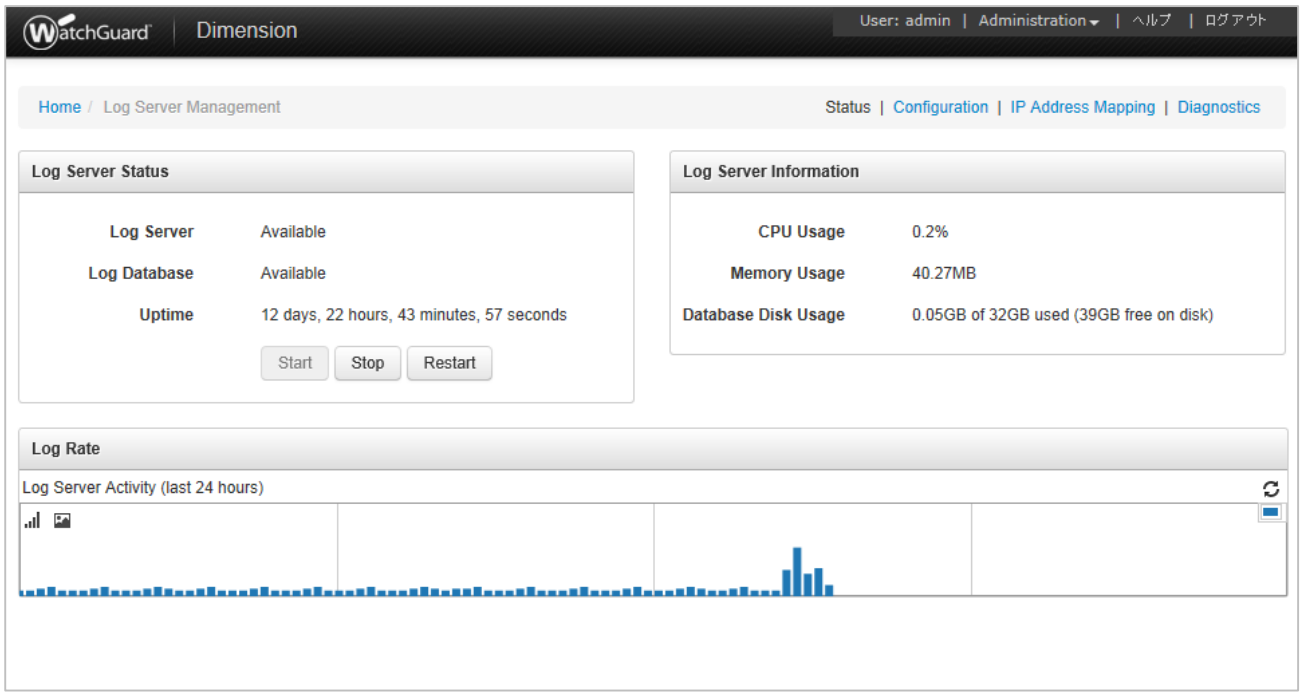
スケジュールが一覧に追加されれば設定完了です。



Log Server Management

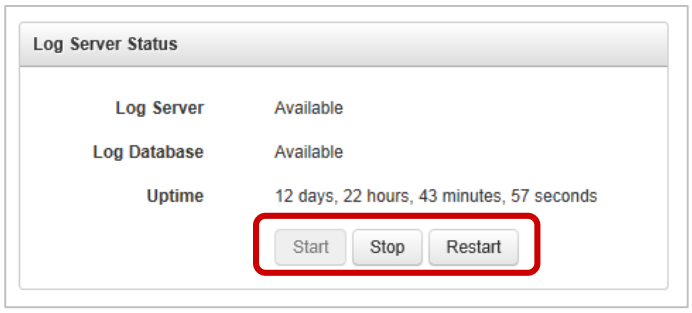
Status

ログサーバーの稼働状態、負荷、ログ量を表示しています。

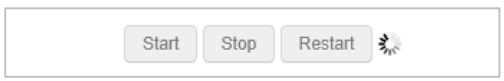


Log Server Status

Dimension 組み込みのログサーバーの開始/停止/再起動ができます。

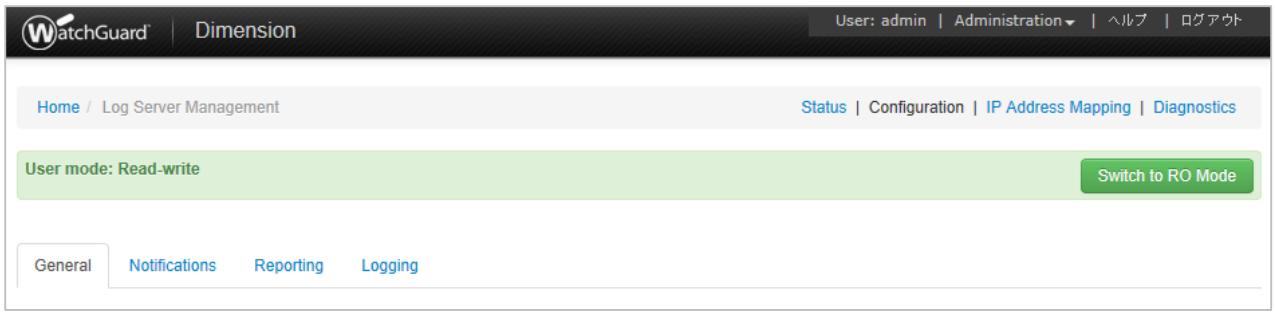


参考：以下は Stop ボタンをクリックしたところです。



Configuration

Log Server Management の Configuration セクションでは、ログサーバーの設定変更を行なうことができます。設定カテゴリーには General, Notifications, Reporting, Logging があります。



General

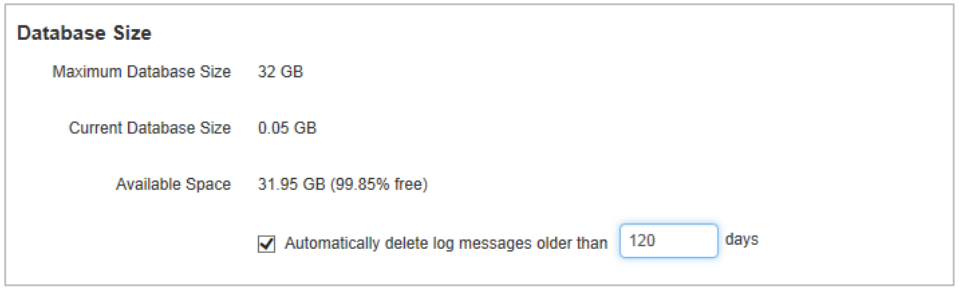
Encryption Key

ログ送信する際の暗号化キーを再設定できます。

注意：変更するとそれまで通信していた機器も、再設定するまでログが送信できなくなります。

Database Size

Automatically delete log messages older than [ ] days のチェックを有効にすると、指定した日数を超えたログは自動的に削除されます。

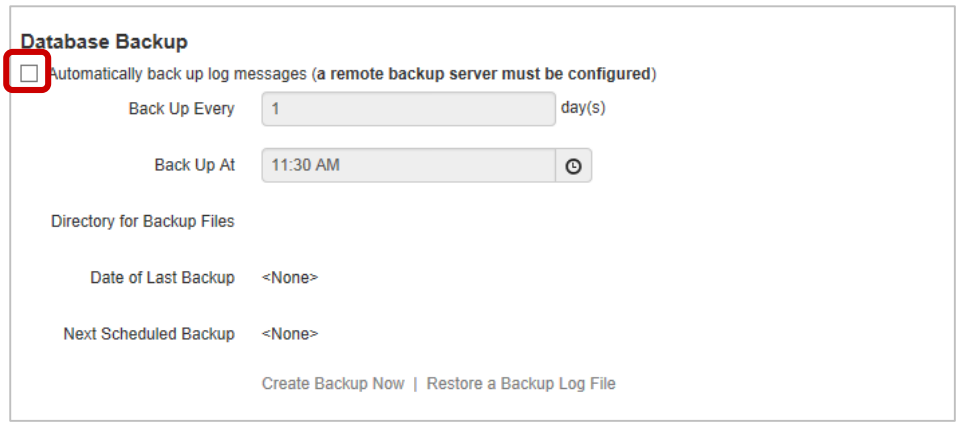


例として、このように 120 日に設定すると、閲覧者からは少なくとも直近 3 ヶ月のログ/レポートの閲覧を保証する形で運用できます。

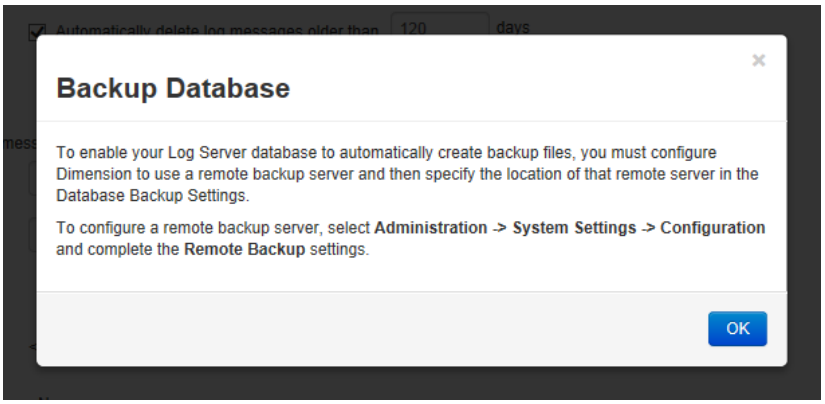
Database Backup

ログを格納したデータベースのバックアップを行ないます。

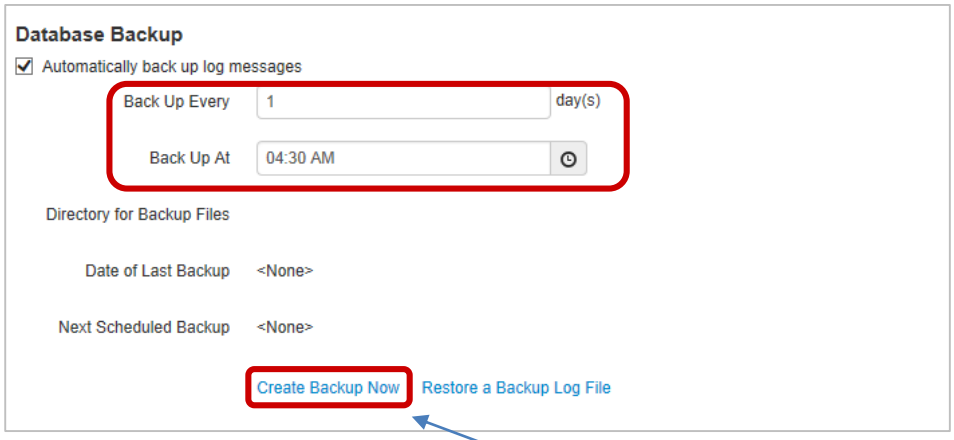
Automatically back up log messages にチェックを入れて有効にします。



有効にすると、Administration ー System Settings ー Configuration and complete the Remote Backup であらかじめバックアップ先を設定する必要がある旨が表示されます。OK をクリックします。



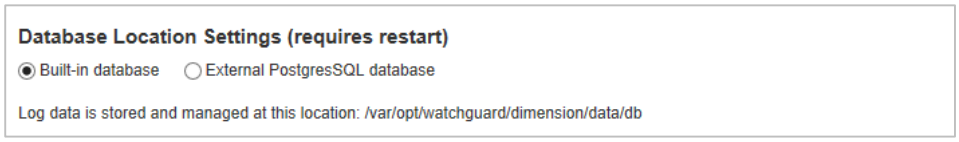
デーバベースをバックアップする頻度と時間を設定します。



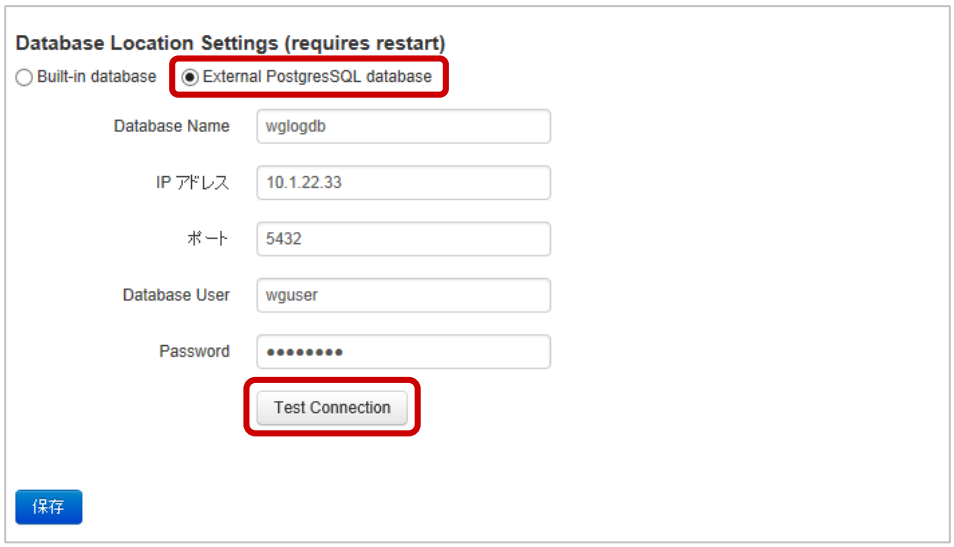
また、スケジュールを設定しなくても、Create Backup Now リンクをクリックすれば、いつでも手動でバックアップを実行できます。

Database Location Settings (requires restart)

データベースを Dimension 標準のものにするか、外部に構築した PostgreSQL にするか、指定できます。



External PostgreSQL database を選択すると、接続に必要なサーバーとデータベースの情報を入力できるようになります。入力したら、Test Connection ボタンをクリックし、問題ないことを確認してください。



Log Server Management の設定が完了したら、保存ボタンをクリックし、設定を反映させてください。

Notifications

Notifications は、ログサーバーに何かしらのイベントが発生した場合に、メールで通知する機能です。

Events

When a failure event occurs on this Log Server

→ログサーバーに深刻な問題が発生した場合に通知します。

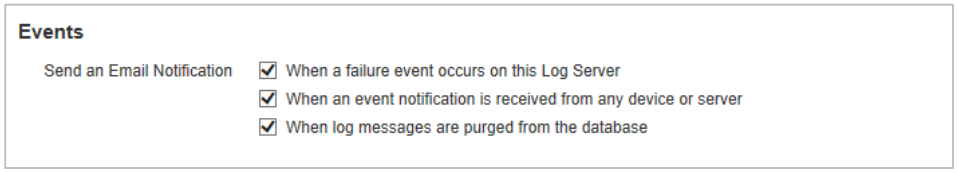
(DB のエラー、ディスクフル、バックアップエラー、接続エラーなど)

When an event notification is received from any device or server

→接続している機器から何らかのイベント通知があったばあいに通知します。

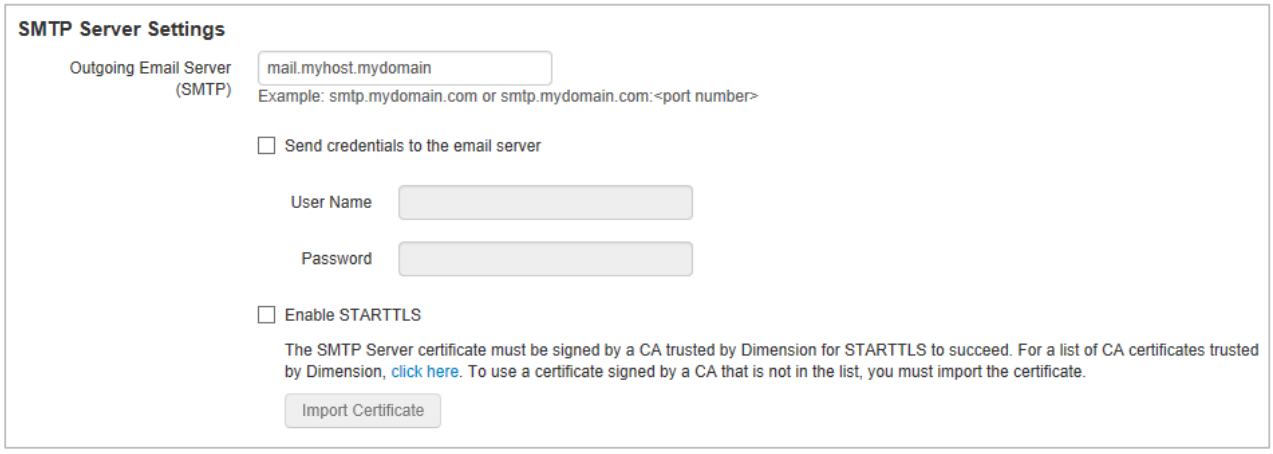
When log messages are purged from the database

→データベースからログが削除処理された場合に通知します。



SMTP Server Settings

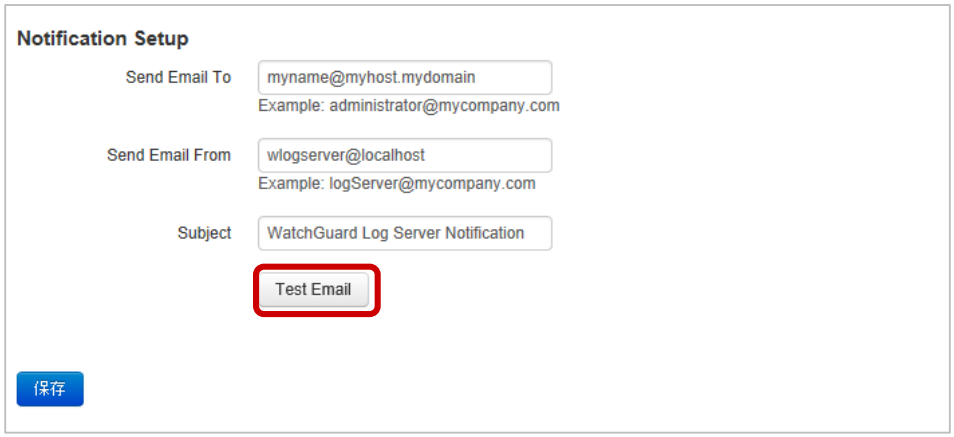
通知機能のために使用するメールサーバーの情報を設定します。



Notification Setup

メール通知する際の宛先、Sender、件名を設定します。

Test Email ボタンで正常に送信できるかテストできます。



Notification の設定が済んだら、保存ボタンをクリックして設定を反映させてください。

Reporting

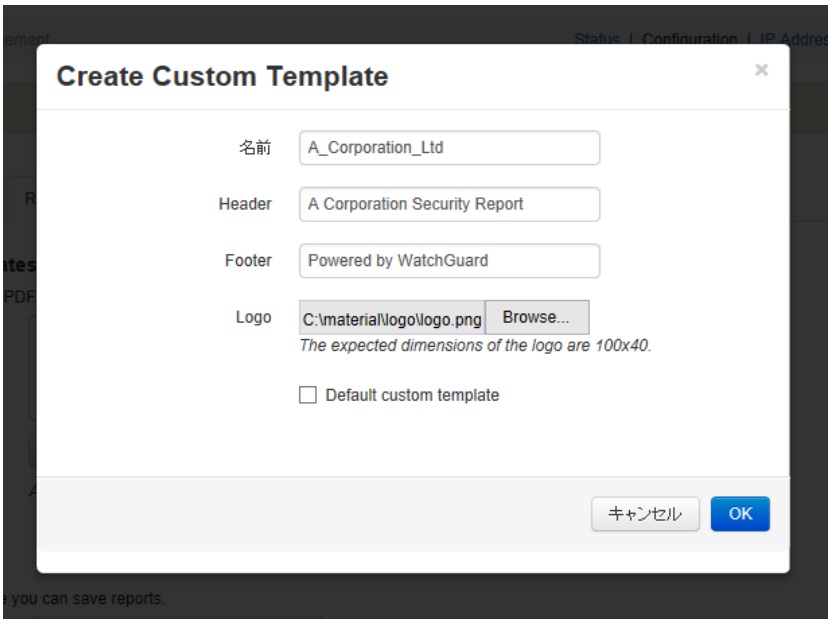
Reporting では、レポートのテンプレート、FTP の転送先などを設定できます。

Custom Report Templates

ウォッチガードのテンプレートを使用しないで、カスタマイズされたテンプレートを作成する場合、Add ボタンをクリックします。

カスタムテンプレートを作成する画面になります。

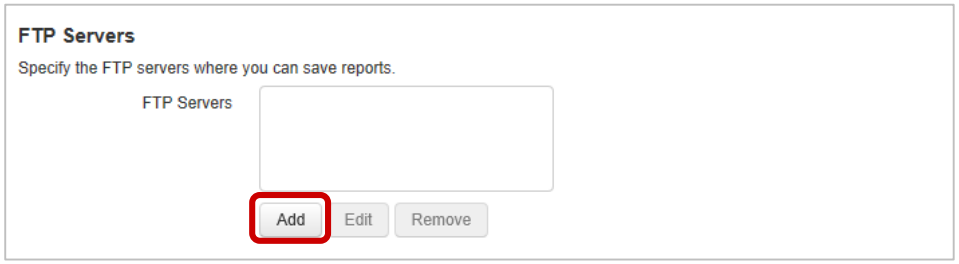
名前(社名など)を指定し、ロゴもオリジナルのものを使用することができます。サイズは 100×40 より大きくならないようにします。ヘッダーとフッターは各ページの上下に固定のテキストとして表示されます。



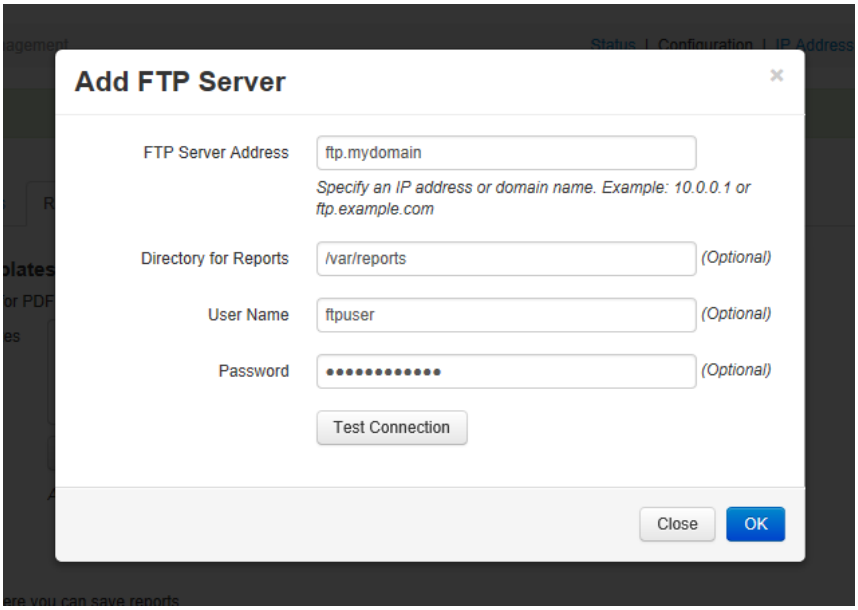
OK をクリックしてテンプレートの追加となります。

FTP Servers

レポートを FTP に格納したい場合に指定します。Add ボタンをクリックします。



FTP サーバーの接続情報を設定します。設定後は正常に動作するか、Test Connection ボタンで確認してください。



OK をクリックすれば FTP サーバーの追加となります。

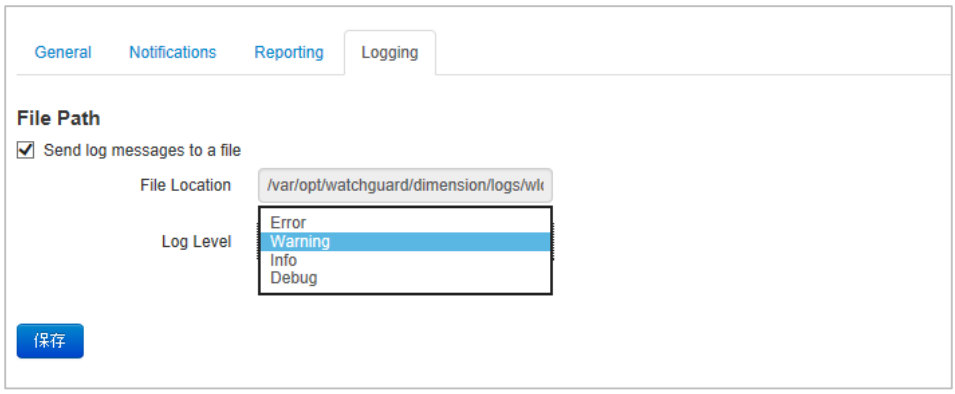
ConnectWise Settings

ConnectWise にレポートを統合する場合はこのオプションを有効にします。

Reporting について設定できたら、保存ボタンをクリックして設定を反映させてください。

Logging

Dimension サーバー内のログ出力先を指定します。またログレベルを指定できます。



IP Address Mapping

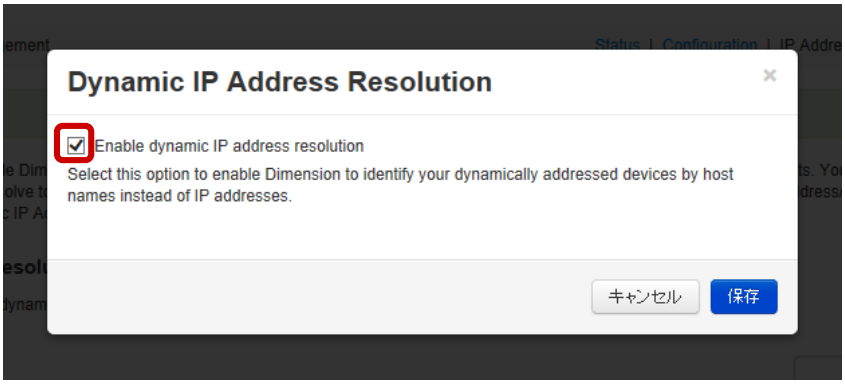
IP Address Mapping セクションでは、レポート内の IP アドレスを名前で表現するための、IP アドレスと名前の対応を設定します。

Dynamic IP Address Resolution

Dynamic IP Address Resolution は、動的に IP アドレスを割り当てられるデバイスの名前解決を有効にします。プライベートアドレスの範囲であれば、Dimension は DNS サーバーに IP アドレスを逆引きし、ホスト名とマッピングします。

この機能を有効にするには、Configure ボタンをクリックします。

Enable dynamic IP address resolution にチェックを入れ、保存します。



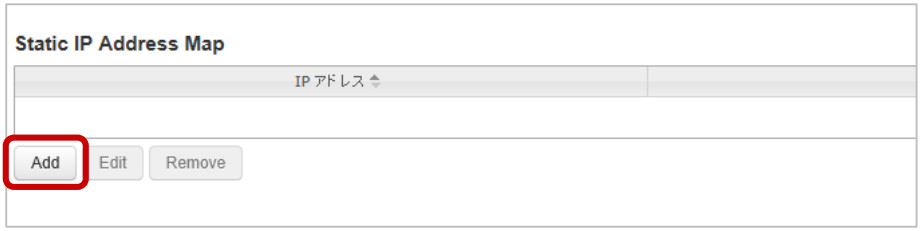
Static IP Address Map

静的 IP アドレスを持つデバイスについては、IP アドレスとホスト名のペアを設定できます。この場合 DNS サーバーに問い合わせすることはありません。

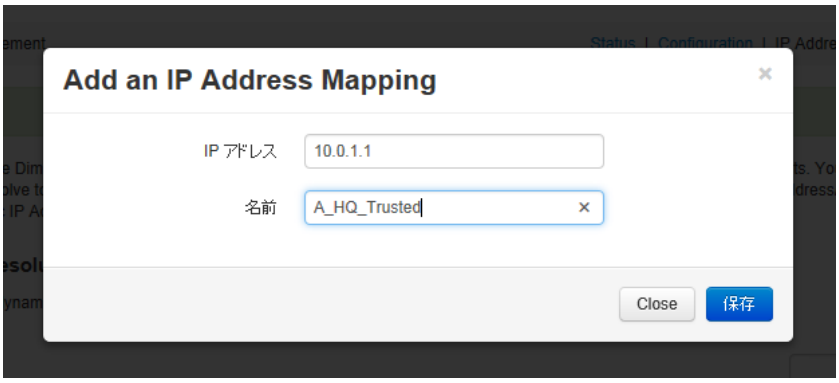
このマッピングは、CSV ファイルでインポートすることもできます。

個別の追加

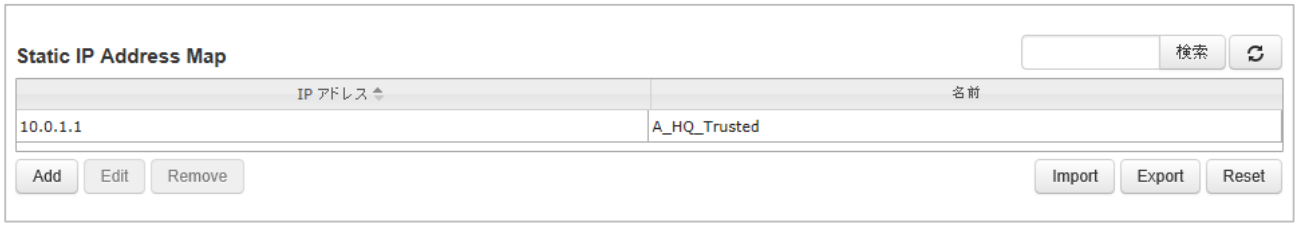
Add ボタンをクリックします。



IP アドレスと名前を入力し、保存します。



一覧に追加されます。

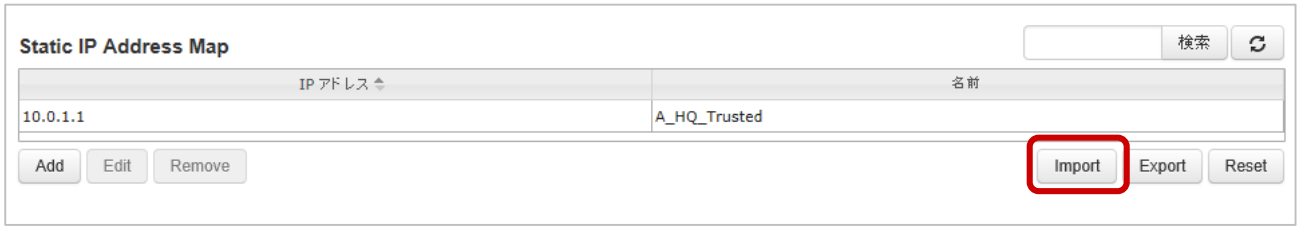


インポート/エクスポート

CSV ファイルで、一行につき IP アドレス,名前のフォーマットで記述し、インポートすることができます。

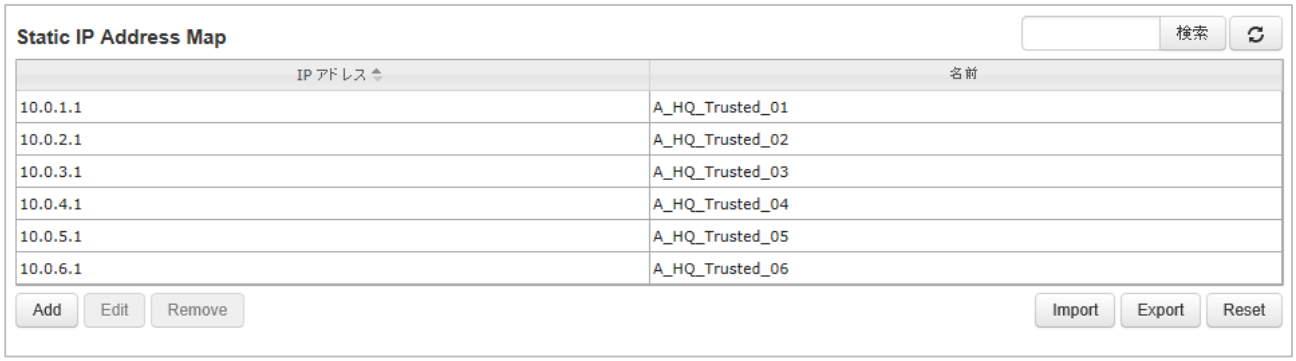
また、以前に割り当てられた IP アドレスを持つエントリーを再度インポートすると、既存のマッピングは、新しくインポートされたマッピングに置き換えられます。

インポートを実行するには、Import ボタンをクリックします。

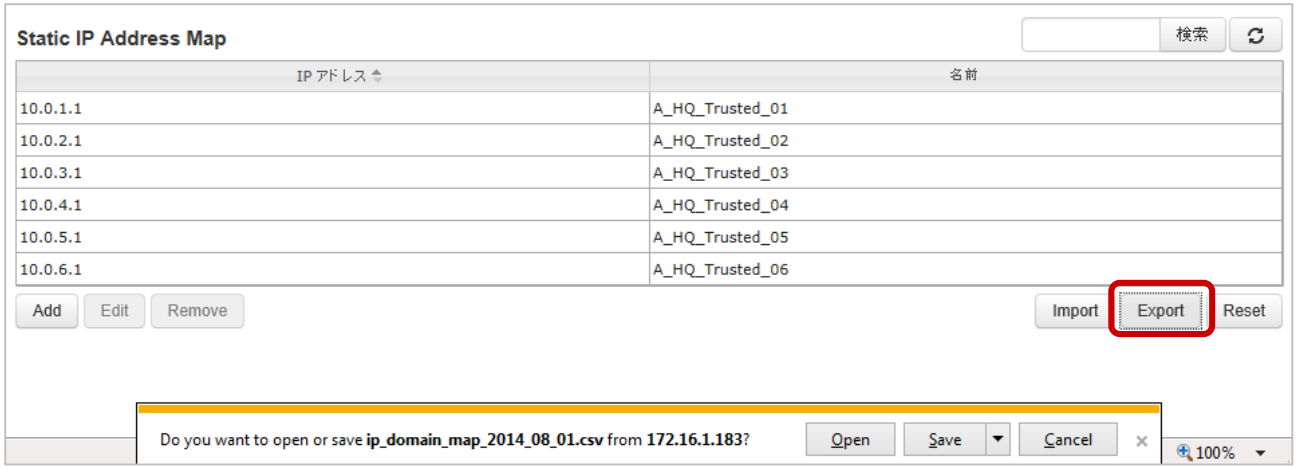


CSV ファイルを指定し、OK をクリックします。

次のようにインポートされます。



エクスポートボタンをクリックすると、現時点のマッピングがすべて CSV 形式で保存できます。



Diagnostics

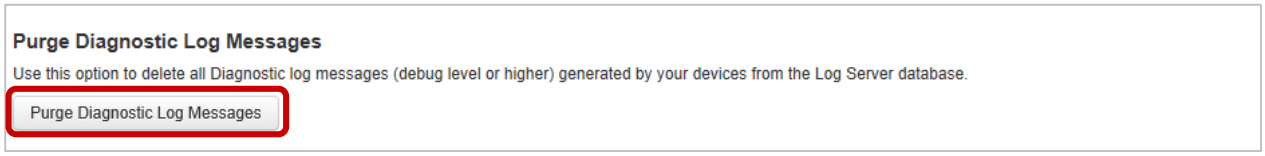
Diagnostics では、診断ログの閲覧や削除を実行することができます。

また、Dimension サーバー上のアクティブなプロセスを確認することができます。

Purge Diagnostic Log Messages

診断ログメッセージの削除機能です。デバッグレベル以上のすべての診断ログメッセージを削除し、データベースのスペースを節約することができます。

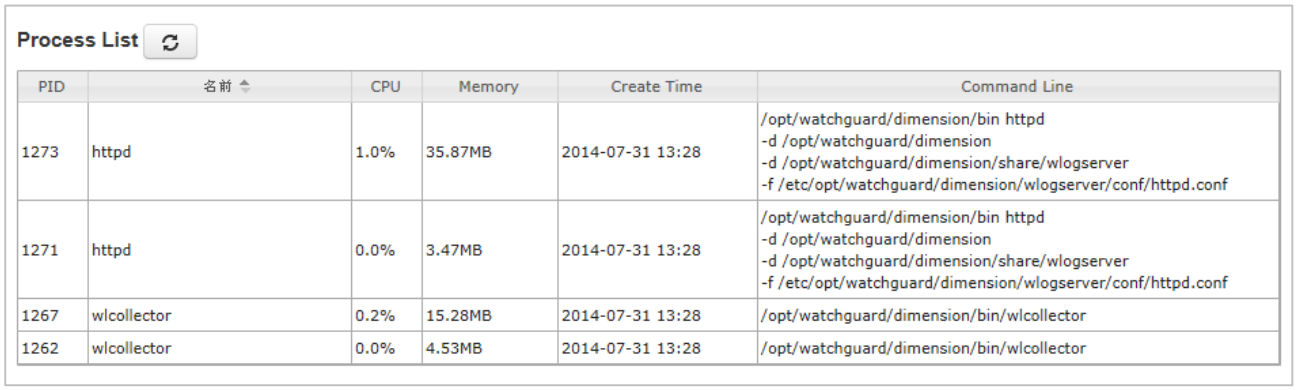
Purge Diagnostic Log Messages ボタンをクリックします。



即座に診断メッセージがデータベースから削除されます。

Process List

Dimension サーバー上のアクティブなプロセスを確認することができ、その詳細(CPU 使用率やメモリの使用量など)も確認できます。

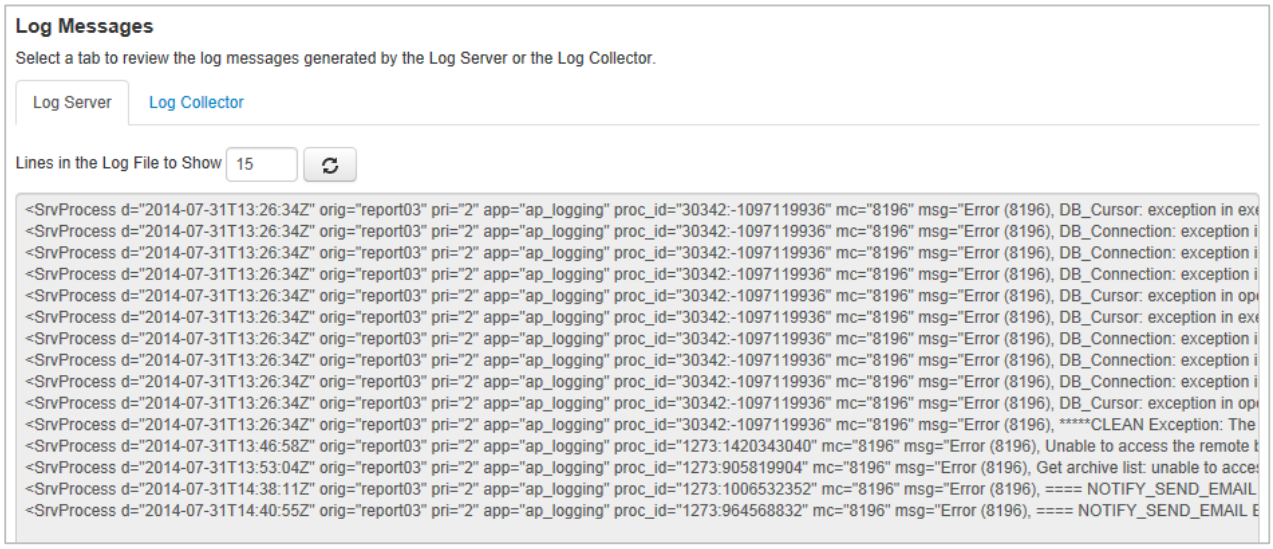


PID	名前	CPU	Memory	Create Time	Command Line
1273	httpd	1.0%	35.87MB	2014-07-31 13:28	/opt/watchguard/dimension/bin httpd -d /opt/watchguard/dimension -d /opt/watchguard/dimension/share/wlogserver -f /etc/opt/watchguard/dimension/wlogserver/conf/httpd.conf
1271	httpd	0.0%	3.47MB	2014-07-31 13:28	/opt/watchguard/dimension/bin httpd -d /opt/watchguard/dimension -d /opt/watchguard/dimension/share/wlogserver -f /etc/opt/watchguard/dimension/wlogserver/conf/httpd.conf
1267	wlcollector	0.2%	15.28MB	2014-07-31 13:28	/opt/watchguard/dimension/bin/wlcollector
1262	wlcollector	0.0%	4.53MB	2014-07-31 13:28	/opt/watchguard/dimension/bin/wlcollector

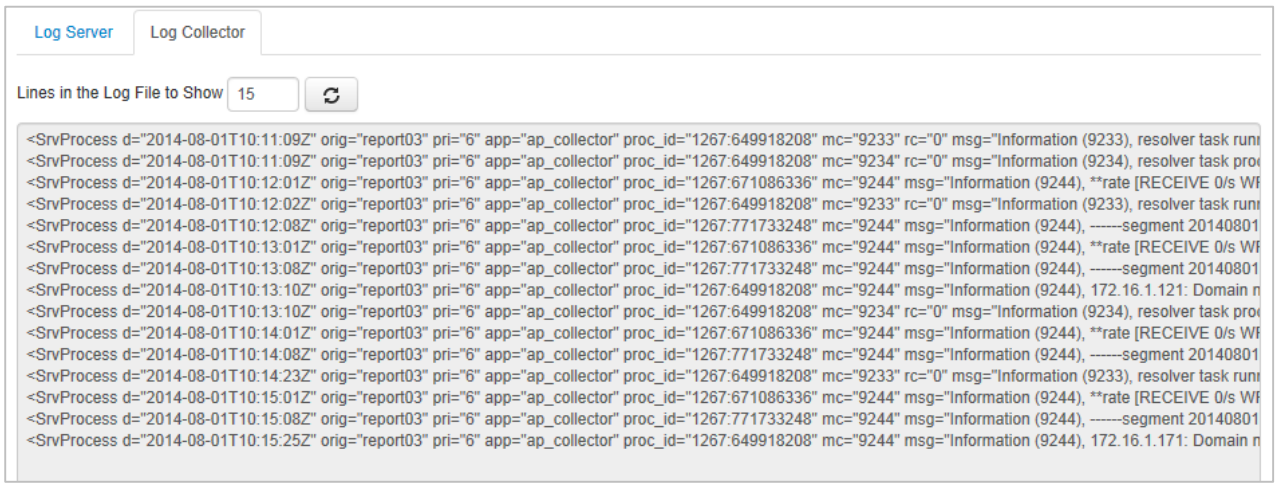
Log Messages

ログサーバーとログコレクターによって生成されたログを表示できます。表示の行数も指定できます。

Log Server タブを選択してログサーバーの表示



Log Collector タブを選択してログコレクターのログを表示



Database

Database メニューでは、データベースのモニタリングができます。

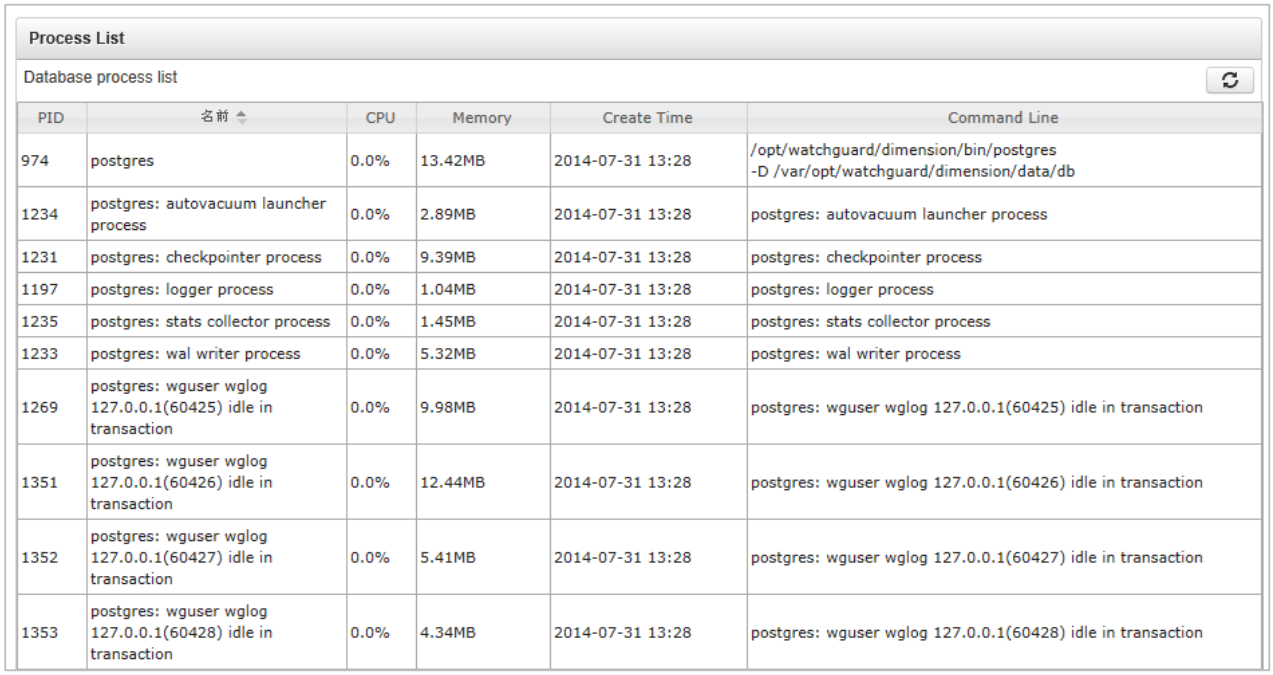
Database Status

現在のデータベースの稼働状況を確認することができます。

また、Start, Stop, Restart ボタンで、データベースの起動、停止、再起動を行なうことができます。

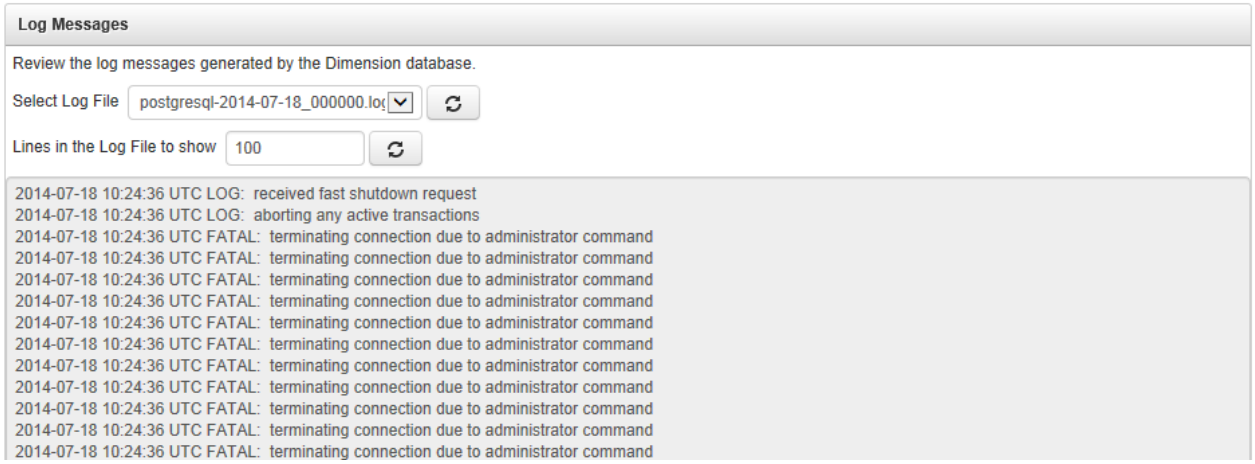
Process List

Dimension データベースである PostgreSQL のプロセスが確認できます。



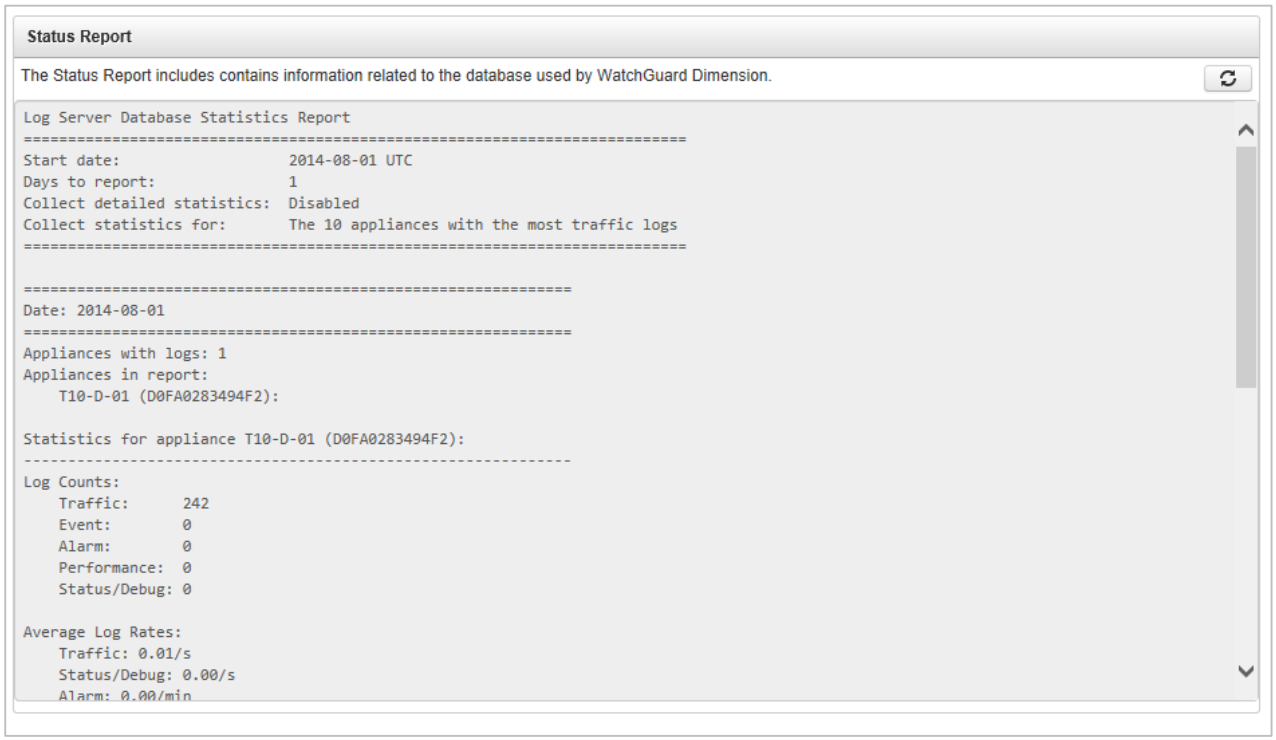
PID	名前	CPU	Memory	Create Time	Command Line
974	postgres	0.0%	13.42MB	2014-07-31 13:28	/opt/watchguard/dimension/bin/postgres -D /var/opt/watchguard/dimension/data/db
1234	postgres: autovacuum launcher process	0.0%	2.89MB	2014-07-31 13:28	postgres: autovacuum launcher process
1231	postgres: checkpointer process	0.0%	9.39MB	2014-07-31 13:28	postgres: checkpointer process
1197	postgres: logger process	0.0%	1.04MB	2014-07-31 13:28	postgres: logger process
1235	postgres: stats collector process	0.0%	1.45MB	2014-07-31 13:28	postgres: stats collector process
1233	postgres: wal writer process	0.0%	5.32MB	2014-07-31 13:28	postgres: wal writer process
1269	postgres: wguser wglog 127.0.0.1(60425) idle in transaction	0.0%	9.98MB	2014-07-31 13:28	postgres: wguser wglog 127.0.0.1(60425) idle in transaction
1351	postgres: wguser wglog 127.0.0.1(60426) idle in transaction	0.0%	12.44MB	2014-07-31 13:28	postgres: wguser wglog 127.0.0.1(60426) idle in transaction
1352	postgres: wguser wglog 127.0.0.1(60427) idle in transaction	0.0%	5.41MB	2014-07-31 13:28	postgres: wguser wglog 127.0.0.1(60427) idle in transaction
1353	postgres: wguser wglog 127.0.0.1(60428) idle in transaction	0.0%	4.34MB	2014-07-31 13:28	postgres: wguser wglog 127.0.0.1(60428) idle in transaction

Log Messages



Status Report

Status Report では、Dimension に接続されているデバイス、およびログサーバーやデータベースの統計情報が含まれます。ログメッセージ数やデータベースのレコード数、テーブルのサイズ情報が含まれていますので、Dimension サーバーのストレージ要件を決定するのに役立ちます。



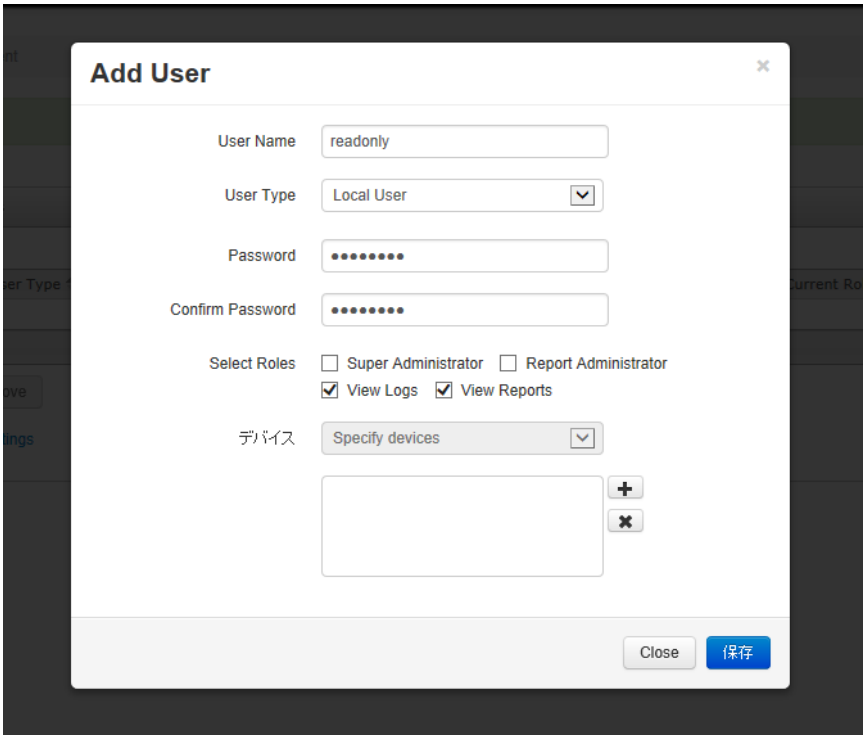
User Management

User Management では、Dimension に接続するユーザーの新規追加、編集、削除ができます。また割り当てる Role(役割)もユーザーごとに細かく指定できます。

ユーザーの追加

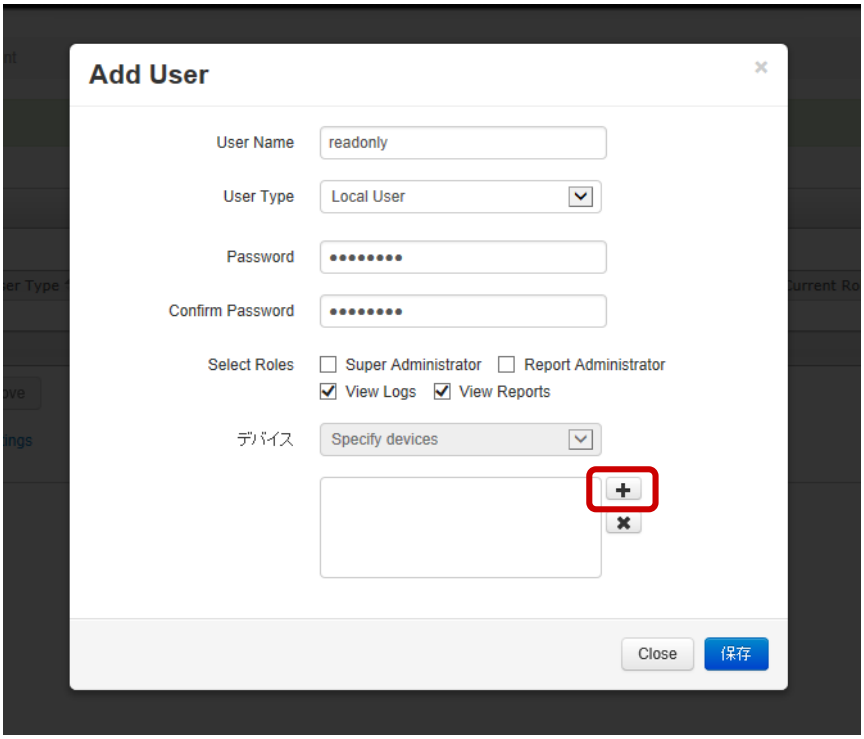
Add ボタンをクリックします。

ユーザー追加画面になります。User Name, Password, Confirm Password, に新規ユーザーの名前とパスワードを入力します。



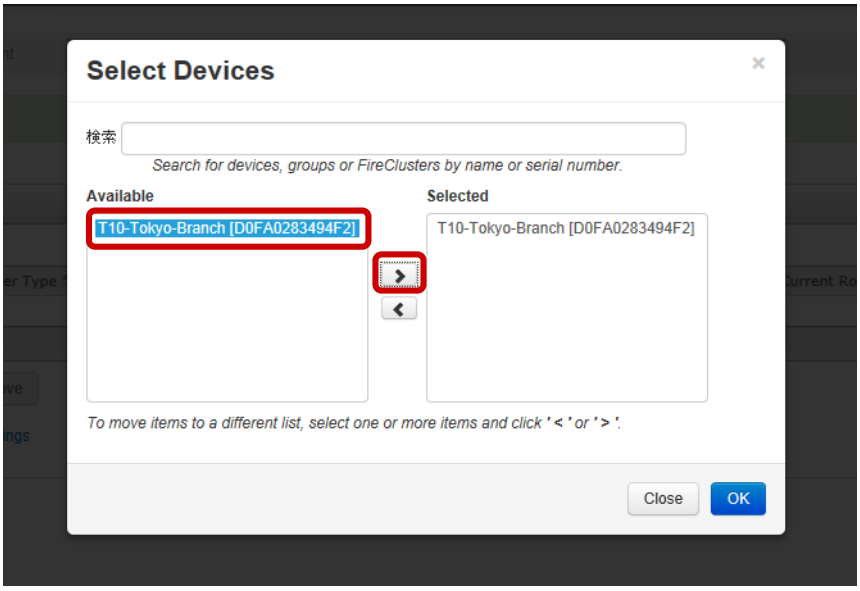
Select Roles は、付与する権限と役割を設定します。ログとレポートの閲覧だけなら View Logs と View Reports にチェックを入れます。ログは見せないでレポートだけ見せたい場合は、View Reports のみをチェックします。

次に、どのデバイスのレポートの閲覧を許可するのか、設定します。デバイスのセクションにある ＋ ボタンをクリックします。

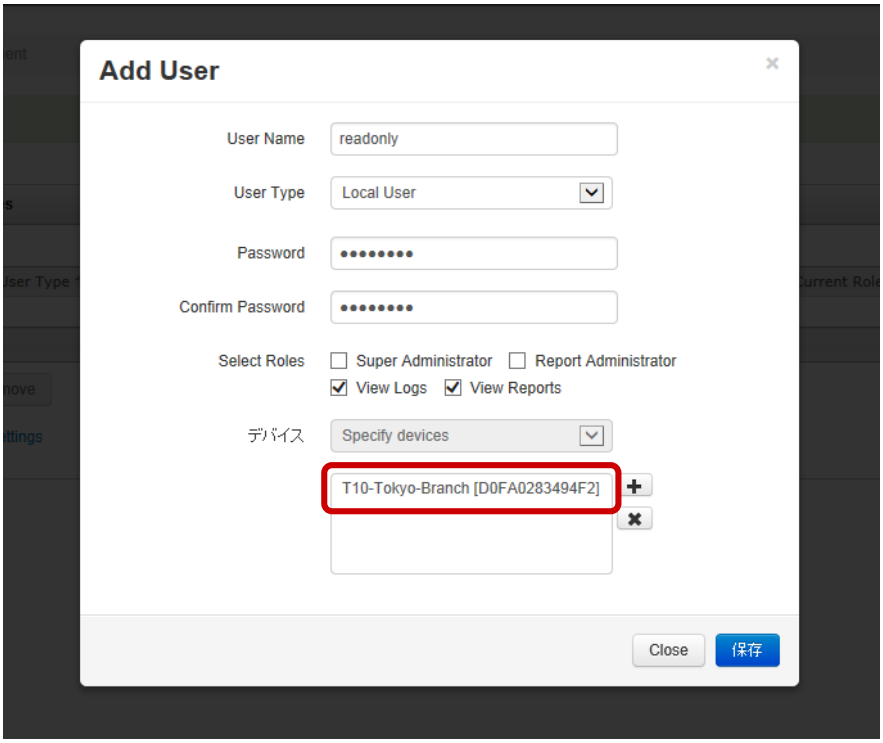


左側に閲覧可能なデバイスの一覧が表示されています。

その中から閲覧させてよいデバイスを選択し、＞ ボタンで右側の閲覧させるデバイスをコピーします。



OK で Add User の画面に戻ると、追加するユーザーが閲覧できるデバイスが追加されているのを確認できます。

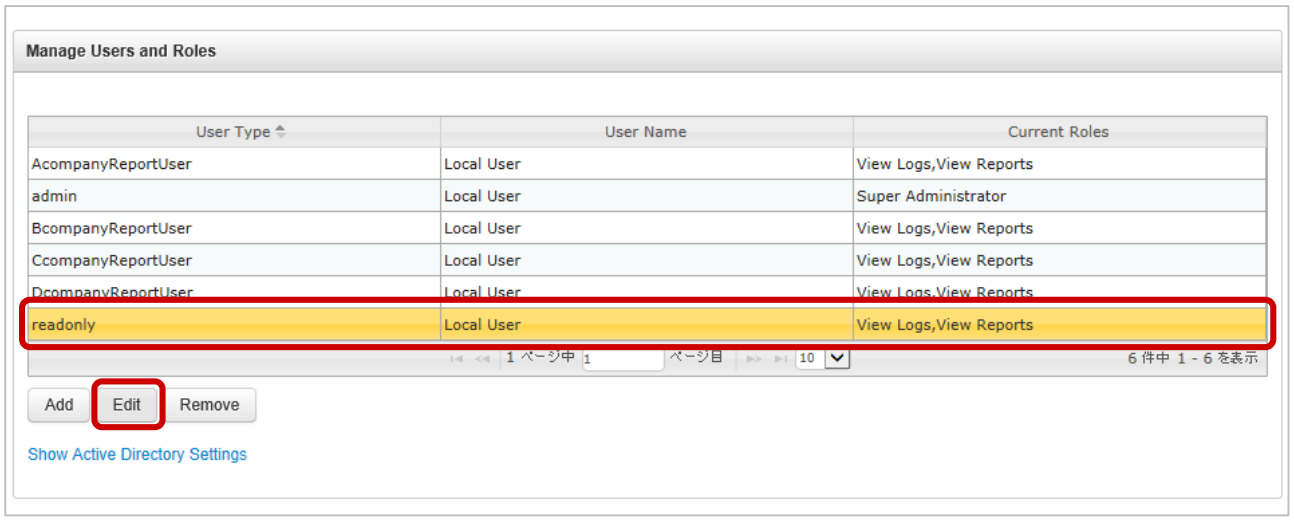


保存ボタンをクリックして、設定を反映させます。

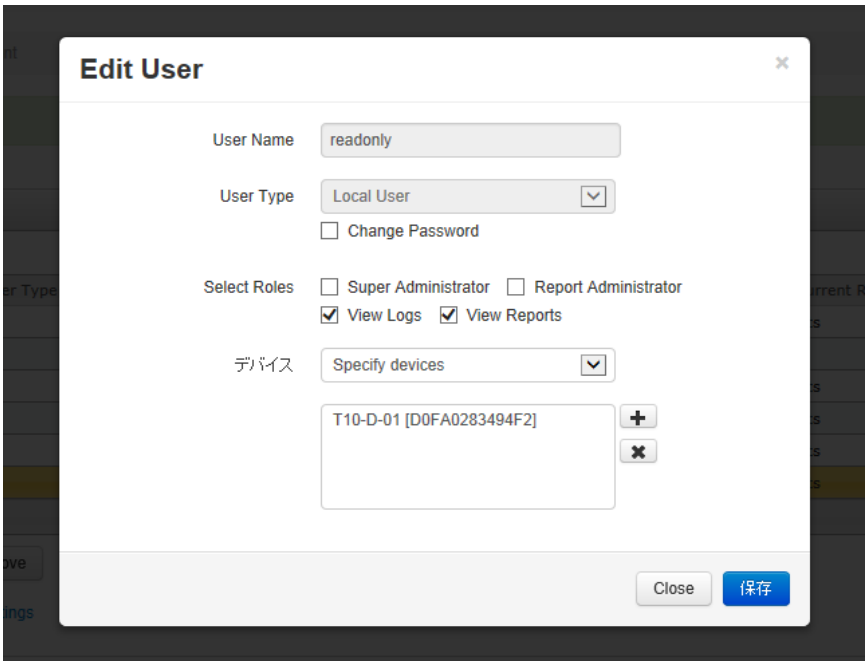
User management の画面に戻ると、readonly ユーザーが追加されているのを確認できます。

ユーザーの編集

編集したいユーザーを選択し、Edit ボタンをクリックします。



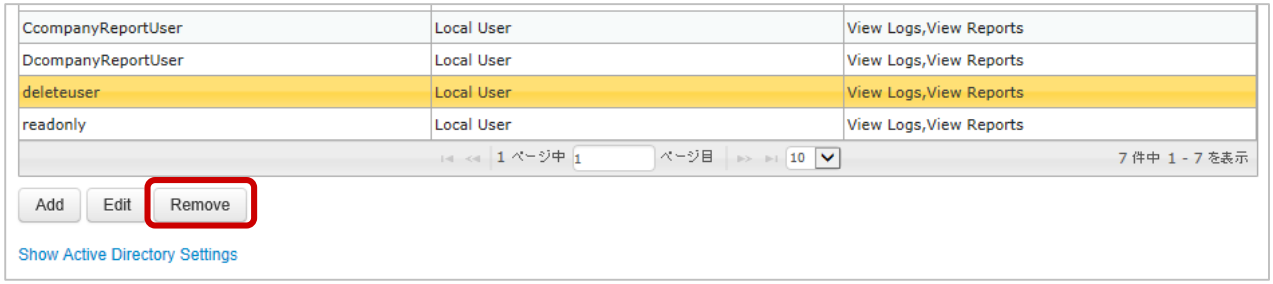
変更したい項目を修正します。



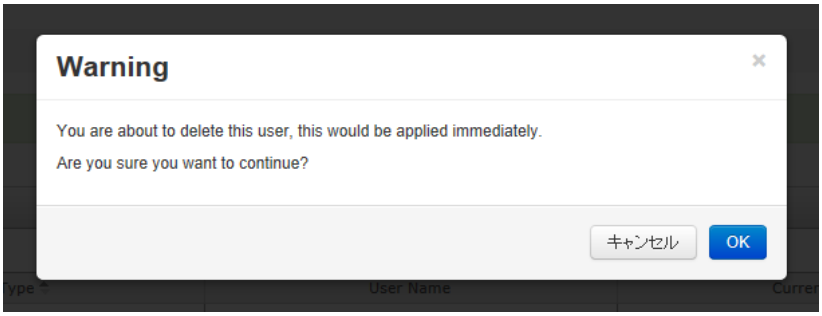
User Name は変更できません。

ユーザーの削除

削除対象のユーザーを選択し、Remove ボタンをクリックします。



警告がでますので、OK をクリックします。

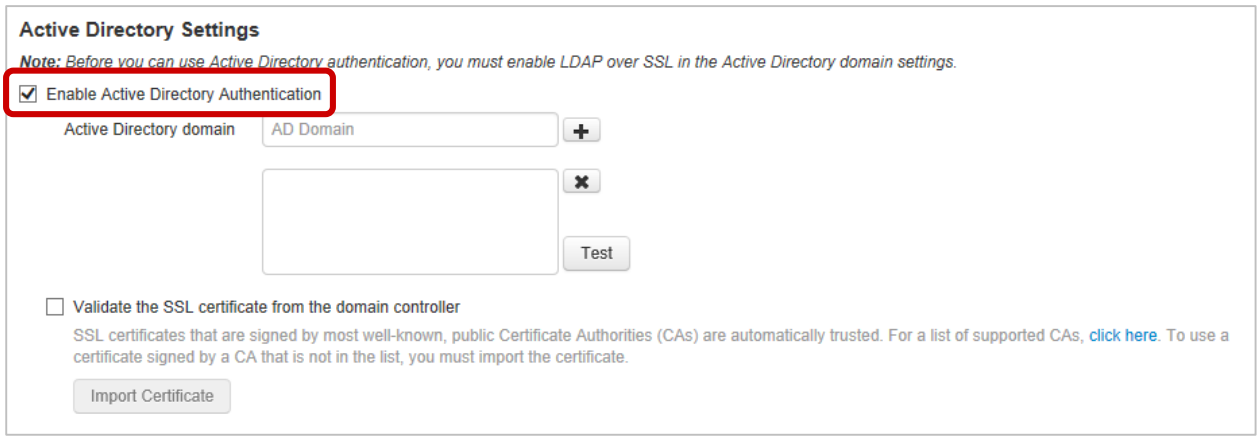


以上で削除が完了します。

Active Directory を利用する

Active Directory 認証を有効にするには、AD との有効な接続がひとつ以上あり、AD サーバーの SSL 証明書をインポートしておく必要があります。

設定をするには、Show Active Directory Settings を開きます。



以下、手順のみ掲載します。

1. Enable Active Directory Authentication にチェックを入れます。
2. Active Directory Domain で Active Directory サーバーのドメインを入力し ＋ をクリックします。ドメイン名が一覧に表示されます。
3. Test ボタンをクリックします。ディメンションでは、Active Directory サーバーに接続を確立できることを確認します。
4. ドメイン コントローラー上の SSL 証明書が有効であることを確認するには、Validate the SSL certificate from the domain controller のチェック ボックスを選択します。
5. 保存をクリックします。

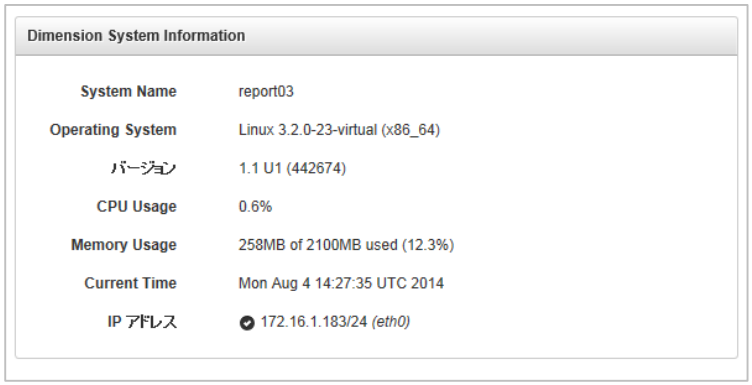
System Settings

System Settings メニューからは、Dimension のステータス確認、システム保守のためのタスクを実行できます。Status, Configuration, Diagnostics のセクションに分かれています。

Status

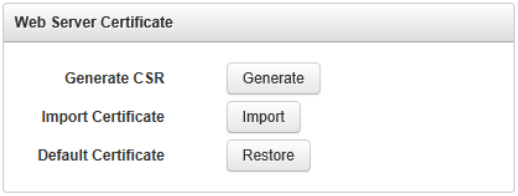
Dimension System Information

Dimension のシステムの状態を確認できます。ここで利用できる情報は、Dimension をインストールした仮想マシンプラットフォームに依存します。



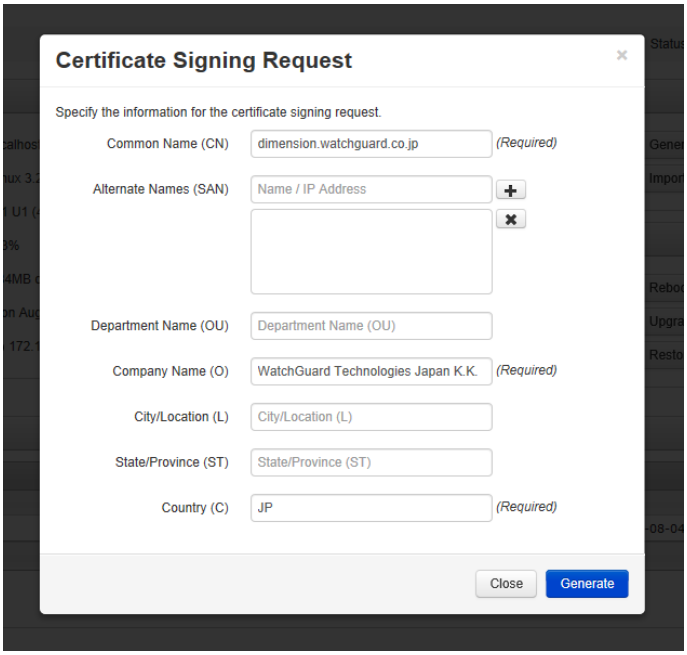
Web Server Certificate

このセクションでは、CSR ファイルの生成、証明書のインポート、CA 証明書の管理できます。



Generate CSR

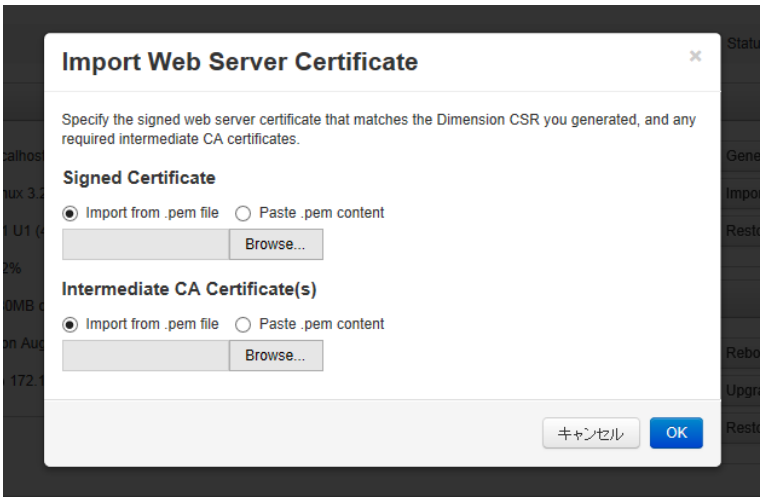
CSR ファイルを生成します。Generate ボタンをクリックすると、Certificate Signing Request ダイアログが表示されます。Common name, Company Name, Country を入力します。それ以外の項目はオプションです。



Import Certificate

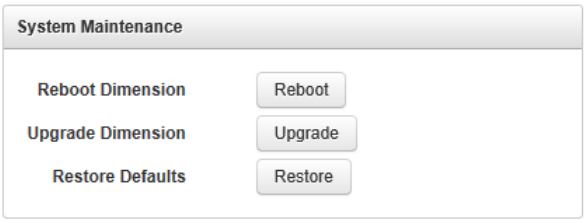
Web サーバー証明書をインポートするには Import Certificate ボタンをクリックします。

Import Web Server Certificate の画面になるので Import from .pen file で証明書ファイルを読み込むか、Paste .pen content を選択して証明書の内容を貼り付けてインポートすることができます。



System Maintenance

このセクションでは、Dimension の再起動、Dimension のアップグレード、Dimension のリストアができます。



Reboot Dimension

Dimension を安全に再起動します。

Upgrade Dimension

後述の Dimension のアップグレード手順を参照してください。

Restore Defaults

Dimension をデフォルトの状態に戻すことができます。これを実行すると、Dimension を仮想マシンプラットフォームにデプロイした直後の状態になります。

デフォルト状態の Dimension を利用するには、再度初期セットアップウィザードの手順を実施してください。

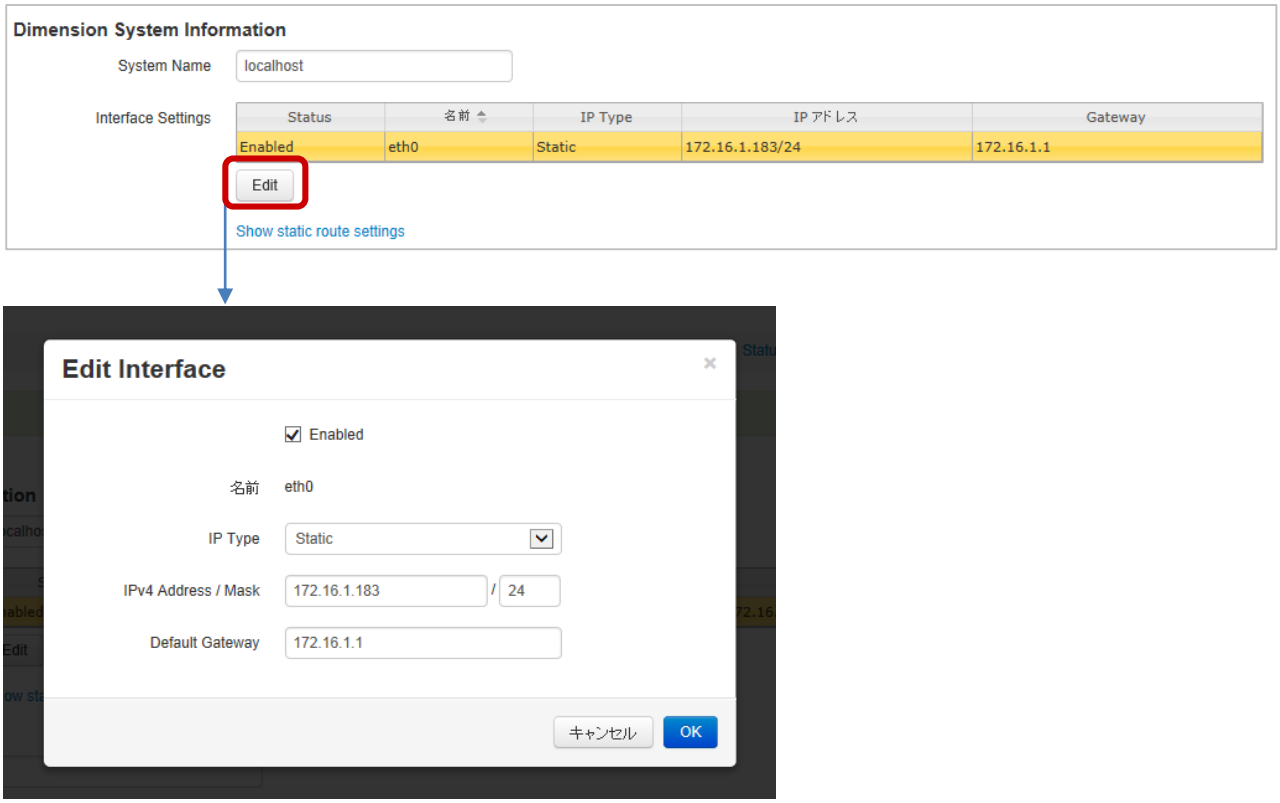
Configuration

このセクションでは、Dimension のセットアップウィザードで設定した、ネットワークインターフェースや他の項目の設定変更ができます。また、DNS や NTP サーバーの設定も変更できます。

Dimension System Information

Dimension サーバーのホスト名とネットワーク インターフェースの情報を参照できます。

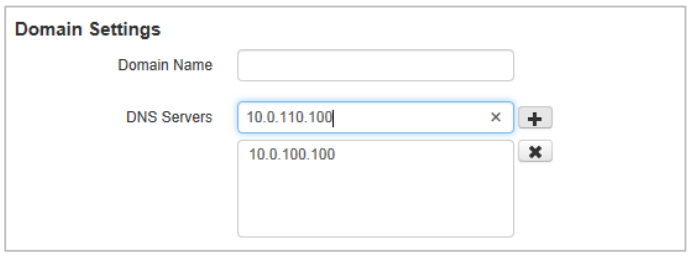
Edit ボタンをクリックすると、設定変更が可能です。



Show static route settings のリンクをクリックすると、静的ルートの追加・編集・削除が行なえます。

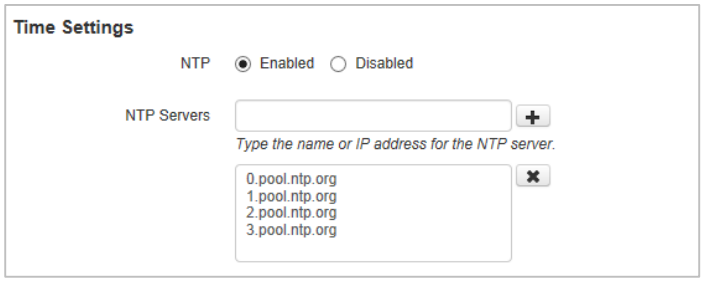
Domain Settings

DNS サーバーの追加と削除が行なえます。



Time Settings

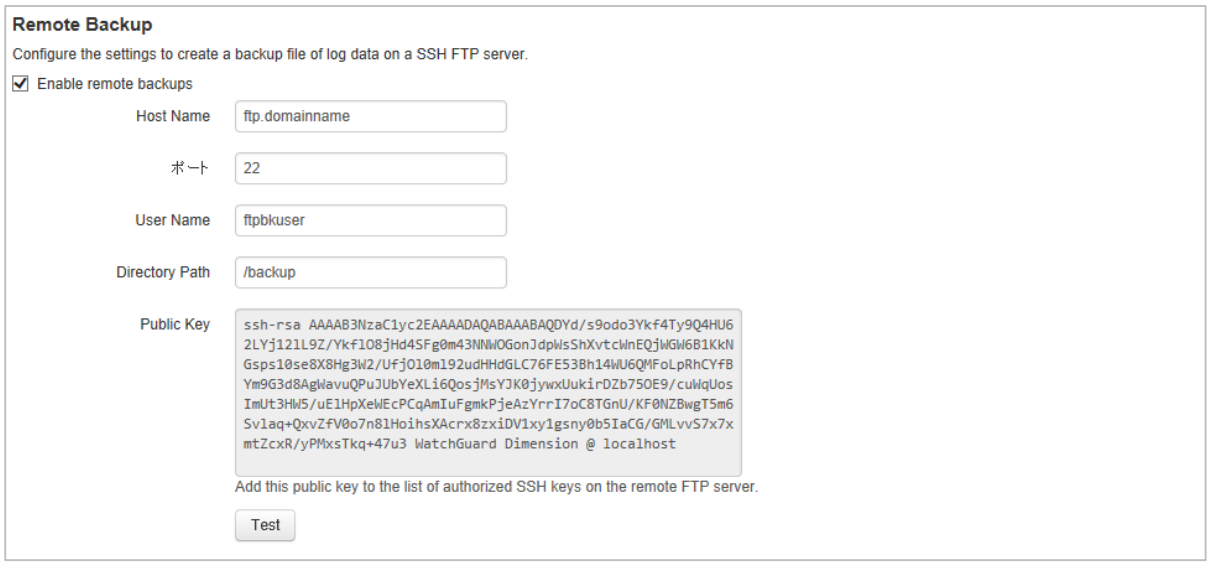
NTP サーバーの参照の有効化・無効化、NTP サーバーの追加と削除が行なえます。



Remote Backup

ログサーバーDB のログデータのバックアップをリモートホストに保存できます。SSH FTP サーバーがあり、RSA キーに基づく認証がサポートされている必要があります。

Enable remote backups にチェックを入れ、各項目にサーバー情報を入力してください。



設定を変更したら、保存ボタンをクリックし、設定を反映させてください。

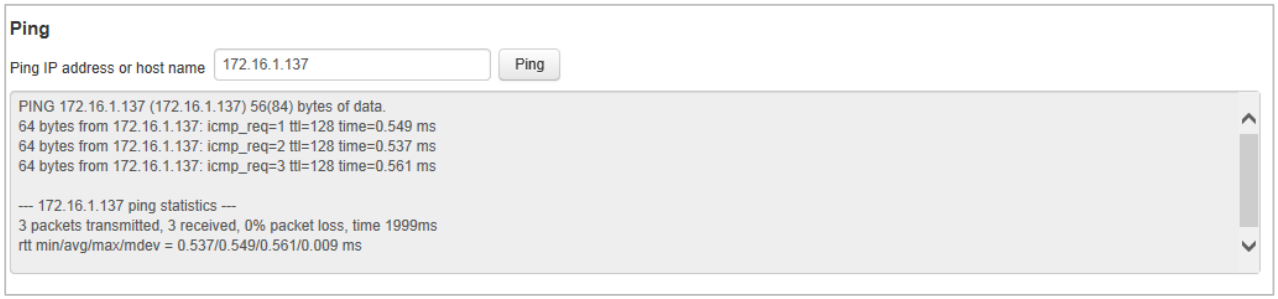
Diagnostics

このセクションでは、オペレーティングシステムおよび Dimension サーバーの診断タスクを実行できます。

Operating System タブ

Ping

ping コマンドを実行できます。



System Diagnostics

診断情報の取得ができます。ダウンロードボタンをクリックすると、wg_dimension_support.tgz という名前のファイルをダウンロードできます。

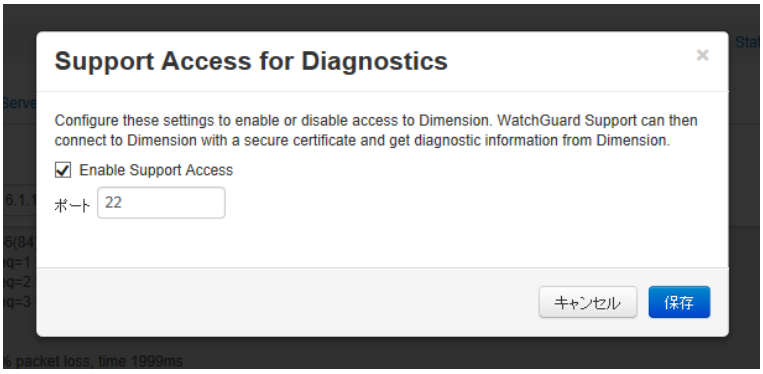
サポートを受ける際にこのファイルを求められたら、ダウンロードボタンをクリックし、取得してください。

Support Access for Diagnostics

SSH でのアクセスを有効にします。これはウォッチガードのサポートを受ける際にリモートでのアクセスを許可するなどの目的で設定します。

Configure ボタンをクリックします。

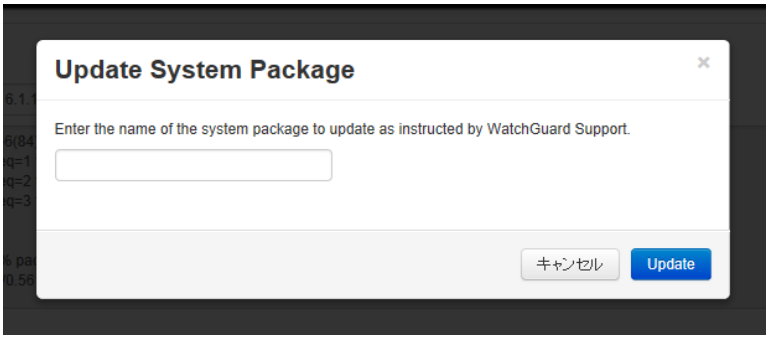
Support Access for Diagnostics ダイアログが表示されますので、Enable Support Access にチェックを入れます。ポートは 22 のままか、他のポートを使用するには別の番号を入力します。



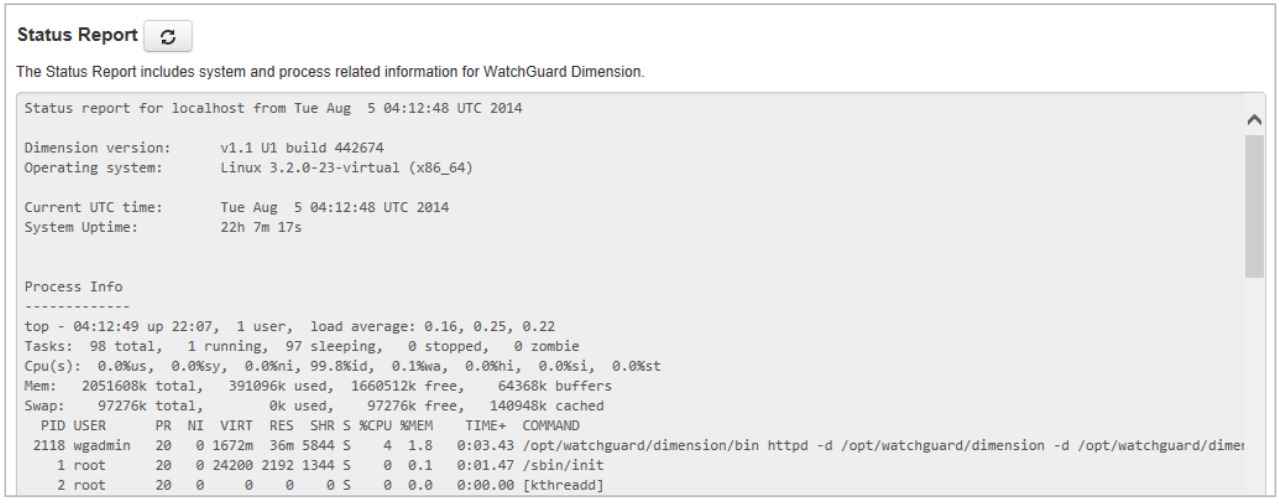
Update System Package

問題解決のために、ウォッチガード サポートから指定された更新パッケージを適用するためのものです。

Update System Package でアップデートファイルを指定し、Update ボタンをクリックします。



Status Report

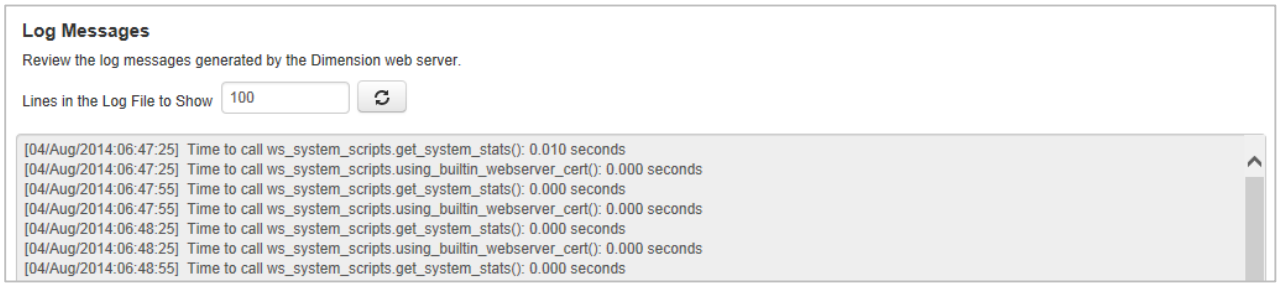


Process Information

Dimension サーバーのプロセス情報を参照できます。

Log Messages

Dimension のウェブサーバーから出力されたログを見ることができます。



DIMENSION のアップグレード手順

Dimension は機能の向上やバグフィクスのため、時折アップデートが行なわれます。ここに記載された手順に沿って、必要に応じてアップグレード作業を実施してください。

事前準備

Dimension のアップグレードに当たっては、あらかじめウォッチガード ポータル(US)のサポートページより、アップグレード用のファイルをダウンロードしておきます。

必要なファイルは以下のとおりです（[X]と[Y]の部分はバージョンを表わす数字になります）。

WatchGuard Dimension OS X.Y Upgrade File

watchguard-dimension_[X]_[Y]_apt.tgz

バージョンによっては次のファイルも必要になります。

WatchGuard Dimension OS X.Y Upgrade Preparation File

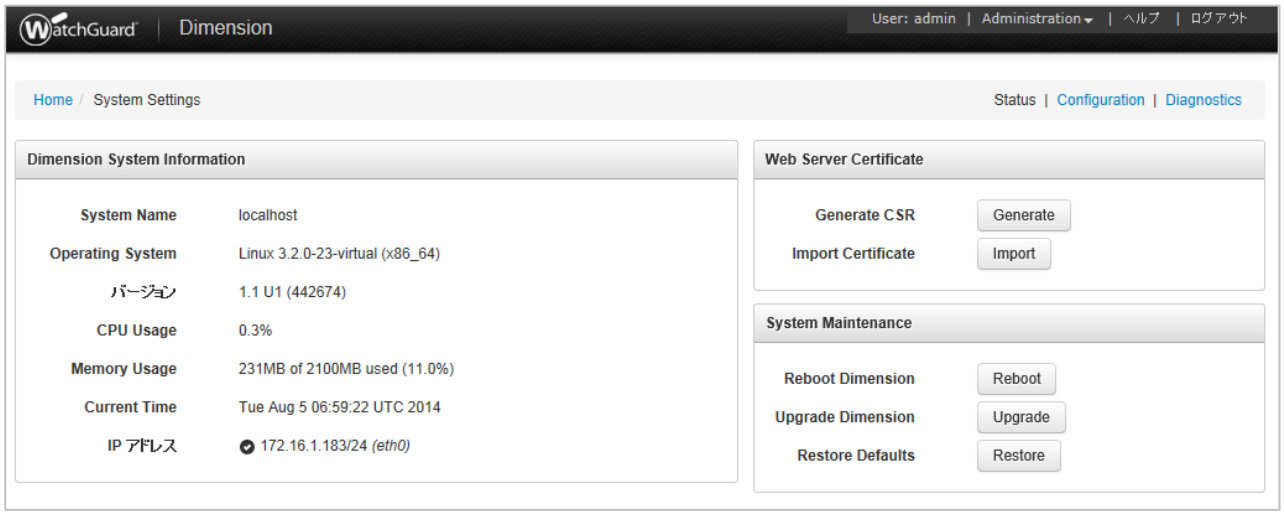
watchguard-dimension_[X]_[Y]_amd64.deb

例えば、1.0 から 1.2 にアップグレードする際には、この Preparation File でのアップグレードが必要になる、などのケースがあります。ダウンロードする際にリリースノートでご確認ください。

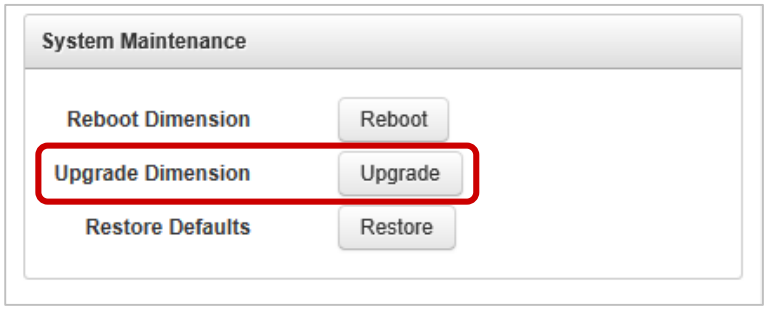
この手順書では、WatchGuard Dimension OS X.Y Upgrade File のみの手順を解説します。

アップグレード手順

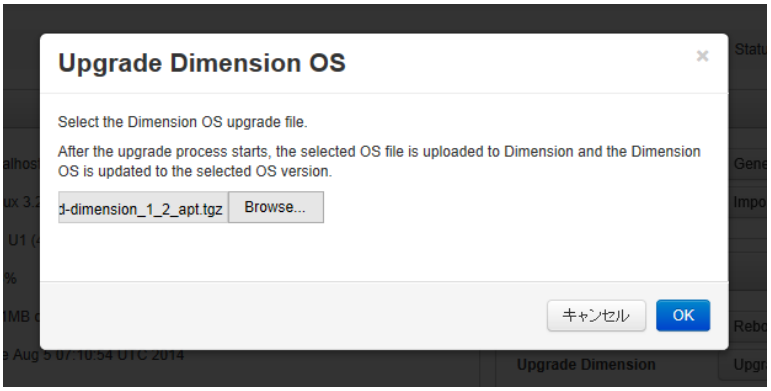
Administration メニューー System Settings を開きます。



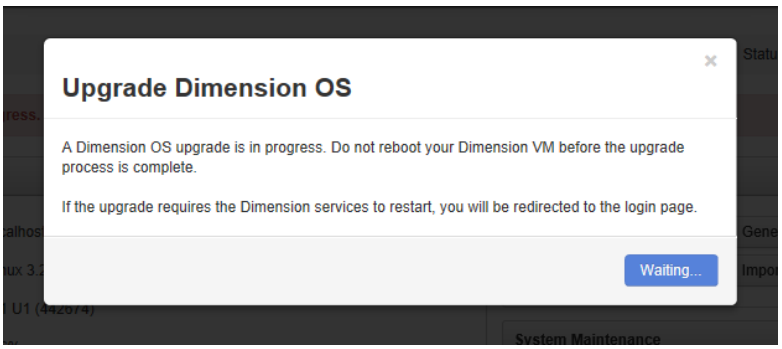
そのページの System Maintenance エリアにある Upgrade Dimension の項の Upgrade ボタンをクリックします。



Upgrade Dimension OS のダイアログで、アップグレード用のファイルを選択し、OK をクリックします。



アップグレード中であることが表示されます。この間、一切の操作を控えてください。



アップグレードが完了すると、自動的にログイン画面にリダイレクトしますので、再度ログインしてください。

Administration メニューー System Settings を開き、Dimension System Information のバージョンを確認し、目的のバージョンになっていたら、アップグレードは成功です。

おわりに

Dimension スタートアップガイドをご活用いただき、ありがとうございます。

このガイドを通して、Dimension の導入がいかに容易か、MSSP としていかにスピーディーにセキュリティ可視化ソリューションを提供できるか、実感していただけたと思います。

WatchGuard XTM が御社のセキュリティ向上にお役に立てれば幸いです。